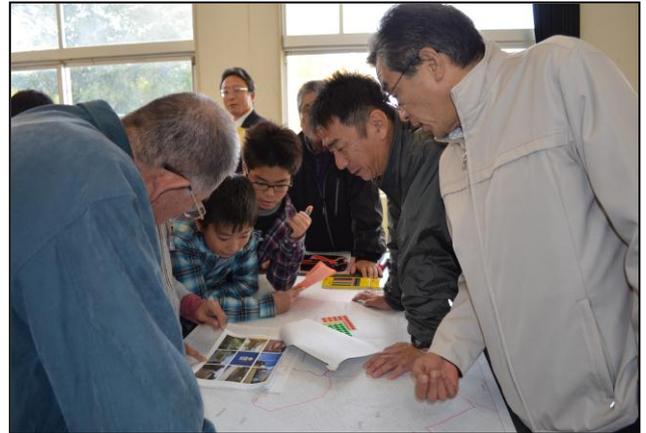




平成25年度 学社融合実践集録



平成26年 3月

田辺市教育委員会

はじめに

『毎朝、「おはようございます。」の元気の良い挨拶。 私の一日の始まりです。』

これは、学社融合で子どもたちと関わってくださった地域の方からのお手紙の一部分です。子どもたちと楽しい時間を過ごし、心が癒され、子どもたちの成長を楽しみにしてくださっているのです。そして、毎朝子どもたちと交わす挨拶が、一日の活力となっているようなのです。

このように、学社融合の成果が、市内各地で様々な形として見受けられます。

田辺市では、「学社融合の推進」と「基礎基本の徹底」を、学校教育推進の二本柱として掲げ、田辺市教育行政基本方針の最重点項目にするとともに各地区の公民館と連携を図りながら、地域の教育資源・人材を活用し、様々な取組を進めてきております。

昨年8月24日・25日の両日にわたって、ここ田辺市を会場として開催されました「第17回融合フォーラム in 和歌山2013」には、約500人の参加者があり、その中で、全国の事例を紹介していただく事ができました。本市からも8つの事例を提案し、参加された方々からは、地域の特色を活かした取組として高く評価していただきました。

また、文部科学省の補助事業として、平成23年・24年・25年の3年間取組んだ「学校支援地域本部事業（共育コミュニティ本部事業）」の4地域の発表も、昨年度と今年度の2年間に分けて発表会を終える事ができました。各会場には、300人から400人の参加者があり、内容も、地域や学校の課題を解決するために、学校・家庭・地域のそれぞれが持っている力を出し合い、素晴らしい発表会となりました。4地域ともに3年間の取組の成果を十分に発揮していただきました。

冒頭にも紹介しましたが、田辺市の学社融合は、内容も年々充実し、地域の特色を活かした取組として発展しています。そして、このことは、学校側にだけメリットを得るものではなく、授業に参画し協働して取組んでくださるボランティアの方々に、子どもを共に育てようとする主体意識を喚起しながらメリットを共有し、連帯の輪を広げ、地域の活性化に寄与していると考えています。

今後も、全ての園・学校での学社融合の推進を公民館と連携して進め、教育活動の充実と地域の活性化に努めてまいりたいと考えています。

最後になりましたが、お忙しい中、ご講評頂きました越田幸洋先生に心よりお礼申し上げますと共に、本冊子（実践集録）が有効に活用され、田辺市の学社融合の実践が更に前進することを期待しています。

平成26年3月

田辺市教育委員会 教育長 中村 久仁生

目 次

[小学校]

| | |
|---------|----|
| 田辺第一小学校 | 1 |
| 田辺第二小学校 | 3 |
| 田辺第三小学校 | 5 |
| 芳養小学校 | 7 |
| 大坊小学校 | 9 |
| 新庄小学校 | 11 |
| 新庄第二小学校 | 13 |
| 稲成小学校 | 15 |
| 田辺東部小学校 | 17 |
| 会津小学校 | 19 |
| 上芳養小学校 | 21 |
| 中芳養小学校 | 23 |
| 上秋津小学校 | 25 |
| 秋津川小学校 | 27 |
| 三栖小学校 | 29 |
| 長野小学校 | 31 |
| 伏菟野小学校 | 33 |
| 咲楽小学校 | 35 |
| 中山路小学校 | 37 |
| 上山路小学校 | 39 |
| 龍神小学校 | 41 |
| 中辺路小学校 | 43 |
| 近野小学校 | 45 |
| 鮎川小学校 | 47 |
| 三川小学校 | 49 |
| 富里小学校 | 51 |
| 本宮小学校 | 53 |
| 三里小学校 | 55 |

[中学校]

| | |
|--------|----|
| 東陽中学校 | 57 |
| 明洋中学校 | 59 |
| 高雄中学校 | 61 |
| 新庄中学校 | 63 |
| 上芳養中学校 | 65 |
| 中芳養中学校 | 67 |
| 上秋津中学校 | 69 |
| 秋津川中学校 | 71 |
| 衣笠中学校 | 73 |
| 長野中学校 | 75 |
| 龍神中学校 | 77 |
| 中辺路中学校 | 79 |
| 近野中学校 | 81 |
| 大塔中学校 | 83 |
| 本宮中学校 | 85 |

[幼稚園]

| | |
|--------|----|
| 新庄幼稚園 | 87 |
| 三栖幼稚園 | 89 |
| 上秋津幼稚園 | 91 |
| 中芳養幼稚園 | 93 |

[講評]95

(学社融合研究所 越田 幸洋 先生)

平成25年度
学社融合
実践集録

学社融合活動実施報告

| | | | | |
|---|--|---|---|--------|
| 学校名 | | 田辺第一小学校 | 公民館名 | 中部公民館 |
| <p>学社融合における学校・地域の様子</p> <p>本校の校区は、城下町の名残が豊かで、その地名や産業などがそれを示している歴史と伝統にあふれる地域である。田辺市の中心として商店街が栄え、現在も商店の再生・活性化をはかる人々が様々な取り組みを進めている。また、南方熊楠や片山哲などゆかりの偉人も多く、大変熱心に学校教育活動を支援してくれる人材に恵まれている。これらの地域の人材や資源を生かし本校では、従来から、教科・総合的な学習の時間・クラブ活動などに地域の方をゲストティーチャーとして招いた活動を取り入れている。さらに、平成21年度から3年間、「地域の教育力を生かした学社融合事業の推進」をテーマに教育委員会指定研究に取り組んできた実績を生かすことができる。</p> | | | | |
| 活動名 | | 読み聞かせ・ブックトーク・おはなし会 | 学年・教科・領域等 | 全学年・国語 |
| 目標 | 学校 | <ul style="list-style-type: none"> ・地域の方とふれあいながら、読書の楽しさを体験することができる。 ・さまざまな作品に触れることにより、豊かな感性や情操を育むことができる。 ・ブックトーク授業を通して、読みたい本の枠を広げることができる。 | | |
| | 公民館（地域） | <ul style="list-style-type: none"> ・本を中心とした活動を進める中で、児童と地域の交流が生まれ、大人と児童の相互に「地域の一員」という意識を育むことができる。 ・活動を通して交流を深める中で、互いが学び合っていることを自覚し、双方向性のあるつながりを築くことができる。 | | |
| <p>支援者及び支援組織</p> <p>田辺第一小学校の保護者・地域の方 中部公民館読み聞かせサークル「リーブル」</p> | | | | |
| <p>取り組みの経過(日時・ねらい・活動内容等)</p> | | | | |
| 日時 | 活動名・活動内容 | | ねらい、活動の様子など | |
| 不定期 | <ul style="list-style-type: none"> ・保護者ボランティアによる小学校多目的ホールの図書整備 | | <ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちが早く読めるように新刊の整理や、多目的ホールと図書室の整備を行っていただいた。 | |
| | <ul style="list-style-type: none"> ・リーブルによる公民館ロビー図書コーナーの整備・地域への寄贈呼びかけ | | <ul style="list-style-type: none"> ・図書整備ボランティア・地域のみなさんのご協力により、約900冊の本が整備され充実したものとなっている。 | |
| 全学年 毎月2回 実施 | <ul style="list-style-type: none"> ・朝の読み聞かせ活動（小学校の各学級で、リーブルのメンバーによるボランティアが授業前の朝の時間に定例的に本の読み聞かせを実施。） | | <ul style="list-style-type: none"> ・授業に入る前の子どもたちの集中力を高め、その後の授業にスムーズに移行していく効果があった。また、子どもたちが継続的に本と接触する機会が増え、読書習慣の定着にも貢献した。 | |
| 11月19日 | <ul style="list-style-type: none"> ・ブックトーク授業（各学級の国語科の授業にて、リーブルの読み聞かせメンバーが様々な工夫を凝らして本の紹介を行った。） | | <ul style="list-style-type: none"> ・各学年の国語科授業と関連づけて、それを広げながら子どもたちが本を読みたくなる意識づけ、本を選択する際の手がかりとなった。 | |
| 7月12日 12月24日 | <ul style="list-style-type: none"> ・夏のおはなし会、冬のおはなし会（長期休暇中の行事として、公民館・リーブルにて開催。童話や昔話、絵本の読み聞かせ、暗闇の中で絵が浮き上がるブラックライトパネルシアターの上演などを行った。おはなし会終了後、参加者には手作りのしおりをプレゼントした。） | | <ul style="list-style-type: none"> ・さまざまな手法によるおはなし会を開催することで、子どもたちがより本を好きになるきっかけづくりとなった。 | |
| <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>多くの参加があった夏のおはなし会</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>各学級での朝の読み聞かせの様子</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>国語の授業でのブックトーク</p> </div> </div> | | | | |

| | 成 果 | 課 題 |
|--------------|--|---|
| 学 校 | <ul style="list-style-type: none"> ・地域のサークル活動と国語の授業を融合させたことにより、子どもと大人が共に読書活動を楽しむことができた。 ・授業前の朝の時間に読み聞かせをすることで、子どもたちの集中力を高め、授業への移行がスムーズになった。 ・地域のみなさんへ図書寄贈の呼びかけや、図書コーナーを整備していただけることは、より良い環境で多くの本と出会えることにつながっている。 | <ul style="list-style-type: none"> ・図書委員会の児童と共に、利用しやすい図書室の運営を心がけていかなければならない。 ・学級図書を整備し、適度な入れ替えも検討していきたい。 ・子どもたちが求めている本を見極め連絡するなど、サークルのみなさんとの連絡や打ち合わせを、きめ細やかにしていくことが大切である。 |
| * 子どもにとって | <ul style="list-style-type: none"> ・地域の方々による夏の夜のおはなし会、冬のおはなし会は身近に感じ、ブラックライト蛍光灯の光を当てると暗闇の中で絵が浮き上がるブラックライトパネルシアターの上演は、大変興味深いものになった。 | <ul style="list-style-type: none"> ・図書委員会の児童と共に、利用したくなる図書室の運営を心がけていかなければならない。 ・読んで印象に残った本を紹介し合うなどの活動を充実させたい。 |
| * 子どもにとって | <ul style="list-style-type: none"> ・読書を通じて多くの言葉に出会うことで「国語力」や「知識」を身につけ、また、さまざまな作品に出会うことで「想像力」「感受性」「思いやり」「道徳心」といった要素を児童が涵養し豊かな人間性を培うことに役立つことができた。 | <ul style="list-style-type: none"> ・高学年になるほど、児童の興味も多様化してくる。定期的開催している読み聞かせなどで、児童がどのような本に興味を示し読みたいのかを見極めながら、さらに良い読書活動につなげられるようにしたい。 |
| 地 域 (公民館) | <ul style="list-style-type: none"> ・継続的な活動を通じた関わりの中で、読み聞かせボランティアと子どもたちの絆が生まれ、ボランティアメンバーのやりがいや学びへとつながった。 ・継続的に整備し続けている、公民館ロビーの図書コーナーを地域の方にも利用していただくことで公民館と地域の距離が縮まり、新たな交流を生むきっかけとなった。 | <ul style="list-style-type: none"> ・年度当初やブックトーク開催直前に、各学年で読み聞かせボランティアと担任との打ち合わせを行い、各学級での学習状況や様子に合わせた読み聞かせ・ブックトークの内容にすることができた。 ・読み聞かせボランティア間で活動に関する情報の共有を図っているが、今後継続的に活動を展開する上で、全体会議等の場でそれらの情報や意見を集約し、議事録を残してメンバー交代時の引継ぎ等がスムーズにできるようにしたい。 |

評価及び次年度に向けての取り組みの方向

○評価

- ・リーブルのみなさんに読み聞かせを行っていただくおかげで、さらに本が好きになる子どもが増えてきている。
- ・読み聞かせてもらった本を早速図書室で借りるなど、今まで読んでいた本以外に様々な領域の本と出会うようになっている。
- ・パネルシアターなど工夫を凝らしていただくことで、子どもたちはより熱中し、聞く態度が大変良くなっている。また、声色を変えたり、間の取り方を変えたりしながら聞かせていくことは、子どもたちの読み方にもいい影響を与えている。
- ・地域の方々とのつながりの深いリーブルのみなさんが、先頭に立って本の寄贈の呼びかけや、図書コーナーの整備を定期的に行うことで、子どもたちにとって常に読書活動の環境が整っている状態である。
- ・今年度は、保護者ボランティアの方が市立図書館へ出向き、専門的に新刊本の整理の仕方などについて研修を受け、学校図書に生かしてくれた。
- ・子どもたちは、読書を通して地域の方と出会い、大事にさせていただいているという実感が持てている。

○次年度に向けての取り組みの方向

- ・子どもたちの読書活動の充実に向けて、引き続きリーブルのみなさんとのつながりを保っていききたい。リーブルのメンバーの方の中には、直接の保護者もおられるので、学校と地域(保護者)と公民館が、子どもたちの感動する心と読書力を高めることを目標に、可能な限り連絡を取り合い、取り組みを進めていきたい。
- ・読み聞かせをしていただいている感想を伝えるなどして交流しながら、子どもたちの求めている本を探る試みも続けていきたい。

学社融合活動実施報告

| | | | |
|--|--------------|--|----------|
| 学校名 | 田辺第二小学校 | 公民館名 | 東部・南部公民館 |
| 学社融合における学校・地域の様子 | | | |
| <p>本校は「地域の活動に参加し、ふるさとを愛する子」を教育目標のひとつに掲げ、地域にある2つの公民館と連携を図りながら学社融合の取組を進めているところである。具体的には第2土曜日に実施している「いけばな子ども教室」、公民館で行われる文化展への児童の作品出品、幼保小中及び地域と合同で行われる地震津波避難合同訓練など、数多くの取組が挙げられる。</p> <p>その中でも沿岸部に位置する本校や地域にとって、防災に対する取組は共通の重要課題である。そこで、これらを中心に学社融合の取組を推進し、学校・公民館・地域とのさらなる連携強化を図っていきたい。</p> | | | |
| 活動名 | 防災安全学習への取組より | 学年・教科・領域等 | 全学年・学級活動 |
| 目 標 | 学校 | 南海トラフ巨大地震の発生が懸念される中、沿岸部に位置する本校にとって防災安全学習への取組を充実させることは大変重要である。これらのことを通して、主体的な判断力・行動力を持った子どもたちを育てていきたい。 | |
| | 公民館（地域） | 地震津波防災に対する課題は、地域住民にとって切実なものであり、それゆえ地域全体としての関心も高い。地域住民・地域と学校とのつながりを強化し、自助・共助の重要性を理解し、さらにその意識を高める機会としたい。 | |
| 支援者及び支援組織 | | | |
| 学校 東部・南部公民館 東陽中学校 紀南看護専門学校 立正幼稚園 みどり保育所 あゆみ保育所 紀南幼稚園 交通指導員 | | | |
| 取り組みの経過(日時・ねらい・活動内容等) | | | |
| 月 日 | 活動名 | 活動内容 | |
| 5月20日 | 合同避難訓練打ち合わせ会 | 6月に行われる合同避難訓練への参加体制や避難ルート等についての計画を行う。 | |
| 6月6日 ～27日 | 学年別防災参観日 | 6月を防災安全教育強化月間と位置付け、低中高学年別に防災安全学習に関わった参観日を実施した。授業後の懇談会では、「犠牲者ゼロを目指して」のDVD視聴をきっかけとし、防災に関わった問題や取組みを懇談のテーマとした。 | |
| 6月7日 | 第1回合同避難訓練 | 当日は高学年が低学年を誘導する形で避難した。また地域住民だけでなく、新校舎建築現場の方も参加してくれた。 | |
| 6月19日 | 地区懇談会打ち合わせ会 | 「地域防災」をひとつのテーマとして懇談会を開催するための計画を行う。 | |
| 6月21日 | 合同避難訓練反省会 | 合同避難訓練実施後の課題を明確にし、次回の訓練実施に向けての確認を行う。 | |
| 7月1日 | 地区懇談会 | 「犠牲者ゼロを目指して」のDVD視聴・防災安全マップ作成に向けてなど、地域住民の目から見た防災情報を交流した。 | |
| 10月29日 | 合同避難訓練打ち合わせ会 | 11月に行われる合同避難訓練への参加体制や避難ルート等についての計画を行う。 | |
| 11月13日 | 第2回合同避難訓練 | 1学期とは別ルートで避難した。また、今回は東陽中学校とも同時刻・同一場所への避難とし、実際の避難場所での状況把握を行った。 | |
| 1月24日 | 合同避難訓練打ち合わせ会 | 2月に行われる合同避難訓練への参加体制や避難ルート等についての計画を行う。 | |
| 2月7日 | 第3回合同避難訓練 | 全町内会に呼びかけを行って実施する。また、新校舎屋上への避難確認も行う。 | |

| | 成 果 | 課 題 |
|--------------|---|--|
| 学 校 | <p>○年3回の合同避難訓練の実施月を、防災安全教育の強化月間と定めた。そのことで学校の取組み状況を保護者や地域へ明確に発信することができた。</p> <p>○今年は強化月間と連動させて地区懇談会を開催した。それにより学校・家庭・地域における防災・安全教育を中心に話し合いの場を持つことができ、情報や課題を共有することができた。</p> | <p>○登下校時の避難場所について保護者と共に確認することはできたが、実際地域の方と一緒に避難場所を確認することはできなかった。具体的な情報共有のためにも、来年度はぜひ検討していきたい。</p> <p>○防災に関わった問題は、子どもにとっても、保護者にとっても、地域にとっても、また学校にとっても身近で切実な問題である。そのためにも今後もさらに連携を強化していくことが重要である。</p> |
| * 子どもにとって | <p>○防災マップ作りでは、子どもたちが改めて地域を見直すきっかけとなり、災害が起こったときの避難について具体的にイメージすることができた。</p> <p>○特に2学期の合同避難訓練においては、同時刻、同一場所に避難する訓練を行った。避難経路での人の多さや避難場所での込み具合などが分かり、より現実的な訓練になったように思われる。</p> | <p>○子どもたちに自分の命を守ることの難しさ・大切さを実感させることはできたものの、今后来るべき災害に対する減災意識の向上や主体的な判断力の向上など、さらに継続的な取組みが必要である。</p> |
| * 子どもにとって | <p>○年間を通して防災安全学習に対する取組みを継続させたことで、子どもたちは自分の住んでいる地域に目を向け、自分のまわりの「もの・人・こと」に少しずつ関心を持つようになった。</p> | <p>○学校での避難訓練にはしっかりと取り組めるが、地域での防災訓練へは子どもたちの参加が少ない。これからも積極的な参加を促し、地域の方々とのつながりを深め、いざというときには自助だけでなく、地域の一員として共助の意識を育てるきっかけとさせたい。</p> |
| 地 域 (公民館) | <p>○地区懇談会でもDVD視聴を行ったことで、「津波でんでんこ」の重要性を改めて理解することができた。また、それをきっかけに地域防災に対する取組みを振り返ったり、危険箇所の確認を行ったりすることができた。</p> <p>○防災に強い地域づくりとして、人的なつながりを強め、それらに対する意識付けを図ることができた。</p> | <p>○地域防災には地域住民みんなの意識を高めることが重要であるが、地域での防災学習や訓練、または地区懇談会などに対して、保護者世代の参加を促すように働きかけていきたい。</p> <p>○新校舎屋上への避難確認は行うことができたが、来年度の早い段階で実際にその場に避難する機会を持っていきたい。</p> |

評価及び次年度に向けての取組みの方向

田二第一小学校 地区懇談会
懇談テーマ 『児童の健全育成に向けて』
サブテーマ 一学校・一地区・一地域における防災・安全教育を中心として

「田二っ子を育てる会」のご案内
7月1日(月)に開催

子どもたちの健全な成長のためには学校、家庭、地域社会が連携協力して、子どもたちの教育にあたる必要があります。
この会では、まず学校や育友会の取組み、学校での子どもたちの様子をお伝えします。地域での子どもたちの様子でお見づきのことを教えて下さい。
また、防災についても意見交換をしたいと思います。
校区内にお住まいの方、お勤めの方…どなたでも気軽にご参加下さい。

各地区同じ日に行います
開催日：7月1日(月)
開催時間：午後7時30分

田二第一小学校
田二第二小学校
田二第三小学校
田二第四小学校
田二第五小学校
田二第六小学校
田二第七小学校
田二第八小学校
田二第九小学校
田二第十小学校

問い合わせ先：田二小 22-6427

これらの取組みを通してお互いの問題を共有化することができた点は大きい。例えば、学校としては子どもたちを無事に避難させるために交通量の多い道路を横断しなければならない。そのためには地域の方々の協力を得る必要がある。また、地域では高齢者が多く、高台へ避難するには厳しい現実がある。一方で、新校舎は地域の防災拠点としての機能を十分果たすことができるものとなっている。だからこそ、今後も学校の果たす役割は大きく、学校・地域・公民館との連携を強化することが重要となる。次年度は、新しい体制で防災・安全学習を深化させていきたい。



学社融合活動実施報告

| | | | |
|---|------------------|---|------------------------------------|
| 学校名 | 田辺第三小学校 | 公民館名 | 西部公民館 |
| <p>学社融合における学校・地域の様子</p> <p>○本校は、西部公民館、西部センターや天神児童館と共同・連携しながら、各種事業や行事を行っている。地域社会の中で児童をいかに育成していくかは本校にとっての大きな課題であり、学社融合及び本年度で最終年にあたる西部地域共育コミュニティ本部事業(学校支援地域本部事業)の取り組みをその課題の中心に位置づけている。3年目をむかえたこの取り組みは、12月1日に成果発表会を行った。</p> <p>○本校は、これまで地域とともに同和教育、人権教育に取り組むなかで、西部センターとは「天神町の教育を進める会」で、天神児童館とは「西部子どもエンパワーメント支援事業」などで連携し行動してきた。西部公民館とは、公民館と学校を結ぶ事業や取り組みについて協議し、特に西部公民館主催で本校での「西部公民館・明洋中学校作品展コーナー」を実施してきた。</p> | | | |
| 活動 | 西部地域共育コミュニティ本部事業 | 学年・教科・領域等 | 各学年・国語科・算数科・生活科 ・総合的な学習の時間・特別活動 |
| 目標 | 学校 | ①子どもの教育をよりよいものとする。 ②地域の教育力を向上させ、郷土愛を育てる。 ③学社融合(生涯学習)を充実する。 | |
| | 公民館(地域) | ①学社融合をとおして、地域の子どもは、地域で育てるという意識を高めていく。 ②学校・保護者・地域のつながりを大切に、連帯感を更に深めていく。 | |
| <p>支援者及び支援組織</p> <p>西部公民館および西部町内会連絡協議会、西部老人クラブ連合会、西部地区自主防災会連絡協議会</p> | | | |
| <p>取り組みの経過(日時・ねらい・活動内容等)</p> <p>4月 1年 ひらがな教室(22～25日)、4年 天神崎の生き物(26日)</p> <p>5月 3年 柏餅を作ろう(8日)、全校 西部地区防災訓練(26日)</p> <p>6月 2年 町探検(5日)、4年 俳句をつくろう(25日)、 5年 西部花いっぱい運動・土作り(12日)英語学習(27日)、6年 ミシンエコバック作り(5～6日)</p> <p>7月 5年 西部花いっぱい運動・花植え(16日)、6年 英語学習(3日)</p> <p>9月 2年 月見団子作り(19日)、4年 天神崎クリーン作戦(西部老人クラブと合同)(20日)</p> <p>10月 1年 かたかな教室(8～11日)、2年 児童館探検(13日)、3年 そろばん学習(22～23日) 4年 俳句を作ろう(11日)、5年 英語学習(29日)、 6年 ミシンリフォーム(8日・10日)、英語学習(22日)、防災教育・体験談を聞く(22日)</p> <p>11月 5年 天神崎学習・日和山観察(6日)、西部花いっぱい運動(8日) グランドゴルフ大会(9日) 6年 グランドゴルフ大会(9日)、タウンウォッチング(19日)</p> <p>12月 全校 成果発表会(1日)</p> <p>1月 2年 七草がゆ作り、5年 ミシンぞうきん作り、6年 防災学習発表会</p> <p>2月 3年 昔のくらし、4年 俳句をつくろう、5年 英語学習、6年 英語学習、外国文化にふれよう</p> | | | |
| <p>2013年12月1日(日)西部地域共育コミュニティ本部事業成果発表会の様子</p> | | | |
|  | |  | |
|  | |  | |
|  | |  | |
|  | |  | |
| | |  | |
| | |  | |

| | 成 果 | 課 題 |
|--------------|---|--|
| 学 校 | 地域の方に支援いただくことで専門的な知識(俳句・そろばん・ミシン等)を教えていただき、その経験からアドバイスいただくことで学習活動を広げ、深めることができた。また、教師が児童のニーズに即したきめ細やかな指導を行うことができ、学習効果が高まった。本事業の展開は、家庭やPTAに対し子どもの健やかな成長や支援の在り方の示唆が多くあった。家庭での学年別の学習の仕方を「家庭学習の手引き」として提示し、また、基本的な生活習慣の見直しに向けた「田三小 BOOK はなまるデー(ノーゲーム、ノーテレビの日:毎月13日実施)」の取組も徐々に効果が出てきている。 | (1)西部地域共育コミュニティ組織体制の再構築 (2)各専門委員会別事業の充実と今後を見据えた事業展開 (3)更なるマンパワー(地域コーディネーター・学習ボランティア:OK先生)の拡大 (4)西部地域共育コミュニティが今後目ざす方向性と学社融合 |
| * 子どもにとって | 地域の人材を活用した授業で専門的な知識に触れ、『驚き』や『あこがれ』の感情と、「やってみたい。」という児童の学習意欲に繋げることができた。また、学習支援ボランティア(OK先生)の励ましや賞賛の言葉掛けで学習意欲の向上や心の安定と成長に繋がった。 | 目標「①子どもの教育をよりよいものとする」ために、 ・学習の楽しさや学びがい、学習意欲の向上 ・地域の課題となる学習(防災学習・環境学習等)とふるさとへの愛着 ・「生きる力」の育みと学社融合の更なる充実 |
| * 子どもにとって | 西部地域共育コミュニティ本部の取組みをおして地域の方々だけではなく、園児や中学生等幅広い年齢層の方々との交流を持つことができた | ・学習支援ボランティアさんが学校へ来てくれていることのありがたさや感謝の心を持ち続けてほしい。 |
| 地 域 (公民館) | 西部地域共育コミュニティ本部「学力向上専門委員会」では、西部老人クラブの方々からOK先生(学習支援ボランティア)として御尽力いただきました。その声からは、「子どもたちの顔を見たい。」「声を聞きたい。」「触れ合いたい。」といった声を聞くことができ、生涯学習の観点から、生き甲斐づくりへと着実に前進している。 | ・学習支援ボランティアをしていただいている方々が固定化してきているので、もっと幅広い年齢層の方々を登用していく手立てが必要である。 ・本年度から地域コーディネーターが、公民館主事と新たに地域から2人加わったので、今後の更なる発展を目指して取り組んでいきたい。 |

評価及び次年度に向けての取り組みの方向

○コミュニティ本部の立ち上げ当初は、協力していただける方々も少なかったが、時を重ねるごとに協力者も着実に増えてきている。公民館だよりや学校だより等で広報することや、共育コミュニティ事務局が一丸となって、町内会や老人会・各種団体・保・幼・小・中学校に小まめに足を運び説明に行くことが信頼関係へと結びつき、事業の発展につながったのだと思う。また、各専門委員会の学習では、子どもたちのためにと、多くの学習支援ボランティアの方々が来校してくださり、「子どもと先生」だけの授業形態ではなく、地域の方々が入った、より効率的な授業を展開することができた。

○防災教育専門委員会では、西部町内会連絡協議会や西部地区自主防災会連絡協議会と共に西部地区独自の防災避難訓練を実施することができた。本年度からは西部地区防災訓練実行委員会を発足させ、住民ひとり一人が主体性をもって、地域全体が参加しやすい内容にするなどし、参加者数は昨年度を上回った。子どもたちも地域の一員として参加することで、地域住民とのつながりや防災・減災学習を深めることができた。

※これまで、西部地域共育コミュニティ本部「環境教育専門委員会」、「防災教育専門委員会」、「学力向上専門委員会」、「合同事業推進専門委員会」の取組みを勢力的に行なってきたが、引き続き、当取組みを継承していく計画を起案している。

学社融合活動実施報告

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|--|------------------------------|---|-----------------------|-----------------------|------------------------|------------------------------|-------|--------|--------------------------|-------|-------|--------------------|-------|-----------|--------------------------|-------|-----------|--------------------|-------|-------|-------------------------|--|-------|-------------------------|--|
| 学校名 | | 芳養小学校 | 公民館名 | 芳養公民館 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| <p>学社融合における学校・地域の様子</p> <p>・芳養小学校では、「芳養共育コミュニティ本部(21団体)を基盤として「子どもたちの安全・安心に関する取り組み」「育友会としての取り組み」「地域の伝統文化の継承」「公民館との連携した取り組み」など、学校・家庭・地域・公民館が一体となった子どもの健全育成を図るとともに、学社融合の取り組みを進めている。地域の教育力を生かした授業にも、地域の方々がSP(スクールパートナー)として参画し、担任と共に授業を作り上げている。また、平成19年から実行委員会を立ち上げスタートした「芳養ふれあい教室」では、多くの地域の方々が主体的に教室運営を行っている。講師も協力者も完全無償のボランティアであり、今年で7年目になる。どの教室についても、みんな「生きがい」や「やりがい」を感じながら積極的に取り組みを進めている。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 活動名 | | 地域の教育力を生かした授業・活動 | 学年・教科・領域等 全学年と地域住民 | 生活科・総合的な学習 社会科・国語科 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 目標 | 学校 | <p>・『地域の教育力を生かした授業の創造』に積極的に取り組み、地域のさまざまな大人との出会いや、子どもに多くの感動的体験を味わわせることを大切に考えるとともに、地域の人々が持つ専門性によって、より確かな知識や実践力を育むことができるようにする。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 公民館(地域) | <p>・地域の教育力を生かし、学校の授業や活動に支援することで、地域の活性化へとつなげる。 ・地域の方々が学校や子どもたちの様子を知ること、今後の地域づくりに生かす。 ・学校外においても子どもたちの自立を支援していく。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| <p>支援者及び支援組織</p> <p>・保護者、地域の方(団体・個人)、婦人会、公民館、田辺市産業部水産課、社会福祉協議会</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| <p>取り組みの経過(日時・ねらい・活動内容等)</p> <p>・上記の目標を念頭に各学年で公民館(地域)と連携を密に図り、積極的に取り組んでいる。 以下はそれぞれ学年の実践である。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| <p>・第1学年</p> <table border="0"> <tr> <td>6月24日</td> <td>・生活科「よもぎだんごづくり」</td> <td>SP 6人</td> </tr> <tr> <td>12月 6日</td> <td>・生活科「童謡をいっしょに歌おう」</td> <td>SP11人</td> </tr> </table> | | | | | 6月24日 | ・生活科「よもぎだんごづくり」 | SP 6人 | 12月 6日 | ・生活科「童謡をいっしょに歌おう」 | SP11人 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 6月24日 | ・生活科「よもぎだんごづくり」 | SP 6人 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 12月 6日 | ・生活科「童謡をいっしょに歌おう」 | SP11人 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| <p>・第2学年</p> <table border="0"> <tr> <td>6月 7日</td> <td>・生活科「校区を探険しよう」</td> <td>SP 8人</td> </tr> <tr> <td>11月 8日</td> <td>・生活科「おもいパーティーをしよう」</td> <td>SP 6人</td> </tr> </table> | | | | | 6月 7日 | ・生活科「校区を探険しよう」 | SP 8人 | 11月 8日 | ・生活科「おもいパーティーをしよう」 | SP 6人 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 6月 7日 | ・生活科「校区を探険しよう」 | SP 8人 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 11月 8日 | ・生活科「おもいパーティーをしよう」 | SP 6人 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| <p>・第3学年</p> <table border="0"> <tr> <td>5月 9日</td> <td>・国語科・書写</td> <td>SP 1人</td> </tr> <tr> <td>11月26日</td> <td>・総合的な学習「芳養の町の仕事名人」</td> <td>SP 2人</td> </tr> </table> | | | | | 5月 9日 | ・国語科・書写 | SP 1人 | 11月26日 | ・総合的な学習「芳養の町の仕事名人」 | SP 2人 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 5月 9日 | ・国語科・書写 | SP 1人 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 11月26日 | ・総合的な学習「芳養の町の仕事名人」 | SP 2人 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| <p>・第4学年</p> <table border="0"> <tr> <td colspan="2">・総合的な学習「心のバリアフリーを広げよう」</td> <td></td> </tr> <tr> <td>6月12日</td> <td>1、共に生きる</td> <td>SP 1人</td> </tr> <tr> <td>6月28日</td> <td>2、肢体障害について知ろう、考えよう</td> <td>SP 2人</td> </tr> <tr> <td>10月21・22日</td> <td>3、視覚障害について知ろう、考えよう</td> <td>SP 3人</td> </tr> <tr> <td>11月18・25日</td> <td>4、聴覚障害について知ろう、考えよう</td> <td>SP 6人</td> </tr> <tr> <td>2月13日</td> <td>5、発達障害について知ろう、考えよう (予定)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>2月25日</td> <td>6、老人福祉について知ろう、考えよう (予定)</td> <td></td> </tr> </table> | | | | | ・総合的な学習「心のバリアフリーを広げよう」 | | | 6月12日 | 1、共に生きる | SP 1人 | 6月28日 | 2、肢体障害について知ろう、考えよう | SP 2人 | 10月21・22日 | 3、視覚障害について知ろう、考えよう | SP 3人 | 11月18・25日 | 4、聴覚障害について知ろう、考えよう | SP 6人 | 2月13日 | 5、発達障害について知ろう、考えよう (予定) | | 2月25日 | 6、老人福祉について知ろう、考えよう (予定) | |
| ・総合的な学習「心のバリアフリーを広げよう」 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 6月12日 | 1、共に生きる | SP 1人 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 6月28日 | 2、肢体障害について知ろう、考えよう | SP 2人 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 10月21・22日 | 3、視覚障害について知ろう、考えよう | SP 3人 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 11月18・25日 | 4、聴覚障害について知ろう、考えよう | SP 6人 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2月13日 | 5、発達障害について知ろう、考えよう (予定) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2月25日 | 6、老人福祉について知ろう、考えよう (予定) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| <p>・第5学年</p> <table border="0"> <tr> <td>5月21日</td> <td>・総合的な学習「芳養に生きる～芳養の米作りは今」</td> <td>SP 2人</td> </tr> <tr> <td>9月 3日</td> <td>・総合的な学習「芳養に生きる～芳養の産業大調査」</td> <td>SP 8人</td> </tr> <tr> <td></td> <td>・社会科「水産業のさかんな地域」</td> <td></td> </tr> <tr> <td>11月26日</td> <td>・総合的な学習「芳養に生きる～芳養の産業大調査」</td> <td>SP 2人</td> </tr> <tr> <td></td> <td>・社会科「自動車工業のさかんな地域」</td> <td></td> </tr> </table> | | | | | 5月21日 | ・総合的な学習「芳養に生きる～芳養の米作りは今」 | SP 2人 | 9月 3日 | ・総合的な学習「芳養に生きる～芳養の産業大調査」 | SP 8人 | | ・社会科「水産業のさかんな地域」 | | 11月26日 | ・総合的な学習「芳養に生きる～芳養の産業大調査」 | SP 2人 | | ・社会科「自動車工業のさかんな地域」 | | | | | | | |
| 5月21日 | ・総合的な学習「芳養に生きる～芳養の米作りは今」 | SP 2人 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 9月 3日 | ・総合的な学習「芳養に生きる～芳養の産業大調査」 | SP 8人 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | ・社会科「水産業のさかんな地域」 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 11月26日 | ・総合的な学習「芳養に生きる～芳養の産業大調査」 | SP 2人 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | ・社会科「自動車工業のさかんな地域」 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| <p>・第6学年</p> <table border="0"> <tr> <td>6月13日</td> <td>・国語科「ようこそ、わたしたちの町へ～昔の芳養小学校～」</td> <td>SP 2人</td> </tr> <tr> <td>11月28日</td> <td>・社会科「戦争と人々の暮らし」</td> <td>SP 1人</td> </tr> </table> | | | | | 6月13日 | ・国語科「ようこそ、わたしたちの町へ～昔の芳養小学校～」 | SP 2人 | 11月28日 | ・社会科「戦争と人々の暮らし」 | SP 1人 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 6月13日 | ・国語科「ようこそ、わたしたちの町へ～昔の芳養小学校～」 | SP 2人 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 11月28日 | ・社会科「戦争と人々の暮らし」 | SP 1人 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | 成 果 | 課 題 |
|--------------|--|---|
| 学 校 | <ul style="list-style-type: none"> ・地域のさまざまな大人との出会いがあり、SPの専門的な指導を受け、それを基に継続的に取り組み、その単元の学習内容を広め深め、発展させることができた。 ・1年から6年までの地域の教育力を生かした授業では、約60名のSPが学習に参加してくれた。地域の教育力の高さを実感した。 | <ul style="list-style-type: none"> ・地域の方々が授業の中に入り、協働して効果的な授業を作るための工夫や注意点・改善点について考えていきたい。 ・校外での学習活動をより安全に行うためにも、保護者による安全ボランティアをもっと充実させていきたい。 ・学社融合の方針に「地域の活性化」という言葉があるように、地域に活力を促すためにも、学校側から地域に貢献することも大切である。地域に対してどのような貢献ができるか考えたい。 |
| * 子どもにとって | <ul style="list-style-type: none"> ・子どもや担任にとって地域の新しい発見があった。 ・地域の方々（SP）から直接語って頂くと説得力があり、興味・意欲が出て、調べ学習に取り組めた。子どもにとって、授業がより分かりやすくなった。 | <ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちの興味関心が広がり、地域の方々に教えてもらった専門的な知識や情報をすべて理解することが難しい。 |
| * 子どもにとって | <ul style="list-style-type: none"> ・地域を知り、地域を誇りとする子どもたちの様子が見られた。 ・地域の場所や、人々と接することで地域を知ることが出来、学校外での安全や、健全育成に繋がった。 | <ul style="list-style-type: none"> ・一部だけの体験では、子どもたちも分からないことが多いため、作業を一通り体験させたいが、そのための時間が取り難い。今後、学校と地域が更なる連携を図り、課題解決に向け協議していく。 |
| 地 域 (公民館) | <ul style="list-style-type: none"> ・SPの方は、約60名の参画があり、子どもたちに地域の良さを伝えることで、喜びと意欲を持つことができた。 ・地域の方の学校や郷土に対する思いを再確認することができた。 | <ul style="list-style-type: none"> ・SPや協力者が固定化している傾向にあるため、今後、地域の素晴らしい人材を発掘し、活躍できる場を提供することで、地域全体の教育力の向上を図る。 |

評価及び次年度に向けての取り組みの方向

【1・2年の評価】

・公民館童謡サークルの11名の地域の方に「お正月」「桃太郎」「ひな祭り」等の童謡の良さを聴かせて頂き、日本の文化に親しむことができた。
 ・地域の様々な場所や自然、人々と接する活動をした校区探検では、保護者8名の参加があり、子どもが安全に探検できるように見守り適切な助言をしてくれた。

【3・4年の評価】

・「芳養の町の仕事名人」の学習で、早田水産の仕事の間近に見て、交流することができた。見学後には新聞を作り、お礼の手紙を書き、届けた。子どもたちは意欲的に取り組めた。
 ・身体障害についての学習は、車椅子体験を行った。視覚障害の学習は、アイマスク体験と点字体験を行った。聴覚障害の学習では、手話体験を行った。以上の学習から実際に話を聞いて体験することで、内容を深く受け止めることができた。また、自分たちにできることをしっかり考えることができた。

【5・6年の評価】

・地域で行われている産業「①農業②水産業③自動車工業」を見学し、体験することで、自分たちが暮らしている地域の産業について、興味・関心を高めることができた。
 ・戦争と人々のくらしの単元では、戦争中の人々のくらし、当時考えていたことなどを地域の方に語ってもらった。実際に体験された方の話を聞くと、戦争や平和についてより深く考える機会になった。

※次年度に向けての取り組みの方向

1、地域の教育力を生かした授業の「実践記録」を残し、次年度の授業に活用したい。
 2、学校と地域とが結びついた様々な活動の取り組みの中で、地域の活性化のために学校側から地域に貢献することも大切である。地域に対してどのような貢献ができるか考えたい。

学社融合活動実施報告

| | | | | |
|--|---------|--|---|-----------|
| 学校名 | | 大坊小学校 | 公民館名 | 芳養公民館 |
| <p>学社融合における学校・地域の様子</p> <p>車で10分足らずで市街地に行くことができるが、急な坂道のため児童だけでは自由に市街地まで行くことはできない。その関係で、市中心部で催しがあっても自主的な参加はほとんど望めない。同様に芳養公民館での行事に児童が参加することにも難しさがある。</p> <p>しかし、校区内や地域での行事にはほとんどの家庭が積極的に参加し、参観日等への出席率も高い。地域住民はこの地で農業をする家庭と地域外へ仕事に出る家庭に大別され、若い世代は地域外に出ていることが多い。また、高齢者でも元気な人は農作業をし、働いている人がほとんどである。農繁期を考慮して学校行事を行うと、地域の参加者が得られやすく、協力してもらうことができる。地域全体が穏やかで、いつも子どもたちを温かく見守ってくれている。</p> | | | | |
| 活動名 | | | 収穫祭「サツマイモ料理を楽しもう」 | 学年・教科・領域等 |
| | | | 全校 | 特別活動 |
| 目標 | 学校 | <ul style="list-style-type: none"> 縦割り班で活動することで、リーダーを中心として活動する力を育てる。 共に収穫を祝うことで、作物の世話への意欲につなげる | | |
| | 公民館（地域） | <ul style="list-style-type: none"> 子どもたちが収穫した食材で料理し、楽しく会食し、共に収穫を祝う。 地域住民・保護者が学校に集い、活動することで相互のつながりを深める。 | | |
| <p>支援者及び支援組織</p> <p>大坊小学校育友会</p> | | | | |
| <p>取り組みの経過(日時・ねらい・活動内容等)</p> <p>関係者会議等について</p> <p>5月2日(木) 育友会役員会で本年度の行事について共通理解をはかる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 育友会行事について話し合う中で、収穫祭での取り組みを説明し、協力を求める。 <p>10月4日(金) 収穫祭世話係り等決定</p> <ul style="list-style-type: none"> お母さんの中から世話役(リーダー)を決め、自主的な取り組みを進めてもらう。メニュー等は、児童の活動との兼ね合いを考慮し決定してくれることになる。 <p>11月12日(火) 参加者等相談会</p> <ul style="list-style-type: none"> 参観授業の後、リーダーのお母さんを中心に当日の参加体制等について相談する。学校主導ではなく、お母さんたちの意欲的な活動となる。 <p>15日(金) メニュー検討会 大人班役割分担等</p> <ul style="list-style-type: none"> 児童班のメニュー決定を受け、大人班は、献立のバランスを考えメニューを決定する。材料・用具等、学校で準備できないものについてはお母さんを中心として不足分の準備を相談する。 事前準備の必要な食材については、リーダーを中心に下準備をする。 <p>19日(月) 材料買出し・用具準備</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校で買出しを行うので、必要なものを学校に報告。 用具や教室準備は、大人班のメニューを考慮し児童が準備に当たる。 <p>20日(水) 収穫祭当日</p> <ul style="list-style-type: none"> 大人班参加者が学校に集まり、調理を行う。 <p>12:00をめぐりに大人班、児童班3班が一同に集まり、各班の料理を配膳。各班の料理紹介をし会食する。</p> | | | | |
| | | | <p>大人班の調理</p> <p>さつまいもチップサラダ</p> <p>いもおこわ</p> | |
| | | |  | |

| | 成 果 | 課 題 |
|--------------|--|---|
| 学 校 | <ul style="list-style-type: none"> ・大人チームとして料理を提供してもらうことでより楽しい会食をすることができた。 ・普段の授業では見られないリーダー性や児童の関係等が見え、肯定的な評価ができる場となった。 ・保護者同士、地域、学校のつながりを深める時間とすることができ、地域に開かれた学校の実現に近づけた。 | <ul style="list-style-type: none"> ・サツマイモを使い自分たちに作れるメニューを考えることに難しさがある。また相談の時間確保を工夫し、高学年児童の負担が大きくなりすぎないようにしていく。 |
| * 子どもにとって | <ul style="list-style-type: none"> ・高学年がリーダーシップを発揮し料理等進めていく姿を、大人の人に見てもらえることができ、他の活動への意欲が高まった。 ・作物の世話、メニューの工夫等、子どもたちのがんばりを認めてもらい、楽しみを共有することができた。 | <ul style="list-style-type: none"> ・植え付けから収穫まで長期にわたるので、畑の手入れ等大人任せにならないよう縦割り班で活動意欲を維持できるようにする。 |
| * 子どもにとって | <ul style="list-style-type: none"> ・地域の方との交流が深まり、自分たちの畑作業が校外の人々から評価される。 | <ul style="list-style-type: none"> ・児童の縦割り班の活動は今後も大人に頼らず自分たちで完成できるように、リーダーを育てていく。 |
| 地 域 (公民館) | <ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちと活動することは、互いをよく知る機会となり、地域の子どもの見守る姿勢へとつながった。 ・子どもたちに畑作業の楽しさを知ってもらうよい機会となった。 | <ul style="list-style-type: none"> ・保護者間でのつながりを保護者、地域住民へのつながりと世代を超えてつなげていく。 ・子どもたちの地域愛を深め、農業の楽しさを知ってもらうことで、将来、地域へ帰ってきたいという気持ちを育む。 |

評価及び次年度に向けての取り組みの方向

・児童が収穫を喜び合うだけでなく、保護者間・卒業生保護者との交流の場になっている点で意義ある会になっている。

・年度により、お母さん方の参加に偏りが出てしまう。ミカンの収穫時期と重ならないように心がけたい。用意できる食事量に限りがあるので、参加者が多すぎても成立しにくい会になるが、日ごろクラブ指導や授業等でお世話になっている方を数人ずつ招待するような試みも今後考えていきたい。



児童縦割り班での調理

大人班での調理



各班の料理を持ち寄り、みんなで収穫を祝って会食

学社融合活動実施報告

| | | | |
|---|-----------------------------|--|----------------|
| 学校名 | 新庄小学校 | 公民館名 | 新庄公民館 |
| <p>学社融合における学校・地域の様子 新庄小学校では、「地域と連携し、地域を知り、地域を学び、地域を愛する児童を育成すること」を目標に、農業、伝統的な祭りや行事、福祉、地震や津波等について学習する機会を設け取り組んでいる。 新庄地域は、7月13日の夜に通りの玄関先などに野菜等で作った作品をお供えする「ぎおんさん」や各地区の獅子舞など伝統的な行事も多く、地域の方や各種団体の方々も学校教育活動にたいへん協力的である。 また、新庄公民館・新庄幼・新庄小・新庄二小・新庄中の担当者が定期的に集まり情報交換をしている。そこで、年に一度当番校が公開授業等を行う合同研修会を開催し、全職員が共に研修をしている。</p> | | | |
| 活動名 | 公民館・地域・サークル活動等と連携した各学年の取り組み | 学年・教科・領域等 | 生活・音楽・総合・体育・特活 |
| 目標 | 学校 | ・地域の方々とのふれあい、地域の方々の活動を知り、参加交流することにより、地域に興味を持ち、地域を愛する子どもを育てる。 | |
| | 公民館（地域） | ・地域の方々や公民館の活動の中から学校教育に役立つものを選び、連携して取り組み、地域と学校のつながりを密にして、地域の方々の連帯感を深める。 | |
| <p>支援者及び支援組織 公民館、地域のみなさん、地域でサークル活動等をしているの方々</p> | | | |
| <p>取り組みの経過(日時・ねらい・活動内容等)</p> <p>7月 コーラス 2年生 サークルの方に歌などを聞かせてもらい、音楽の楽しさや共に活動する喜びを知る。</p> <p>7月 ぎおんさん 3年生 地域の方に「ぎおんさん」のいわれや作品の作り方を教えてもらう。</p> <p>12月 地震津波の話 6年生 地域の方から地震や津波の体験談を聞かせてもらい、命を守る方法と心構えを学ぶ。</p> <p>1月 むかしのあそび 1年生 地域の高齢者の方に教えてもらい、素朴な道具での遊びの良さと、ふれ合う楽しさを知る。</p> <p>1月 グランドゴルフ 4年生 サークルの方と一緒に運動し、体を動かす楽しさや共に活動することの喜びを知る。</p> <p>2月 箏・尺八 5年生 サークルの方に演奏を聞かせてもらい、伝統文化のよさを学ぶ。</p> | | | |
|  | | | |

| | 成 果 | 課 題 |
|--------------|---|--|
| 学 校 | <ul style="list-style-type: none"> * 専門的な技術や知識を見せてもらったり、教えてもらうことができた。 * 地域の方との交流の場となっている。 * 地域の活動を知る機会となっている。 * 世代を越えた交流ができた。 | <ul style="list-style-type: none"> * 地域の方や地域との取り組みをもう少し増やすことができないか。 * 学校から地域にはたらきかける活動ができないか。 * 活動は充実したが、時間の確保が難しい。 |
| * 子どもにとって | <ul style="list-style-type: none"> * 地域の方々の活動を知って、地域への関心が増した。 * 専門的な知識等にふれ、学習を深めることができた。 | <ul style="list-style-type: none"> * 教えてもらった人と地域で出会ったときなどに、挨拶をしたりできる児童になってほしい。 * 地域や公民館の活動に興味を持って積極的に取り組むことができるようになってほしい。 |
| * 子どもにとって | <ul style="list-style-type: none"> * 学校内や個人の家庭の中では体験できないことに、直に触れることができた。 * 同様に学校や家庭などとは異なる枠の人たちとの出会い。 | <ul style="list-style-type: none"> * 個人の欲求を十分に満たすことが出来ていないところがあるのではないだろうか。 * また、伝えようとする内容が理解を超えたレベルになってはいないだろうかなどの検証も必要ではないだろうか。 |
| 地 域 (公民館) | <ul style="list-style-type: none"> * 講師などで学校に行かれた方々の感想が「子どもたちとの触れ合いが楽しい」など非常に好評であり、子どもたちに頼られることで活動に自信がついたものと感じられる。 | <ul style="list-style-type: none"> * 最も重要な課題は、講師として参加して下さる人材の確保である。 * 公民館活動と学校行事などとの連携に、より一層の工夫が必要ではないだろうか。 |

評価及び次年度に向けての取り組みの方向

- ・専門的な技術や知識をもった人に来ていただき、学習を深めることできた。
- ・地域の方との交流の場となり、地域の活動を知る機会となった。
- ・世代を越えた交流ができ、地域への関心が増した。
- ・学校から地域にはたらきかけたり、児童が地域のために動くことができるような活動ができないか。
- ・活動は充実したが、時間の確保が難しい。



学社融合活動実施報告

| | | | |
|---|---------|---|----------------|
| 学校名 | 新庄第二小学校 | 公民館名 | 新庄公民館 |
| 学社融合における学校・地域の様子 | | | |
| <p>本校校区は、他地域から移住してきた世帯が多く、昔からこの地域に住んでいる世帯は比較的少ない。また、移住してきた世帯は若い世代が多く、昔からの世帯は年齢層が高い傾向が見られる。しかし、どちらの世帯も学校に対する関心はたいへん高いように感じる。保護者の構成は、ほとんどが他地域からの世帯であるが、新二まつり(文化祭)やサークル活動などでは、保護者だけでなく、昔からこの地域に住んでいる方々にも多くの協力を頂いているなど、若い世代と地域の方が協力した活動も見られる。したがって、地域・家庭・学校が共に子どもを育てるという基本的な考えのもと、活動を広げていきやすい学校であり、地域であるといえる。</p> | | | |
| 活動名 | 新二まつり | 学年・教科・領域等 | 全学年・総合的な学習・生活科 |
| 目標 | 学校 | 児童会を中心に、新二の恵まれた環境の中で学んだことを、保護者・地域の方々に向けて発信するとともに、世代を超えた「ふれあい」を通し、地域に生きる一員として、新二校区を知り、校区・故郷を愛する心情を育てる。 | |
| | 公民館(地域) | 地域の方々を始め、公民館サークルの参加者が学校の授業・行事に参加することで、単に知識や技術の伝承だけではなく、人と人の触れ合いの中で多くのことをお互いを感じ・学んでいってほしい。 | |
| 支援者及び支援組織 育友会・小学校・公民館・婦人会・地域の方々 | | | |
| <p>取り組みの経過(日時・ねらい・活動内容等)</p> <p>8月29日(木) 新二まつり実行委員会 本年度の「新二まつり」について、実行委員・協力委員について</p> <p>9月 4日(水) 職員会議「新二まつり実行委員会より」報告</p> <p>10月 1日(月) 学校便りにて、作品展への出品のお願いを掲載・配布 (地域・保護者向け 公民館報と共に地域に配ってもらう。)</p> <p>10月 3日(木) 新二まつり協力委員会案内状配布(育友会・地区委員・学級委員・職員)</p> <p>10月 9日(水) 職員会議「新二まつり」について 昨年度の申し送り・要項・今年度の流れ等</p> <p>10月11日(金) 役員部長会 要項説明・講師への仮打診・新規体験活動について検討</p> <p>10月18日(金) 新二まつり協力委員会 各部の担当確認、打ち合わせ</p> <p>10月24日(木) お楽しみコーナー運営協力依頼配布(保護者向け) 体育館割り当て(10月28日～11月9日まで)</p> <p>10月30日(水) 各学年発表内容しめきり(児童会へ連絡)</p> <p>11月 1日(金) 「新二まつりのご案内」プリント 地域・保護者・学級でも配布</p> <p>11月 5日(月) 体験活動(児童へのアンケート～調整～決定)</p> <p>11月 6日(水) 体験活動講師への依頼状配布</p> <p>11月 7日(木) (体験活動・持ち物)保護者向け案内 準備 いすならべ(朝、1限)6年 午後準備(図画作品展示等)</p> <p>11月 8日(金) 全体練習(朝1限) 作品搬入・展示(一般)</p> <p>11月 9日(土) 準備(育友会各部会)</p> <p>11月10日(日) 新二まつり</p> <p>11月11日(月) 振り替え休み</p> <p>11月12日～15日の間で 体験活動でお世話になった方へ児童がお礼状を書き、担当者が集約して持っていく。</p> | | | |

| | 成 果 | 課 題 |
|--------------|---|--|
| 学 校 | <ul style="list-style-type: none"> ・多くの保護者、地域の方々にお越し頂き、子どもたちの発表を見てもらうことができた。 | <ul style="list-style-type: none"> ・より円滑に運営していくための工夫。 |
| * 子どもにとって | <ul style="list-style-type: none"> ・多くの大人との関わり、体験活動を通して、マナーを学んだり、繋がりを強めたりすることができた。 ・体験活動では新しい活動も加わり、楽しく体験できていた。 | <ul style="list-style-type: none"> ・この行事が「当たり前」と思うのではなく、色々な方々の協力があってできているという、感謝の気持ちを忘れないようにする。 |
| * 子どもにとって | <ul style="list-style-type: none"> ・学校や家庭では体験できないことに取り組むことにより、子どもたちの興味の幅を広げることになった。 ・大袈裟ではあるが、将来の進路の選択肢を広げるきっかけの一つにもなったのではないだろうか。 | <ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちの欲求を満たすに足る取り組みが出来ているかの検証が必要ではないだろうか。 |
| 地 域 (公民館) | <ul style="list-style-type: none"> ・地域の方々や公民館関係者が子どもたちと一緒に活動することで、子どもたちのみならず、大人も刺激を受けて活性化しているように見受けられる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・単なる学校行事の延長としての「まつり」に終始しないような取り組みにする必要があるのではないだろうか。 ・学校支援の一面でのみ捉えられることの無いような取り組みにするためにも、講師などの引き受け手(人材)の確保など裾野を広げるとともに、相互に刺激を与えあうような関係性が欲しい。 |

評価及び次年度に向けての取り組みの方向

雨天の中での開催であったが、テント等を段取り良く準備できていたので、全体的にスムーズに運営できた。毎年多くの保護者や地域の方々にご協力頂いているが、今年度は午後の体験活動に新たな活動(手打ちうどん作り)を加えることができ、好評を得ることができた。前年度までの反省を生かし、内容・時間等に工夫を施すことで、年々新しいものを生み出すことができているように思われる。一方で、保護者や児童、ボランティアで来て頂いている地域の方々には、「学校・地域の行事」という意識が根付いているものの、それ以外の地域住民にも足を運んでもらえればという願いもある。そのために、どういった形で働きかけていけるかが、今後の課題といえる。この行事を通し、学校と地域の結びつきを深め、融合をさらに進めていきたい。



学社融合活動実施報告

| | | | | |
|---|---------|---|-----------|--|
| 学校名 | | 稲成小学校 | 公民館名 | 稲成公民館 |
| 学社融合における学校・地域の様子 | | | | |
| <p>近年本地域は、大型スーパーの出店や高速道路延長による工事等で、学校周辺の田園風景も変わりつつある。それでも昔ながらの地域住民の繋がりや教育熱心な土地柄から学校への協力体制は大きい。9年前から実施している「稲成ふれあいスクール」の通学合宿での「炊き出し」や「もらい風呂」の協力も、気持ちよく引き受けてただける地域である。また、各学年で実施している「農業体験学習」では、地元の方々の畑をお借りし、指導支援していただきながら充実した学習内容が展開できている。</p> | | | | |
| 活動名 | | 稲成再発見 ～農業体験・伝統文化継承体験を通して～ | 学年・教科・領域等 | 2年・3年・5年生活科・総合的な学習 |
| 目標 | 学校 | <ul style="list-style-type: none"> ・農業体験活動を通して、地域の様子を知り、米や野菜作りに対する地域の方々の工夫や苦勞を知る。 ・地域を知り、地域の伝統文化を学ぶことで「ふるさと稲成」への愛着を深める。 | | |
| | 公民館（地域） | <ul style="list-style-type: none"> ・地域の子どもを地域で育てるという意識の向上を図る。 ・地域社会の中で、地域住民と子どもたちとの交流を深めることにより、コミュニティ活動の活性化を図る。 | | |
| 支援者及び支援組織 | | | | |
| <p>小学校・公民館・育友会・保護者・地域住民・各町内会</p> | | | | |
| <p>取り組みの経過(日時・ねらい・活動内容等) 今回は総合的な学習の時間や生活科での取組について報告する。下記の取組には地域の方々に深く関わっていただいた。</p> <p>○2年「サツマイモ作り」ねらい[サツマイモ作りという農業体験活動を通して収穫の喜びを知る] ・地域の方の畑をお借りし、春に苗植え秋に収穫そして地域の方や保護者と試食会で交流をした。</p> <p>○3年「夏野菜を育てよう」ねらい[夏野菜の栽培という農業体験活動を通してその工夫や苦勞を知る。] ・地域の方に支援していただきながら、地元の畑でよく採れる夏野菜を育てた。採れた野菜で調理実習をし、地域の方々と交流した。</p> <p>○5年「米作りに挑戦しよう」ねらい[稲成の米作りについて調べその工夫や苦勞を知る] 5年「稲成の祭りについて調べよう」ねらい[稲成の獅子舞について学び伝統文化を受け継ぐ] ・地域の方に指導、支援をしていただきながら、地元の米作りについて調べ米作り体験をした。また米作りと稲成の伝統的な祭り(獅子舞等)との関係を学び、伝統文化を受け継ごうというねらいのもと「稲成・むつみふれあい文化祭」で、5年生全員で獅子舞を舞い地域の方々に披露した。</p> <p>○学校・公民館共催行事「稲成・むつみふれあい文化祭」 ねらい[学校での学びを保護者、地域の方々に知らせる] ・各学級が総合的な学習の時間に取り組んだことを発表した。</p> | | | | |
|  | |  | |  |
| 2年 大きな芋が！ | | 3年 ピーマンの苗植え | | 5年 稲刈り初体験！ |
|  | | | | |
| 5年 荒光地区の獅子舞 | | | | |

| | 成 果 | 課 題 |
|--------------|--|--|
| 学 校 | <ul style="list-style-type: none"> ・稲成地区で作られている農作物について調べることで、地域の様子を知り、農業に関わっているこの地区の方々の工夫や思いを知ることができた。 ・「伝統文化を学び、継承する」学習を通してあらためて「ふるさと稲成」の良さに気づくことができた。 ・「稲成・むつみふれあい文化祭」での学習発表会で地域の方々に学習内容を伝えることができた。 | <ul style="list-style-type: none"> ・借していただいている畑が学校から少し離れているため、移動の時間も十分考慮しておかなければならない。 ・日々の雑草の手入れなど、地域の方に任せがちになるため、主体的に体験できるよう考える必要がある。 |
| * 子どもにとって | <ul style="list-style-type: none"> ・地域の畑を借りて活動することで、「ほんまもん農業体験」ができた。さらに農作物を大切に作る気持ちが育ってきた。 ・稲成町荒光地区に伝わる獅子の舞、笛、太鼓を習得できた。 | <ul style="list-style-type: none"> ・現状で満足することなく、もう少し主体的な活動になるよう工夫する。 |
| * 子どもにとって | <ul style="list-style-type: none"> ・地域の方々から学ぶことによって、地域の良さをあらためて感じる事ができた。 | <ul style="list-style-type: none"> ・地域の一員であることの自覚を持ち、地域の催しに積極的に参加し地域の活性化につなげてもらいたい。 |
| 地 域 (公民館) | <ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちに農業に関する知識や経験、技術を伝えることができた。 ・地域の伝統文化を、次世代へ継承することができた。 ・「稲成・むつみふれあい文化祭」に集うことにより地域住民同士の交流が図れた。 | <ul style="list-style-type: none"> ・地域、公民館、学校との連携をさらに深め、より充実した活動にしていく。 ・地域人材、地域にある教育資源をさらに見つけていく。 |

評価及び次年度に向けての取り組みの方向

○評価

・「農業体験学習」については、地域の方々の支援のおかげで充実した学習内容が展開できた。「伝統文化の継承」についても、子ども・親・地域の方々と三世代の交流ができた。この2つの取組については、長年続いてきており、内容的にも地域への発信という点でも一定の評価が得られていると考える。

○次年度に向けての取り組みの方向

・生活科や総合的な学習については、学習ボランティアとして地域の方々に多く関わっていただいている。今後は他教科の中で、授業の中で、もっと地域の人材を活用できないか、内容を検討する等模索していきたい。

・9年前にスタートした「稲成ふれあいスクール」は昨年度までの反省をもとに、講師先生を全て地域の方々にするなど、今年度から「地域色の濃い内容」に移行し始めた。次年度もさらに改善を加え、子どもも大人も楽しみながらできる「ふれあいスクール」にしていきたい。

・学校と稲成公民館(地域)とがさらに連携を深め、地域人材の活用や地域の活性化に向け取り組んでいきたい。

| | | | |
|---|------------------|--|-----------|
| 学校名 | 田辺東部小学校 | 公民館名 | ひがし公民館 |
| 学社融合における学校・地域の様子 | | | |
| <p>6回目を迎えたひがしふれあい秋祭りが今年も盛会に行われた。実行委員会を組織し地域の代表の方々と一緒に、反省や課題を出し合いながら、年々改良を重ねることで地域と子ども達の結びつきが深まってきている。</p> <p>今年度、新しく行ったものに、ゲストティーチャーを招くクラブ活動と小学校の玄関ホールで行ったコンサート活動がある。</p> <p>クラブ活動では、地域の方々と児童が出会うことで学校と地域との交流が進んだように思われる。また、文化活動を通して足を運んでいただくことで、学校に一層親しみをもっていただけたように思う。</p> | | | |
| 活動名 | クラブ活動とサンセットコンサート | 学年・教科・領域等 | 特別活動と文化活動 |
| 目標 | 学校 | <p>《クラブ活動》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ クラブ活動を通して、望ましい人間関係を形成し、個性の伸長を図り、集団の一員として協力し、よりよいクラブづくりに参画しようとする自主的・実践的な態度を育てる。 ・ 高度な技術や知識を備えた指導者から学ぶことで自らの生活に生かそうとする態度を養う。 | |
| | 公民館（地域） | <p>《サンセットコンサート》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 普段、用事がないかぎり入る事のない学校に、気軽に来校してもらえる機会を作る。 ・ 音楽活動を通して、地域の方々が楽しく交流する場を設ける。 | |
| 支援者及び支援組織 | | | |
| クラブ活動指導者： 尾谷仁史(将棋), 上續美恵(ジャズダンス), 長尾静枝・古谷一三子(茶道), 佐武範一(理科) | | | |
| 取り組みの経過(日時・ねらい・活動内容等) | | | |
| <p>《クラブ活動》</p> <p>学校には9つのクラブがあり、月に1回,, 年間10回のクラブ活動を実施している。今年度は、茶道、ジャズダンス、将棋、理科・実験の4つのクラブを新設し、地域から指導者を招いて行った。茶道クラブでは、毎回講師の方々が着物を着て来校して下さり、日本の文化についても身近に感じる事ができた。将棋クラブでは、将棋で遊ぶだけでなく、具体的な攻め方なども指導していただいた。ジャズダンスクラブでは、基礎的な踊り方を学び、また、自分たちでどのように踊るか考えさせる活動も行っている。理科・実験クラブでは、子ども達からリクエストのある実験をこなすことで、科学的な関心が深まっている。</p> <p>それ以外に、ひがしふれあい秋祭りでは、茶道クラブによる野点がふるまわれ、家庭科クラブによる災害時における炊き出しの訓練も行われた。また、夏休みには、理科・実験クラブは地域にある工業高校と交流し、茶道クラブは子どもお茶会に参加する機会を得ることもできた。</p> <p>《サンセットコンサート》</p> <p>体育館が耐震改修工事のため使えなくなった期間、ピアノを玄関に移したのを契機に4回のサンセットコンサートを行った。</p> <p>第1回目： 9月20日(金) ピアノと声楽によるコンサート 演奏者 竹中美知子さん, 吉田晴実さん (地域の方と友人)</p> <p>第2回目：10月4日(金) ピアノとバイオリンによるコンサート 演奏者 バイオリン山下信子さん, ピアノ森田由利子さん(本校職員)</p> <p>第3回目：11月8日(金) ピアノコンサート 演奏者 ピアノ 神田彩加さん (地域の方)</p> <p>第4回目：12月6日(金) ピアノと声楽によるコンサート 演奏者 ピアノ細尾和代さん, 声楽中川浩子さん(保護者・地域の方と友人)</p> | | | |

| | 成 果 | 課 題 |
|---|---|---|
| 学 校 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 茶道の簡単な作法を身に付けさせることができた。 ・ ダンスの基礎的な動きを身に付けさせることができた。 ・ 将棋の基礎を身に付けさせることができた。 ・ 幅広い実験を行うことができた。 ・ 様々な方と交流することで、興味関心を広げさせることができた。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 外部講師を招くので、事前の打ち合わせ時間が重要になった。 ・ 準備物等の確認も難しいので、ゲストティーチャーの方に、負担していただくことが多かった。 |
| * 子どもにとって | <ul style="list-style-type: none"> ・ 茶道に慣れ親しむことができた。 ・ リズムに乗って楽しくダンスをした。 ・ 楽しんで友達と将棋をさせるようになった。 ・ 専門的な道具や材料に触れることで、知的好奇心が向上した。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ ジャズダンスクラブでは、ほとんどの子どもがジャズダンスを習っていたので、初心者の子もががついていきにくい雰囲気のあるときもあった。 |
| * 子どもにとって | <ul style="list-style-type: none"> ・ サンセットコンサートに参加することで、音楽に対する興味が深まった。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 夜のコンサートになるので、児童だけでは参加しにくかった。 |
| 地 域 (公民館) | <ul style="list-style-type: none"> ・ 回を重ねる毎に参加者が増え、和気藹々としたコンサートになった。 ・ 小さな子どもでも遠慮なく連れてくることができた。 ・ 2歳くらいの子どもからご年配の方まで、幅広い層の方にお越しいただくことができた。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 会場の音響効果が悪く、音が響きにくかった。 |
| <p>評価及び次年度に向けての取り組みの方向</p> <p>《クラブ活動》 クラブ活動については、年間を通して同じ先生に来ていただくことが大変良かった。回を重ねる毎に、ゲストティーチャーとして来ていただいた方と子どもとの交流が深まった、また、学校職員では気づけなかった点など、教える視点が違うため子ども達に新しい可能性を拓くことができ大変良かった。来年度も地域の方々の協力を得ながら続けていきたい。今年、4つのクラブであるが、来年度はもう少しゲストティーチャーを呼ぶ機会を増やせないか考える必要がある。年間を通して指導していただくだけでなく、単発でできていただくことも考えれば、可能性が広がる。</p> <p>《サンセットコンサート》 体育館の耐震改修工事が終了したため、サンセットコンサートを本館の玄関で行うことはできなくなった。しかし、小さな子どもを連れて気軽にこれるコンサートを行った意義は大きい。音楽に限らず文化的な交流の機会をより多く作ることが大切だと考えている。</p> | | |

| | | | | |
|--|-----|---|-----------------------------|----------|
| 学校名 | | 会津小学校 | 公民館名 | 秋津・万呂公民館 |
| <p>学社融合における学校・地域の様子 「会津さわやかコンサート」や「麦づくり収穫体験」をはじめ、学校が保護者や校区協議会、公民館、地域の各種団体との連携・協力を図りながら、様々な地域活動・学校教育活動を展開している。現在484名の児童が通学しており、校区協議会シニアパトロールの登下校の見守り活動や、公民館での子ども向け教室などをはじめ、地域で子どもたちを見守り、育む活動に積極的に力が注がれている。また、地域スポーツクラブ、会津スポーツクラブの活動は、子どもたちのスポーツに対する関心を高めると共にスポーツに親しむ機会となっている。</p> | | | | |
| ～秋津・万呂～盆踊り・あんどん祭り | | | 学年・教科・領域等 全学年 図工・総合的な学習等 | |
| 目標 | 学校 | 「あんどん祭り」などの取り組みを通して、地域の諸団体、公民館などとの連携を進め、学校教育との融合を深める。子どもたちは、地域行事に積極的にかかわることで、地域への愛着、帰属意識を高める。 | | |
| | 公民館 | 大人と子どもが共に街づくり行事に積極的に参画してもらい、参加者相互の交流を通じて、地域社会の一員としての意識を高めてもらう。また秋津・万呂両地域間のつながりを深め、地域外からも広く多くの方に参加していただくことで地域活性化へと繋げる。 | | |
| <p>支援者及び支援組織 ～秋津・万呂～盆踊り・あんどん祭り実行委員会(町内会、老人会、子ども会、小中学校など計17団体で構成)</p> | | | | |
| <p>取り組みの経過(日時・ねらい・活動内容等)</p> <p>◆盆踊り・あんどん祭りの開催 【 8月17日(土) 会場:紀菜館、会津小学校 】 第6回目となった今回は会津小学校のみの会場となった。300余りの「あんどん」を並べ点灯しました。あんどんには「夢・ねがい」をテーマに様々なメッセージや絵を描きました。子どもたちの様々な夢を読むと本当に楽しくなってきます。参加した保護者地域の方々の楽しそうな笑顔が行灯のほのかな明かりの中で浮かんでいました。</p> <p>◆あんどん作り 【 7月22・26・27・29・30日、8月2・4日 会場:秋津公民館 】 【 7月中の各クラス図工の授業 会場:会津小学校 】 7月より小学生を対象に参加者を募集し、秋津公民館を会場に計7日間にわたりあんどん作り教室を開催。老人会のご協力もいただき、大人からの指導・補助のもと、子どもたちは木枠を組み立て約300個のあんどんを作りました。会津小学校では全校児童が参加して、授業の中で「夢」のメッセージ・絵の作製に一人一人が取り組みました。</p> <p>◆実行委員会会議 【 7月6日(土)、8月9日(金) 10月17日(木)会場:万呂公民館 】 町内会、公民館、学校、老人会、育友会、子ども会、会津スポーツクラブ、とんぼクラブなど両地域の各団体代表が集まって祭りの実施内容について協議・確認を行いました。</p> <p>◆市内各行事への参加 【扇ヶ浜の夕べ 8月13日(火) 会場:扇ヶ浜海水浴場 】</p> | | | | |

| | 成 果 | 課 題 |
|--------------|---|--|
| 学 校 | 全児童があんどんづくりに取り組んだ。出来上がった作品を校庭に並べた。今年のテーマは、「夢・ねがい」。1つ1つの作品に子どもらしい「夢・ねがい」が描かれていた。祭り当日は、自分の描いたあんどんを探し、ほのかな明かりの中見入っていた。家族が、地域が一つになって祭りをつくり、楽しむ風景であった。 | あんどん祭は、25年度を一区切りとして終了することとなった。次年度についてどのような取り組みをするのか、地域の取り組みに本校としても積極的に参加協力していきたい。 |
| * 子どもにとって | 地域で、学校であんどんづくりに取り組み、児童自身も地域の祭りに参加しているとの意識がついている。取り組みの中で多くの地域の人と触れ合うことで、地域への愛着心、帰属意識が高められている。 | 児童単独の取り組みとともに、家庭と共に、地域とのつながりを深めていく社会体験、自然体験等の機会や参加型、体験型の新たな取組が次年度も行われると良いと考える。 |
| * 子どもにとって | ・自分が作ったあんどんが、市内の各行事に飾られたくさんの人の目に触れることで、子どもたちのやりがいや達成感へとつながった。 | ・発表の場など、子どもたちが受動的ではなく主体的に参加できるような新たな行事を実施していきたい。 |
| 地 域 (公民館) | ・秋津・万呂地域から地域内外へ取り組みを大きく発信することができた。 ・昨年度に続き中高生グループの参画もあり、世代や地域をこえた交流をする場所を作ることができた。 | 本年度であんどん祭りは公民館から離れ、別団体が引き継ぐような形でいったん終了することとなった。地域に定着してきた行事を絶やさないように協力しつつ、秋津・万呂地域がつながる新たな取り組みを考える必要がある。 |

評価及び次年度に向けての取り組みの方向

今回テーマは「夢・ねがい」に設定。子どもにとっても身近な願い、子どもらしい願いがあんどんに託されました。あんどんのほのかな明かりの中で、一つひとつのメッセージを家族で読む風景は心をほのほのとさせてくれました。6回続いたあんどん祭りは、本年度でいったんは終了となりました。来年度からは、新たな取り組みがすすめられます。あんどん祭りで大切にしてきた、子ども、その保護者、家族、地域の人々とつながり、広がってきた学社融合の取り組みを一層すすめる行事作りをしていくことが大切と考えています。



学社融合活動実施報告

| | | | | |
|---|---------|--|-----------|--|
| 学校名 | | 上芳養小学校 | 公民館名 | 上芳養公民館 |
| 学社融合における学校・地域の様子 | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・上芳養地域はのどかな農村地帯ということもあり、大人も子どもも穏やかな人が多い。学校行事などにも多くの方が参加してくれ、保護者でない人も、運動会などに積極的に参加してくれる。 ・学社融合の取組みにおいても学校・地域が協力して取り組んでいこうという素地が出来上がっている。 ・公民館(地域)活動に積極的に協力してくれる人が多いので、地域の人同士の交流は盛んに行われている。 ・地域の子どもは、地域で育てるという意識が、住民の方々に共有されている。 | | | | |
| 活動名 | | 体験教室 | 学年・教科・領域等 | 小学校4・5・6年 |
| 目標 | 学校 | <ul style="list-style-type: none"> ・体験やものづくり活動を通して、コミュニケーションを図るとともに様々な物事に興味を持つようになる。 ・地域行事に積極的な参加をすることで校外生活の充実を図る。 | | |
| | 公民館(地域) | <ul style="list-style-type: none"> ・体験活動を通じて子ども達に様々なことに興味を持ってもらい、関心の幅を広げる。 ・体験の過程で子ども・大人のコミュニケーションを深める。 | | |
| 支援者及び支援組織 | | | | |
| 上芳養小学校 上芳養公民館 地域コーディネーター ラグレース印南 | | | | |
| 取り組みの経過(日時・ねらい・活動内容等) | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・年度当初に小学校と公民館で協議し、今年度の体験教室を確定する。 ・小学校でのチラシ配付や、公民館報への記事掲載を通じて参加を呼びかける。 ・参加人数等が確定後、講師の方や関係機関と細かい打合せを行う。 | | | | |
| | | 乗馬体験教室 | | 焦がし絵体験教室 |
| | |  | |  |
| | | <p>☆日時: 7月13日(土)9時~12時 ☆場所: 印南町 ☆参加人数: 8名 ☆講師: 印南町ラグレース乗馬倶楽部 ☆内容: 乗馬教室の先生に手綱を引いてもらっての乗馬体験と、馬の世話など。</p> | | <p>☆日時: 12月26日(木)9時~11時 ☆場所: 上芳養小学校 図工室 ☆参加人数: 22名 ☆講師: 井本公民館長 ☆内容: ハガキサイズの板に電熱ペンで絵を描く。完成した作品は手作り作品展に出展する。</p> |

| | 成 果 | 課 題 |
|--------------|--|--|
| 学 校 | ・体験を通してお互いに感想を言い合ったり、試行錯誤を重ねる姿が見られ、コミュニケーションの深化と、物事への関心を広げることができた。 | ・参加する子どもが固定化している傾向があるので、それ以外の子ども達にも体験する機会を与えたい。 ・自らが体験・経験することの大切さを学び、学んだことを地域に発信していく力を育てたい。 |
| * 子どもにとって | ・学校内だけではできない体験を通して、新鮮な経験を積むことができた。 ・乗馬体験教室においては、実際に馬にふれあい、世話をすることで、命について学ぶことができた。 | ・「体験」が受身にならないよう、できる限り子どもが自ら考え活動する学習にしていこう。 |
| * 子どもにとって | ・試行錯誤を重ねながら、体験に取り組むことができた。 | ・長時間取り組むと体験に飽きてくる子どももいるので、子ども達を飽きさせない工夫が必要になってくる。 |
| 地 域 (公民館) | ・子ども達の興味・関心の幅を広げることができた。 ・公民館の活動について興味・関心を持ってもらうことができた。 | ・体験によっては日程調整を考慮すべきものがある。 ・地域の方々がたくさん参画できる事業を今後考えていく必要がある。 |

評価及び次年度に向けての取り組みの方向

公民館主催の小学生向けの学社融合事業は今年度は乗馬体験教室、焦がし絵体験教室の2事業を実施した。

両事業を通して、子ども達は、普段の学校生活だけでは得られない貴重な体験を得られることができたのではないだろうか。体験中に、試行錯誤して取り組む姿が大いに見られ、子どもが「自ら考える」姿が見られた事業ではないかと考える。

今後の課題として、乗馬体験教室については、日程の再調整が必要になる可能性がある。この時期が、少年野球の練習の時期と重なり、男子はほぼ参加できない。参加する子どもの層を固定化しないためにも、今後日程を調整する必要が出てくるのではないかと考える。

また、両体験とも地域の方の参画がより必要になってくるのではないかと考える。乗馬体験は乗馬クラブのインストラクターと地域コーディネーターの協力が得られたが、焦がし絵体験教室は公民館長・主事・教職員の参加だけだったので、「地域の考え」、「地域の目」という視点から事業について考える機会を逃してしまったのではないかと考える。今後は地域住民の方が事業に参画しやすいような事業実践が必要になってくると考える。

来年度に向けては、今後も地域と学校が連携を密にして事業展開を図っていくのと同時に、上記のことについて積極的に取り組んでいきたい。

学社融合活動実施報告

| | | | |
|---|---------|---|--|
| 学校名 | 中芳養小学校 | 公民館名 | 中芳養公民館 |
| <p>学社融合における学校・地域の様子 田辺市街地周辺の農村地帯にある本校の児童たちは、明るく素直であり、異なる学年の関係も概ね良好である。地域の住民は、教育への関心は高く、学校教育に協力的である。昔からこの地域は地区ごとのつながりが深い地域であった。近年は団地や個人向けの宅地が増加したことから従来の地区以外からの児童が多くなってきている。小学校における学社融合の取り組みは、児童の教育活動や様々な行事を通じて住民間の交流や融和を図る重要な役割を果たしている。本年度は、特に社会参画を意識した取り組みを進めてきた。今後も継続していくことで、児童が地域社会で認められ、地域の子どもとしてつながりを深められるような関係を築いていきたいと考えている。また、地域がもつ教育資源(人的・物的)を学校教育へ導入して特色ある中芳養の学校教育を展開していきたい。</p> | | | |
| 活動名 | | 防災教育 / 社会を明るくする運動 | 学年・教科・領域等 総合的な学習の時間・特別活動 |
| 目標 | 学校 | 防災に対する意識を高め、減災のための方法や工夫する気持ちを育む。 明るい街づくりのために今、自分たちのできることを行う気持ちを育てる。 | |
| | 公民館(地域) | 地域の方が児童を支援することで、「地域の子どもは地域で育てる」意識を育む。 社会に貢献する活動によってさらに学校とのかかわりを深く持てるようにする。 | |
| <p>支援者及び支援組織 中芳養公民館、中芳養幼稚園、保護司会、花を愛する会</p> | | | |
| <p>取り組みの経過(日時・ねらい・活動内容等) (1)防災教育にかかる学社融合 【 6月 】 地震避難訓練(幼稚園・小学校合同) 【 11月 】 防災教育参観日 拡大学校評議員会(学校評議員・公民館・町内会長・学校)で防災をテーマに協議</p> | | | |
| | |  |  |
| | | 防災マップ作り | 幼稚園との合同避難訓練 |
| <p>(2)「明るい社会づくり」のための活動 『保護司会の方々と』 【毎月月初め】 挨拶運動(年間を通して、児童会を中心に) 【 6月 】 社会を明るくする運動(広報キャンペーン) 【 12月 】 保護司会の方々との懇談会</p> | | | |
| | |  | |
| | | 社会を明るくする運動 | |
| <p>『花いっぱい運動』 【 4月 】 中芳養「花を愛する会」の方々と計画について協議 【 5月 】 学校周辺の道路沿線にある花壇へ植える作業と水やり 【6月～7月】 除草作業・継続して朝夕の水やり 【 11月 】 花の植え替えのため作業 【 12月 】 冬から春にかけての花を植える作業 【1月～3月】 花への水やり</p> | | | |
| | |  | |
| | | 地域清掃 | |
| <p>『地域清掃』(通学路清掃) 【 7月 】 自分たちの通学路を清掃することで町をきれいにしようとする気持ちを育てる。</p> | | | |

| | 成 果 | 課 題 |
|--------------|---|--|
| 学 校 | 「花いっぱい活動」を行うことで児童が花を大切にすることが増えてきた。活動をする中で、町内の方々から、「ごろうさま」や「きれいになるよ。ありがとう」などの言葉をかけていただけるようになった。全校でのとりくみになるように学校便り、公民館や掲示板に写真つきの記事を掲載してきたことで学校の活動を地域の方々に知っていただける機会となった。 | 広報活動を効果的にするためにもカラー写真を多用してきたが、インクや用紙、パウチなどの消耗品の予算を確保するための工夫を要する。公民館の壁面や校内の掲示板を活用して広報活動をしているが、より効果的な広報手段を考えていく必要がある。 |
| * 子どもにとって | 地域に子どもたちの顔を知っていただくことは、挨拶を交わす上でもとても効果的であった。また、校区内での子どもたちの見守り活動でも効果があった。 | 在校児童数が減少する中で、同じ活動を継続することは難しいので、児童が意欲的になり、積極的に関われる活動を考えていく必要がある。 |
| * 子どもにとって | 子どもの目線から、地域の状況を理解し、それらを改善していこうという思いを持ってもらえるように指導することができた。 | 子どもが発見した地域の課題などを地域にフィードバックする機会などを充実させれば、よりよい活動実践になるのではないかと。 |
| 地 域 (公民館) | 子どもを通じて地域の状況を理解し、地域の連携・連帯のために何が必要かを考える機会になった。学校が関わる奉仕活動に対して地域の理解を深めることができた。 | ささいな奉仕作業でも地域が理解し、進めていけるように、地域への声かけや・広報活動を継続していきたい。 |

評価及び次年度に向けての取り組みの方向

・防災教育については、幼稚園・学校という枠にとらわれず地域で連携した訓練を行う必要がある時機だと思われる。公民館を中心に各地区と連携した取り組みができるとうい。

・「社会を明るくする運動」については、保護司会の方と活動を共にすることはなくても、挨拶を交わす機会をできるだけ多くしていきたい。挨拶をすることで地域の方々とのつながりを持たせ、子どもたちが安心して暮らせる地域になると思われる。

・来年度も地域に花をいっぱいさせる活動を続けていきたい。地域内で花を愛する会の皆さんの構成層が常時地域内にいらっしゃる方がたであることから、児童にとっても有意義なものになると思われる。

・地域内清掃を取り入れることで、小学生として地域に貢献できることを示していきたい。町内清掃・地区清掃・通学路清掃など、いろいろな場面で地域を大切に、公共マナーを身につけさせられるものと考えている。

学社融合活動実施報告

| | | | | | | | | | |
|--|---------|---|--------------|--------|--|--|--|--|--|
| 学校名 | | 田辺市立 上秋津小学校 | 公民館名 | 上秋津公民館 | | | | | |
| 学社融合における学校・地域の様子 ・当地域は農村地域であるが、最近、宅地造成が進み農業以外に従事する人も増えつつある。そこで、地場産業である「農業」とりわけ、梅(6年)、みかん(5年)、野菜・花(4年～1年)について1年間を通して体験学習に取り組むことにより、収穫の喜びを味わったり、農業に携わって額に汗して一生懸命働いている人々の苦労や工夫、抱えている問題点に気づく。また、地域の人々の願いや食文化、地域の特色やよさを理解し、地域を考え、ともに歩む子どもを育てることを目標に学社融合を推進する。 ・地域としては、子どもたちの座学・体験学習を通して、子どもたちはもとより保護者の方々にも地場産業である農業について知ってもらおう。また、ボランティアとして参加していくことにより、「人づくり」ひいては「地域づくり」に結び付けていくことを目指す。 | | | | | | | | | |
| 活動名 | | | 学年・教科・領域等 | | | | | | |
| 農業体験学習 | | | 3年 総合的な学習の時間 | | | | | | |
| 目標 | 学校 | 「知・徳・体の調和がとれ、心身ともにたくましく生きぬく児童の育成(本校教育方針)」を目指し、地域の地場産業である農業を学校教育に取り入れ、自然や生命の大切さに触れさせながら、生き方指導につなげていくことを目標とする。 | | | | | | | |
| | 公民館(地域) | 古くからの地場産業である農業(みかん、梅、野菜、花)を題材とし、体験学習を通じて子どもたちに上秋津の農業について知ってもらおう。 農業体験学習を通じて、地域住民が児童の育成に関わり、「人づくり」ひいては「地域づくり」につなげていくことを目標とする。 | | | | | | | |
| 支援者及び支援組織 農業体験学習支援委員会(JA紀南青年部上秋津支部、JA紀南、上秋津公民館、老人会、西牟婁振興局) | | | | | | | | | |
| 25年度の取り組みの経過(日時・ねらい・活動内容等) | | | | | | | | | |
| <p>本年度は、3年生の実践を紹介します。</p> <p>☆花づくり名人の野村さんに花の作り方を教わりました。</p> | | | | | | | | | |
|  | | | | | | | | | |
| <p>☆花を幼稚園や公民館に届けました。</p>  | | | | | <p>☆植えたひまわりがこんなに大きくなりました。</p>  | | | | |
| 留意事項 | | | | | | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・年度初めに支援委員会を開催し、学校と公民館やその他協力機関と共通理解を図る。 ・子どもが自ら調べたり、考えたりして答えを見つけていけるような場面を設定するように努める。 ・学習の成果を地域の向けて発信したり、地域の方々の喜ばれるような活動になるように努める。 | | | | | | | | | |

| | 成 果 | 課 題 |
|--|--|--|
| 学 校 | <ul style="list-style-type: none"> ・花作りを通して、花の知識や作り方を身につけることができるようになった。 ・登下校時や普段の生活であいさつや話をするなど地域の方々との関わりを深めることができた。 ・公的な施設へ花を届けることにより、地域の活性化に役立った。 | <ul style="list-style-type: none"> ・花作り名人に、花の準備や購入等、おまかせをされていること。 ・野菜作りは、主に老人会のお年寄りに指導をお願いしているが、高齢者の方が多いので、負担をかけないようにしたい。 ・上秋津中学校も農事体験を行っているので、活動のつながりなど、連携を図っていく。 |
| * 子どもにとって | <ul style="list-style-type: none"> ・花作りを通して、花作りの方法や花作り名人の苦労や悩み・工夫などが知れた。 ・地域の老人とふれあうことにより、老人を敬う気持ちが育った。 ・挨拶や礼儀正しい態度行動がとれるようになってきた。 | <ul style="list-style-type: none"> ・作業が中心なので、花に対する基礎的な知識が不足しているため、座学などを通して基礎的な知識を身につける必要がある。 ・野菜作りでは、主に老人会の方にお世話してもらっているため、受け身的な態度も見られる。 |
| * 子どもにとって | <ul style="list-style-type: none"> ・地域産業である農業について学習することで、地域の特色を知ることができ、また地域への関心が高まった。 ・雨の日に梅の収穫を体験するなど、働くことの大変さ、意味を知り学ぶことができた。 | <ul style="list-style-type: none"> ・農業体験学習を通して、農業の学習だけでなく忍耐力や集中力、自主性の育成に繋げていきたい。 ・農業のほか、地域の歴史や伝統文化にも目を向け、ふるさとへの関心と理解をさらに深めてほしい。 |
| 地 域 (公民館) | <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の方々にとって、子どもたちへ自分たちの経験してきたことを伝えることで、生きがいと自信に繋がっている。 ・地域の青年が指導者として参加することで、地域の産業の中心的担い手としての自覚に繋がっている。 ・子どもたちの学習を通じて、間接的に保護者の方々への地域理解にも繋がっている。 ・本年度も地域と公民館、そして学校との連携でスムーズに活動を進めることができた。 | <ul style="list-style-type: none"> ・協力者(老人会やJA紀南青年部)のメンバーが、固定化してきており、また年々減少しつつある。これからもこの学習を続けていけるよう、地域の農家の方々にも声をかけ、幅広い協力者の発掘に努めていきたい。 ・学校や支援者と連携を密にして、学習内容や方法について、よりよいものにしていきたい。 |
| <p>評価及び次年度に向けての取り組みの方向</p> <ul style="list-style-type: none"> ・花づくり名人の指導を受けて栽培した花は、子供達の心を豊かにするとともに、花に対する知識や栽培する技能を身につけることができた。また、いろいろな花の育て方に関心が広がった。今後は、公民館や幼稚園だけでなく、地域の多くの施設に花を届ける活動を広げていきたいと考えている。 ・梅畑の所有者やJA紀南(青年部を中心に)の方々への指導を受け、梅の観察・収穫・梅ジュース作りなどができている。学校としては、児童のコミュニケーション能力、優しさや豊かな心などが育まれ、「人格形成」に大きな成果をもたらすとともに地域作りに貢献できている。 ・地域で梅作り、みかん作りに携わっている方々との自然な形での交流により、地域の方々に対する敬愛の念や感謝の気持ちをもつとともに働くことの厳しさを感じ取るなど「生き方」を考えることにつながっている。 ・梅やみかんの体験学習は、総合的な学習の時間の中で行ってきた。しかし、総合的な学習の時間が少なくなっているため、これまでの取り組みの質を落とさず、より意義深いものにするために他の学習活動を合わせて取り組む必要がある。 <p>他の活動について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童が栽培した野菜を一緒に料理している家庭もあり、自然に「食育」が実践されるようになってきている。 ・今後は、現在の取り組みを継続するとともに、旧校舎を利用し地域で取り組んでいる「秋津野ガルテン」(滞在型の農業体験学習・農家レストランなどの「地産地消」、みかん資料室の活用)と連携を進めていきたい。 ・平成25年度から上秋津ふれあい音楽会の名で、秋津野合唱団、幼稚園、小学校、中学校、老人会と一緒に、小学校で音楽会を開催し、地域の交流を進めた。 | | |

学社融合活動実施報告

| | | | | |
|---|---------|--|-----------|-------------|
| 学校名 | | 秋津川小学校 | 公民館名 | 秋津川公民館 |
| <p>学社融合における学校・地域の様子</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校、地域、社会教育関係者が一体となり、子どもの健全育成のため協力し合って連携を進めている。 ・地域の方々の協力を得ながら、地域の文化や伝統を学ぶことで地域のよさを知り、また、様々な行事を通して地域の方々との交流を深めることで、子ども達のコミュニケーション能力が高まってきつつある。 ・地域の方々は、行事を通して子ども達と関わることを楽しみにしており、参加にも協力的である。 | | | | |
| 活動名 | | ふるさとまつり | 学年・教科・領域等 | 全学年 学校行事 |
| 目標 | 学校 | <ul style="list-style-type: none"> ・学校での子ども達の学習や生活の様子を保護者の方だけでなく、地域の方に参観していただき、今後の教育に生かしていく。 ・地域のお祭りに参加することで、地域の方との交流を深め、地域のよさを再確認し、地域を大切に育てる。 | | |
| | 公民館（地域） | <ul style="list-style-type: none"> ・ふるさとまつりを通じて、子どもから高齢者まで世代を超えた交流の促進に努める。 ・お祭りでの地域住民との交流を通じて、児童生徒が地域の一員としての自覚を持ち、地域を愛する心の育成に努めるとともに、地域活動の後継者の育成に繋がるよう努める。 | | |
| <p>支援者及び支援組織</p> <p>秋津川小学校育友会・秋津川公民館・秋津川町内会・秋津川振興会・JA紀南秋津川店、JA女性会、秋津川婦人会</p> | | | | |
| <p>取り組みの経過(日時・ねらい・活動内容等)</p> <p>◎日時 平成25年11月17(日)</p> <p>◎場所 秋津川小学校各教室、体育館、運動場</p> <p>◎1、2時間目は、公開授業を行い、保護者だけでなく地域の方にも自由に参観してもらった。大休憩からふるさとまつりに参加した。子どもたちは運動場で行われているバザーで地域の人と話をしながら買い物したり、子ども福引きをしておかしをもらったりした。11時から体育館で音楽発表(歌と合奏)をし、地域の方々に聴いてもらった。中学校の炭琴演奏も聴かせてもらった。昼食は、秋津川婦人会の方々に作ってもらった炊き込みご飯をいただいた。5時間目は、授業参観をした。体育館では、地域の方々や児童の作品展示、物産展が行われた。</p> | | | | |
|  | | | | |

| | 成 果 | 課 題 |
|--------------|---|--|
| 学 校 | 子ども達にとって多くの地域の方々と楽しくふれあえるたいへんよい機会となった。学校にとって教育活動を理解してもらえるよい機会となった。 | 1、2時間目の公開授業にもっと地域の方に参観していただくための手立てを考えていく必要がある。 |
| * 子どもにとって | <ul style="list-style-type: none"> ・普段接する機会が少ない方々とも、いろんな場面で楽しくコミュニケーションをとることができた。 ・地域の方の前で音楽発表し、大きな拍手をもらったことが、子どもたちにとって大きな自信となった。 | ・体育館に展示している作品を鑑賞する子どもたちが少ないので、時間を確保するなどの手立てが必要である。 |
| * 子どもにとって | 子どもたちは地域住民の方々と積極的に交流を行う習慣が身についており、地域全体が家族のような温かさを感じる。 | 授業参観と発表、お祭りへの参加と目白押しで、忙しい一日となっているが、子どもたちは楽しみながら参加してくれているように感じる。 |
| 地 域 (公民館) | <ul style="list-style-type: none"> ・地域住民が主体となって運営しており、子どもたちも楽しそうに参加してくれている。また、地域外からの問い合わせや参加があるなど、今年度は例年より多くの参加をいただいた。地域に定着しており、毎年楽しみにしてくれている。 | <ul style="list-style-type: none"> ・地域住民の後継者の育成 ・まんねりにならないよう例年工夫しながら進める。 ・学校との連携を密にし、お互いの負担を軽減しあえるような運営方法を模索する。 |

評価及び次年度に向けての取り組みの方向

子ども達が多くの地域の方と色々な場で楽しくふれあえることができた。音楽発表は、地域の方に子どもたちの学習の様子を知っていただくとともに、子どもたちにとって大勢の前で発表するよい機会となった。また、保護者、地域の方々も発表を楽しみにしてくれている。



学社融合活動実施報告

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|---|-----------|--|-----------|-------|----------|-------|--|-------------|--|--|----------|-------|--|-------------|--|--|-----------|-------|--|-------------|--|--|-----------|-------|--|-------------|--|--|----------|-------|--|-------------|--|--|----------|-------|--|-------------|--|--|
| 学校名 | | 三栖小学校 | 公民館名 | 三栖公民館 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 学社融合における学校・地域の様子 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| <p>本校はお年寄りの方との「七輪体験」、保護者の方の畑での梅拾いからの「梅ジュース作り」、公民館文化委員さんの協力を得ての「三栖の史跡巡り」、「梅農家の仕事」など総合的な学習や社会科、生活科の教科学習において学社融合に取り組んでいる。学校行事などに地域の方や保護者の方などが大変協力的である。</p> <p>一昨年度よりクラブ活動に地域の方を講師として招き、4つのクラブ(茶道、タグラグビー、絵手紙、手芸)で指導していただいている。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 茶道・タグラグビー・絵手紙・手芸クラブ | | | 学年・教科・領域等 | 5・6年 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 目 標 | 学 校 | <ul style="list-style-type: none"> ・地域の人々の知識や経験を生かし、積極的に他者と関わろうとする態度を育てる。 ・体験やものづくり活動を通して、コミュニケーションを図ると共に自他に関心を持つ。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 公民館(地域)・地 | <ul style="list-style-type: none"> ・学校との連携を図ることにより、地域で子どもたちを育てようとする気持ちを高める。 ・学校との組織的な支援体制の確立を目指す。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 支援者及び支援組織 三栖公民館 保護者 婦人会 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 取り組みの経過(日時・ねらい・活動内容等) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 茶道、絵手紙、タグラグビー、手芸などの指導をしていただいている。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 茶道クラブ(9名) タグラグビー(11名) 手芸(10名) 絵手紙(11名) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| <table border="0"> <tr> <td>5月28日(火)</td> <td>クラブ活動</td> <td></td> </tr> <tr> <td>14:50~15:35</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>6月18日(火)</td> <td>クラブ活動</td> <td></td> </tr> <tr> <td>14:50~15:35</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>10月22日(火)</td> <td>クラブ活動</td> <td></td> </tr> <tr> <td>14:50~15:35</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>11月19日(火)</td> <td>クラブ活動</td> <td></td> </tr> <tr> <td>14:50~15:35</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>1月21日(火)</td> <td>クラブ活動</td> <td></td> </tr> <tr> <td>14:50~15:35</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2月18日(火)</td> <td>クラブ活動</td> <td></td> </tr> <tr> <td>14:50~15:35</td> <td></td> <td></td> </tr> </table> | | | | | 5月28日(火) | クラブ活動 | | 14:50~15:35 | | | 6月18日(火) | クラブ活動 | | 14:50~15:35 | | | 10月22日(火) | クラブ活動 | | 14:50~15:35 | | | 11月19日(火) | クラブ活動 | | 14:50~15:35 | | | 1月21日(火) | クラブ活動 | | 14:50~15:35 | | | 2月18日(火) | クラブ活動 | | 14:50~15:35 | | |
| 5月28日(火) | クラブ活動 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 14:50~15:35 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 6月18日(火) | クラブ活動 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 14:50~15:35 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 10月22日(火) | クラブ活動 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 14:50~15:35 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 11月19日(火) | クラブ活動 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 14:50~15:35 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1月21日(火) | クラブ活動 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 14:50~15:35 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2月18日(火) | クラブ活動 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 14:50~15:35 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|  | |  | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|  | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | 成 果 | 課 題 |
|--------------|--|---|
| 学 校 | 職員では指導することができない専門的な技術指導ができ、クラブ活動に幅ができた。 地域や保護者の方に直接指導していただくことで、学校の児童の様子を知っていただいた。 | 年度当初、年間計画に日程を組んでいたが、学校行事や講師の方の都合により、日程調整が大変なときがあった。 1つのクラブに複数の講師体制をとって、日程調整をスムーズにできるようにする。 |
| * 子どもにとって | 今まで体験したことのないものに、触れる機会ができた。 地域の方と交流することで広がりがあった。 | この取組に協力していただいた方に感謝の気持ちをもてるようにする。 |
| * 子どもにとって | 学校の職員だけでなく、地域や保護者の方に指導していただき、緊張感を持って取り組み、礼儀を学べた。 | この活動を通して、学んだことをこれからの実生活に生かす。 |
| 地 域 (公民館) | 地域の方の持っている知識や経験を生かすことができた。 地域の方に児童の様子や学校の様子をわかっていただけた。 茶道クラブで公民館施設を使用してもらうことで子どもたちに公民館を知ってもらうこともできたのではなかろうか。 | ・地域にはまだまだいろいろな人材がある。より学校との連携を深め、クラブ活動だけでなく、様々な場面で生かせるようにしていきたい。 |

評価及び次年度に向けての取り組みの方向

- ・今まで体験したことのないことをクラブを通して知ることができた。
- ・茶道では礼儀や作法について、手芸ではかご作り、絵手紙では顔彩を使っている絵はがきやうちわづくりなど、地域の方や保護者の持つ技術や知識を直接教わることができた。
- ・年間計画の中に位置づけ活動できた。
- ・クラブ活動に地域の方を招いて3年間の活動を行ってきた。児童の興味関心とのかかわりについてももう少し考えていかななくてはならない。

学社融合活動実施報告

| | | | | | |
|---|---------|---|------|-----------|---------------|
| 学校名 | | 長野小学校 | 公民館名 | 長野公民館 | |
| <p>学社融合における学校・地域の様子 長野地区は、学校と地域が互いに協力し合って行事を行い、各諸団体との関係を密にし一体となって教育に取り組んでいる。地域の教育力を相互に活用し合い、子どもから高齢者まで共に学び合う環境をつくっている。</p> | | | | | |
| 活動名 | | 地域学習「おじいさんおばあさんにおしえてもらったよ」「ふるさと発見！長野のみかん」「お年寄りの方といっしょに防災対策をしよう」 | | 学年・教科・領域等 | 生活科・総合的な学習の時間 |
| 目標 | 学校 | <ul style="list-style-type: none"> ・地域の各種団体との連絡を密にする中で、学校と地域の教育力を育てる。 ・地域の方々との交流でコミュニケーション能力を深め、地域を大切にする気持ちを育てる。 ・地域に貢献している人々の生き方を通し、自分の生き方や進路を考える力を育てる。 | | | |
| | 公民館（地域） | <ul style="list-style-type: none"> ・地域や公民館が学校行事を支援し、地域と学校との関係を密にして児童の健全育成を図る。 | | | |
| <p>支援者及び支援組織 長野公民館 JA紀南長野店 長野小学校育友会</p> | | | | | |
| <p>取り組みの経過(日時・ねらい・活動内容等) 本年度の学社融合の取組として、公民館の協力のもと、子ども達が地域に根ざした育ちを培うため、地域学習を取り入れた学習内容を展開していった。過疎化が進む中で、地域から学ぶことはこの土地に育つものにとって将来的に地域を支えていく力となると考える。ふるさとを学び、地域の人たちが大切にしてきたものや課題を考える機会を持たせていきたい。</p> <p>【1・2年生の取組】「おじいさん、おばあさんにおしえてもらったよ」 (内容)地域のお年寄りの方6名を公民館長より紹介していただき、昔の生活の様子やお手伝い、昔の遊びなどを学習した。6名の老人の方々は3回学校に来て下さり、児童と話したり、遊んだりして交流を深めることができた。</p> <p>【3・4年生の取組】「ふるさと発見！長野のみかん」 (内容)地域の産業学習で、本年度はみかんについて学習した。地域のみかん農家を訪問し、みかん栽培の工夫や苦勞について、収穫作業を学んだ。自分たちもみかんの収穫を体験した。また、JA紀南の農業指導員の方から田辺周辺のみかんの栽培や種類などを学んだ。JA紀南選果場を見学し、選果の方法や出荷までを学習した。地域にとって産業を大切にするには、地域の活性化に繋がり地域を愛する心も繋がる。</p> <p>【5・6年生の取組】「地域のお年寄りの方といっしょに防災対策をしよう」 (内容)昨年度は、防災対策パート1として、田辺市の防災対策や自分たちでできる防災対策について学習した。本年度は、地域の独居老人6名を訪問し、共に防災対策について学び、避難経路や防災グッズについて話し合いを通して学習した。高齢者の多く住むこの地域では、防災対策が大切な課題となっている。住民の安全を守るために児童もこの課題について考え学習が展開できた。</p> | | | | | |

| | 成 果 | 課 題 |
|--------------|---|--|
| 学 校 | <ul style="list-style-type: none"> ・地域に根ざした産業や課題を学ぶことで、郷土を愛する心を育てるよい機会となった。 ・防災学習は、地域の人にとっては切実な問題であり、児童もいっしょに考え取り組むことで地域の一員としての自覚が生まれた。 | <ul style="list-style-type: none"> ・地域の生活や産業についての学習を深め交流していきたい。 ・地域の課題を知り、子どもなりに解決に向けて考えていけるようにしていきたい。 |
| * 子どもにとって | <ul style="list-style-type: none"> ・地域の人たちの仕事や生き方を学ぶことにより地域の人々の苦勞を知ることができた。 ・地域学習を進めることにより社会への関心や地域を良くしようとする意欲が高まってきた。 | <ul style="list-style-type: none"> ・地域の行事に積極的に参加し、地域のすばらしさや暮らす人の願いを学ぶ学習を展開していきたい。 |
| * 子どもにとって | <ul style="list-style-type: none"> ・地域の様子をあまり知らない児童が地域の人々との交流の中で自分たちが大切にされていることを実感できた。 | <ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちと地域を結ぶ行事を企画し、地域とのふれあいを深めたい。 |
| 地 域 (公民館) | <ul style="list-style-type: none"> ・学校と連携し学習内容を話し合い、地域の方々を紹介することができた。 | <ul style="list-style-type: none"> ・講師として交流していただける地域の人を確保し、学校と公民館が連携した取り組みができるようにしていきたい。 |

評価及び次年度に向けての取り組みの方向

【成果】

- 生活科や総合的な学習の時間での地域学習の系統的な学習計画が作成でき、本校独自のカリキュラムが作成できた。
- 地域の方を学校に招き教えてもらうだけでなく、児童が地域の方を訪問し交流を深め、課題に取り組む学習が展開できた。
- 学習発表会では地域学習でのまとめを工夫して発表し、地域の方々から好評であった。

【次年度に向けての取組の方向】

- 公民館と連携して、地域の方々と交流を深める。
- 地域の課題に目を向け、子ども達なりに問題意識を持たせた取組を進める。



1・2年「おじいさん、おばあさんにおしえてもらったよ」



3・4年「ふるさと発見！長野のみかん」



5・6年「地域のお年寄りの方といっしょに防災対策をしよう」

学社融合活動実施報告

| | | | | |
|---|---------|---|-----------|---------------------|
| 学校名 | | 伏菟野小学校 | 公民館名 | 長野公民館 |
| <p>学社融合における学校・地域の様子</p> <ul style="list-style-type: none"> ・伏菟野小学校は、地域の方が育友会準会員という形で会費の面でも援助いただき、児童の見学や遠足等の活動の面で助けられている。 ・地域の方は協力的で、校内環境整備作業や地域のクリーン作戦では、伏菟野区と学校の共催という形をとっている。 ・運動会では、学校と伏菟野区共催で実行委員会を組織し、企画運営に当たっていただいている。今年は、雨天により開催が土曜日に延期となったにもかかわらず、百数十名の方が参加して下さりたいへん盛会であった。 ・地域の特色の一つでもある「ホタル学習」は、伏菟野区在住の谷口昌氏に指導いただき、年間5回の学習計画で実施している。 | | | | |
| 活動名 | | ふれあい交流会 | 学年・教科・領域等 | 全校児童・ 全教科・総合的な学習 |
| 目標 | 学校 | <ul style="list-style-type: none"> ・「地域に開かれた学校」を推進し、「学校と地域が共に児童を育てる」という理想を実現する。 ・学習発表会を計画し、児童のがんばりを保護者、地域の方々に見ていただく。 ・地域の方を講師に、地域の方々と児童が活動を通して交流する。 ・見ていただいた地域の方を、子どもたちの「元気さ」で少しでも元気を取り戻していただく。 | | |
| | 公民館（地域） | <ul style="list-style-type: none"> ・ホタル学習をはじめ、地域のみなさんには総合的な学習などの指導で事業にご協力をいただき、児童を見守っていただいているがより多くの方に児童の学習活動を見ていただく。 ・共に活動（合唱、陶芸）を行うことで、地域と児童が結びつくようにする。 | | |
| <p>支援者及び支援組織</p> <p>体操教室(山口康代氏)・ふるさとコンサート(大正琴サークル”色葉”のみなさん・地域の方)・給食試食会(育友会)・みやご会有志・陶芸教室(西村修次氏)・長野公民館・長野小・長野中・受付(保護者)・熊野川地域の方の送迎(保護者)</p> | | | | |
| <p>取組の経過(日時・ねらい・活動内容等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ふれあい交流会」は、学校開放月間である11月の日曜日に、児童と保護者・地域の方々が交流できる中味になるよう工夫して実施している。 ・今年度も、地域の活性化と学校の活性化を図るために、昨年度の「学習発表会」と「陶芸教室」「ふるさとコンサート」「給食試食会」に加え、「健康体操」・地域の団体である「みやご会の有志による団体演技」を実施した。支援者や支援組織も拡大し、より一層内容の充実した交流会になるように取り組んだ。 | | | | |
| <p>「ふれあい交流会」日程・活動内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日時 平成25年11月17日(日) 9:30～15:30 ・日程 | | | | |
| 時間 | | 内 容 | 場 所 | |
| 9:30 | | <ul style="list-style-type: none"> ○学習発表会 ①校歌斉唱 ②斉唱 「山の子の歌」「ピクニック」 「怪獣のパラード」 「見上げてごらん夜の星を」 ③劇 「水のたね」 | 体育館 | |
| 10:30 | | | | |
| 休憩 | | | | |
| 10:40 | | <ul style="list-style-type: none"> ○健康体操(講師:山口康代氏) ○ふるさとコンサート (大正琴サークル”色葉”) ・大正琴の演奏 ・合唱 ○色葉さん・地域の方・児童との合唱 「もみじ」「ふるさと」 | 体育館 | |
| 12:00 | | | | |
| 12:10～12:45 | | 給食試食会 | 体育館 | |
| 12:45～13:00 | | 昼休憩 | | |
| 13:00～13:30 | | みやご会有志による団体演技 | 体育館 | |
| 13:30 | | <ul style="list-style-type: none"> 陶芸教室 (講師先生の制作実演もを見せていただく) (講師 西村修次氏) | 理科室 | |
| 15:30 | | | | |

| | 成 果 | 課 題 |
|--------------|--|---|
| 学 校 | <ul style="list-style-type: none"> ・ふれあい交流会に向けて児童・教職員全員が協力しあったことは貴重な体験となった。 ・劇の脚本を決定以降の練習期間で児童たちもせりふ覚えは大変だったが、堂々と自信をもって自分の役柄をやり遂げることができた。 ・地域の方と「もみじ」「ふるさと」を合唱し、感動を共有しあうことができた。 | <ul style="list-style-type: none"> ・交流会に向け、8名という少人数で、舞台準備などをはじめ多くのことを行ってきた。交流会が近づくにつれ、色々な準備が重なるため、早くから計画的に取りかかる必要がある。 ・来年度は、好評の給食試食会の持ち方を考える必要がある |
| * 子どもにとって | <ul style="list-style-type: none"> ・学習発表会の歌、合奏、劇の演技等どれも練習の成果を出し、多くの方に見ていただき、達成感を感じられたと思われる。 ・地域の方々、子どもたちの「元気さ」を伝えることができた。 | <ul style="list-style-type: none"> ・来年度も、2～6年生の児童8名同じメンバーで取り組むことになる。チームワークを大切にするとともに、一人ひとりが自分の役割を理解し、交流会に向け協力しながら各自責任を持って取り組んでいく。 |
| * 子どもにとって | <ul style="list-style-type: none"> ・学習発表会でより多くの方に、日頃の学習の成果を見てもらうことで、地域の方に見守っていただいていることを実感できたのではなかろうか。 | <ul style="list-style-type: none"> ・少人数のため、準備等でいろいろ忙しく、大変であったろうと思われるがそれぞれの役割に取り組み、助け合いながら一つのものを作り上げることの大切さを学んでほしい。 |
| 地 域 (公民館) | <ul style="list-style-type: none"> ・本年度は地域団体みやご会によるパフォーマンスや地域住民を講師とした健康教室など児童だけではなく、大人の方も含めた地域の発表会となれた。 | <ul style="list-style-type: none"> ・学校を中心に、より地域が強固にまとまるように公民館も助力していきたい。 |

評価及び次年度に向けての取組の方向

(評価)

- ・学校だよりで参加を呼びかけたり、子どもたちが招待状を全戸配布するなど、参加の呼びかけを行うことによって、大勢の来場者を迎えることができた。
- ・当日は、児童の歌や劇、各団体のパフォーマンス等とおして、地域の方々との楽しい1日を過ごすことができた。この一日で、地域の方々へ感動を届けさせていただいたのと同時に、子どもたちもだし物とおして、大きな自信を得ることができた。
- ・地域の方々や保護者の方々が多様な面で協力してくださり、交流会を盛り上げてくれた。

(次年度に向けての取り組みの方向)

- ・「ふれあい交流会」をはじめとした行事は、学校・子どもたちと地域を結ぶ行事である。このような地域の方々と交流する機会を多くもち、地域の方に学校にきていただくことで、学校の活動を理解していただき、より多くのご協力をいただけるよう働きかけていく。
- ・子どもたちは、地域の方々からの励ましの言葉が大きな自信となっている。そのためにも、多くの方々にご参加

学習発表会



ふるさとコンサート



地元「みやご会」団体演技



健康体操



給食試食会



やきもの教室



学社融合活動実施報告

| | | | |
|---|-------------------------------------|---|------------------|
| 学校名 | 咲楽小学校 | 公民館名 | 龍神公民館福井分館・甲斐ノ川分館 |
| 学社融合における学校・地域の様子 学区民の教育に対する関心は高く、ほとんどの家庭がPTA準会員として物心ともに学校に協力してくれる。各地区の区長、老人会長、女性会代表や公民館分館長、PTA、学校職員等で組織する学校地域連携推進会議を中心にして、学校と学区民との連携を図っている。運動会や学習発表会、学校開放の日には案内を全戸配布し、地域の方にも大勢参加してもらっている。また、教科や総合的な学習の時間に地域の方をゲストティーチャーとして招いたり、児童が地域に出向いたりして学習の幅を広げている。校内には地域の方の作品展示コーナーを設け、年間数回作品を入れ替えて常時絵画や写真等を掲示している。逆に児童の作品も地域の郵便局や文化展等に出品し、地域の方々に楽しんでもらうとともに児童の励みとしている。学年PTAでは地域の方を講師に、藍染めやお菓子作りを保護者と児童がともに楽しむ活動もしている。地域の祭礼では学区民のお世話で児童も事前に笛や太鼓、獅子舞等を習い祭りに積極的に参加するとともに、会場には児童会で作ったゴミ箱を設置するなど、学校と地域との結びつきは強い。 | | | |
| 活動名 | 福井夏祭り・甲斐ノ川子ども講座 学校・地域合同防災学習・防災訓練 | 学年・教科・領域等 | 全学年・特別活動、その他 |
| 目標 | 学校 | ・地域の行事に参加し、地域の人々に支えられていることを理解し、自分も地域の一員であるという自覚を持たせる。 ・地域の人々と関わることで、コミュニケーション能力を高める。 | |
| | 公民館（地域） | ・子ども対象の分館行事を企画運営することにより、地域の活性化を図る。 ・学校と地域がつながることにより、防災力の強化を図る。 | |
| 支援者及び支援組織 学校地域連携推進会議、龍神公民館福井分館・甲斐ノ川分館、各区、龍神行政局総務課、田辺市消防署龍神出張所 | | | |
| 取り組みの経過(日時・ねらい・活動内容等) | | | |
| 5月21日 龍神公民館福井分館運営委員会 (福井夏祭りについて話し合う。地域合同防災訓練のことが話題になり学校も訓練に参加する方向で考えることにする。また、防災学習会については全戸に参加をよびかけることとする。) | | | |
| 5月30日 龍神公民館甲斐ノ川分館運営委員会 (分館行事について話し合い、今年度は運営委員が講師になって子ども講座を3回開くことを決める。地域合同防災訓練には学校も訓練に参加する方向で考えていることと、防災学習会ちらしの全戸配布をお願いする旨伝える。) | | | |
| 6月 各地域で防災学習会のちらしを配布する。 | | | |
| 7月 3日 授業参観と全体会の後、地域の方とともに防災学習会を行う。 | | | |
| 7月 9日 第1回龍神公民館甲斐ノ川分館子ども講座・運営委員会 (地域の方から、北方領土訪問の話聞く。終了後、第2回講座について話し合う。) | | | |
| 7月18日 学校を通して第2回甲斐ノ川分館子ども講座の案内を配布する。 | | | |
| 7月19日 終業式で、夏休み中の地域行事への参加を呼びかける。 | | | |
| 7月26日 福井夏祭り実行委員会(夏祭りの日程や準備について話し合う。案内は、夏休みに入ったため、学校を通さず各地域で配布することにする。) | | | |
| 7月31日 龍神地域防災訓練打合せ会 (地域防災訓練の概要について説明を受ける。) | | | |
| 8月 4日 第2回甲斐ノ川分館子ども講座 (夏休みお楽しみ会として、地域の建設会社の協力で重機「ユンボ」体験を実施する。その後、カレーライスで会食をする。) | | | |
| 8月 5日 福井区と学校とで防災訓練についての打合せを行い、訓練内容について話し合う。 | | | |
| 8月17日 福井夏祭り (子どもを対象に竹トンボづくりとDVD上映を行う。盆踊りではくじびきや食べ物の屋台も用意する。) | | | |
| 9月 1日 龍神地域防災訓練に学校全体で参加する。地域の二次避難所である小学校体育館に地域住民とともに避難した後、応急手当、初期消火等の体験訓練と煙体験を実施する。訓練終了後、区の役員と学校職員で備蓄品の確認を行い、避難所運営について話し合う。 | | | |



| | 成 果 | 課 題 |
|--------------|---|---|
| 学 校 | <ul style="list-style-type: none"> ・地域の児童対象の公民館行事により、学校だけではできない学習や体験をさせることができ、地域とのつながりを持つことができた。 ・防災学習会には保護者や地域の方が出席してくれ、防災意識を高めることができた。また、地域の防災訓練に参加し、授業日に災害が起こった場合の地域住民の動きを把握し、避難所運営のイメージを持つことができた。 | <ul style="list-style-type: none"> ・地域の行事で学校としてできることをさらに考えていきたい。 ・行政主導の防災訓練であったため、訓練の日程や内容が直前まで決定せず、打合せが充分にできなかった。地域住民と児童が同じ場でできるような体験訓練がもっとあればよかった。また、川の増水や山津波を考慮して、学校から他の場所への避難についても考える必要がある。 |
| * 子どもにとって | <ul style="list-style-type: none"> ・地域の方々より深く関わることができた。また、楽しみながら地域の方々から学び、豊かな体験や学習ができた。 ・防災訓練に参加し、地域との一体感が得られた。 | <ul style="list-style-type: none"> ・分館行事は自由参加であるため、全員が参加できるわけではなく、家庭の協力も必要である。 ・授業日でないとき(児童が家庭にいるとき)の、地域における防災訓練も必要である。 |
| * 子どもにとって | <ul style="list-style-type: none"> ・子どもと地域の大人とが、ともに楽しむ時間をもてた。 ・大人の防災意識を高めることが子どもの安心安全につながった。 | <ul style="list-style-type: none"> ・地域の行事や防災訓練に積極的に参加し、地域の一員であるという意識をより強くもってほしい。 |
| 地 域 (公民館) | <ul style="list-style-type: none"> ・分館行事の計画や実施によって、住民間のつながりが強まり、地域の活性化につながった。 ・学習会への参加により防災意識が高まった。また、訓練や話し合いをすることで避難所運営について具体的に考えることができた。 | <ul style="list-style-type: none"> ・地域の公民館行事や学習会等への参加者が固定化してくる。より広く参加を呼びかけたい。 ・もっと児童と一般が一緒に行える訓練があればより学校と地域の一体感が増すのではないかと。 |

評価及び次年度に向けての取り組みの方向

校区内には龍神公民館の分館が二つあるが、今年度から学校職員が甲斐ノ川分館の運営委員会にも所属し活動に参加できるようになった。今後も、学校が両分館の活動に積極的に関わり、地域との連携を密にしていきたい。

また、昨年度初めて学校と公民館共催で防災学習会を実施し、今年度は学校の防災学習会への参加を地域に呼びかけるとともに、地域防災訓練に小学校が参加するという形で合同の避難訓練ができた。来年度以降も何らかの形で学校地域合同の防災学習や防災訓練を行ってきたい。



学社融合活動実施報告

| | | | | |
|---|---------|--|-----------|---------------------|
| 学校名 | | 中山路小学校 | 公民館名 | 龍神公民館 中山路分館 |
| <p>学社融合における学校・地域の様子</p> <p>本校は、地域の諸団体及び敬老会などの地域住民との交流、地域の人材や施設の活用、また、地域活動への参加をとおして、教育目標の達成に努めている。今までの取り組みにより、学校への協力や支援体制にも広がりが見られるようになってきた。今後もお互いの専門性を生かしつつ、学校が地域住民の活動の場となり、生き甲斐の場となるよう公民館とも協力して様々な活動に取り組んでいる。</p> | | | | |
| 活動名 | | せんだん学習会 せんだんもちつき交流会昔学習 | 学年・教科・領域等 | 全校児童・生活科・総合的な学習の時間等 |
| 目標 | 学校 | <ul style="list-style-type: none"> ・学校のシンボルであるせんだんの木について、全校で俳句や絵画、お花見弁当給食に取り組み、地域に住む龍神林業懇話会の方から専門的なせんだんの木についての学習を行った。 ・午前中は、地域の方の指導で餅つき体験を行い、給食試食会や餅試食を通しての交流を行った。午後は、地域の方が先生になって、1・2年生は昔の遊び、3年生は昔の暮らし、4年生はグランドゴルフ、5・6年生は戦争体験についての学習会を行った。 | | |
| | 公民館（地域） | <ul style="list-style-type: none"> ・学校と地域をつなぐ手段として、地域人材や地域の諸団体の情報を学校に提供して頂き、地域の教育力を学校の教育活動に生かす。 ・学校と地域や地域住民同士のつながりを深める活動や生き甲斐づくりを支援する。 | | |
| <p>支援者及び支援組織</p> <p>龍神公民館中山路分館、龍神林業懇話会、安井・上柳瀬・下柳瀬敬老会</p> | | | | |
| <p>取り組みの経過(日時・ねらい・活動内容等)</p> <p>本年度の学社融合の取り組みとしては、学校ができること・できないこと、地域ができること・できないことを意識し、学校力と地域力で子どもを育てる学社融合を目標に取り組んだ。</p> <p>6月12日(水)せんだん学習会 (対象)全校児童 (ねらい)学校と地域人材の教育力を活用し、せんだんをテーマに豊かな心を育てることをねらいとする。 (活動内容)全校によるせんだんの絵画・俳句・作文・せんだんお花見弁当給食と専門家によるせんだんの木についての学習会をクイズ形式で行った。 (支援者)龍神公民館中山路分館・龍神林業懇話会</p> <p>11月13日(水) せんだんもちつき交流会 (対象)全校児童・保護者・地域住民 (ねらい)地域住民の活動の場として、三世代交流の餅つきと昔学習に取り組んだ。 (活動内容)餅つき(低学年:さつまいも餅 高学年:餅つき)と昔学習(1・2年:昔の遊び 3年:昔の暮らし 4年:グランドゴルフ 5・6年:戦争体験) (支援者)龍神公民館中山路分館・3地区敬老会</p> | | | | |
|  | |  | | |

| | 成 果 | 課 題 |
|--------------|--|---|
| 学 校 | <ul style="list-style-type: none"> ・公民館と協賛した運動会種目に加え、地域行事への児童の参加をとおして、学校との協力関係が深まった。 ・学校ができることと地域の方ができることを意識し、単にゲストティーチャーに教わるだけではなく、学校で取り組み教え、地域の方からも学ぶ学校力と地域力とで子どもを育てる取り組みが持てた。 | <ul style="list-style-type: none"> ・地域住民の高齢化が進み、講師の人選や今までの活動内容の見直しが必要になっている。村の人口減少もあり、校区にこだわらず村内からの講師招聘を公民館と協力して行う必要がある。 |
| * 子どもにとって | <ul style="list-style-type: none"> ・事前に学校でも取り組むことで、興味関心がわき、地域の方の専門的な学習をとおして、学校のシンボルであるせんだんの木や昔の地域の様子・生き方について学ぶことができた。 | <ul style="list-style-type: none"> ・学校で事前に取り組むことが大切であるので、事前活動を計画して、自主的な活動を目ざす取り組みを今後も企画したい。 |
| * 子どもにとって | <ul style="list-style-type: none"> ・地域の方から学ぶ昔学習が子ども達にとっても楽しい体験であり、このことをとおして、地域の一員としての自覚と地域の方に見守られていることを感じる機会となった。 | <ul style="list-style-type: none"> ・昔学習や給食試食をとおして地域の方との交流をもつことができたので、地域行事への参加など、地域の一員としての自覚を持たせる取り組みを今後も続けたい。 |
| 地 域 (公民館) | <ul style="list-style-type: none"> ・3地区の敬老会だけではなく、地域の中から講師を人選していただくことで、学校と地域、学校と公民館、公民館と地域の結びつきが強くなった。 ・地域の行事へ職員や児童が参加することで地域の方との親密なつながりを持つことができた。 | <ul style="list-style-type: none"> ・公民館が主催する地域行事への児童の参加や地域の施設訪問や地域探検の機会を企画し、地域学習に今後も取り組みやすい環境を整えたい。 |

評価及び次年度に向けての取り組みの方向

(評価)

・せんだん学習会を学校と林業懇話会の方との共同で実施することで、学校のシンボルであるせんだんについて子ども達の興味関心を高めることができた。

・せんだんもちつき交流会の内容を一新し、地域の方を講師に招いて昔学習を行うことができた事と学校と地域が一体となってせんだん学習会を実施したことが今年の大きな成果である。この取り組みが学習発表会での地域の方の参加など、その後の学校行事への地域の方の協力に繋がるなど、地域と一体感を持つことができたと考える。

(次年度に向けての取り組みの方向)

学校ができること、地域ができることを意識して、学校と地域の教育力で子ども達を育てる学社融合を目ざしたい。

・地域住民の高齢化等により、講師の人選などが困難になるため、公民館とより協力して取り組みを進める必要がある。

学社融合活動実施報告

| | | | | |
|--|---------|---|-----------|---------------------|
| 学校名 | | 上山路小学校 | 公民館名 | 龍神公民館殿原分館・東西分館・宮代分館 |
| <p>学社融合における学校・地域の様子</p> <p>統合して5年目を迎える本校は、6つの区、3つの公民館分館、婦人会、そして多くの高齢者学級、老人クラブ、自主団体等に支持され学社融合を図っている。昨年度からは、田辺市教育委員会より公民館と共に指定を受け、統合校としての学社融合の在り方、地域を活性するための学社融合の在り方について研究を進めているところである。</p> <p>その取組の一つとして、積極的に学校から出て活動することで地域との交流を行っているが、本校から最も遠い丹生ノ川地区には出向くことができていなかった。そこで昨年度、丹生ノ川地区に出向き授業参観・交流を行ったが、地域に大変喜ばれ盛り上がり上げていただいた。今後も続けてほしいという地域の方々の声に応えて今年度も交流授業を計画した。</p> | | | | |
| 活動名 | | さかさま授業参観 | 学年・教科・領域等 | 4・5・6年 国語 |
| 目標 | 学校 | <ul style="list-style-type: none"> ・丹生ノ川地区の方々と交流しながら、地域の様子を知る。 ・地域の方々とふれあいながら、コミュニケーション能力を養う。 | | |
| | 公民館（地域） | <ul style="list-style-type: none"> ・授業や活動を通して、子どもとふれあいながら学校教育を理解する。 ・地域の方々が交流する機会を設け、地域の活性化を図る。 | | |
| <p>支援者及び支援組織</p> <p>丹生ノ川区・丹生ノ川はてなしクラブ・4年学級PTA・5年学級PTA・6年学級PTA 校区在住の丹生ノ川小元職員</p> | | | | |
| <p>取り組みの経過(日時・ねらい・活動内容等)</p> <p>「閉校になった丹生ノ川小学校で授業が行えたら」という地域の声で始まった丹生ノ川交流授業。2回目の今回は、子どもたちの授業を地域の方々に参観していただく授業参観と、丹生ノ川小で教鞭をとられていた古久保節子先生が再び教壇に立ち、地域の方が生徒になって受ける授業を子どもたちが参観するという「さかさま授業参観」が実現した。取組に先立ち、今年度は公民館が中心となり地域をまとめながら計画することで、地域が主体となった取組とすることを目指した。</p> <p>○取り組みの経過</p> <p>8月 学社融合推進委員会にて公民館が主になって活動を進めることを話し合う。</p> <p>9月19日(木) 丹生ノ川集会所にて、区長、はてなしクラブ会長、民生児童委員、PTA、公民館主事、地域の方、学校とで計画を立てる。</p> <p>10月 丹生ノ川区長が案内を配布しながら地域に働きかける。</p> <p>10月10日(木) さかさま授業参観の打ち合わせに、古久保先生来校。</p> <p>10月16日(水) 古久保先生の伴奏で丹生ノ川小学校の校歌斉唱練習。</p> <p>10月18日(金) 上山路小学校校区全戸に児童、職員で案内ビラを配布。</p> <p>10月23日(水) 会場準備。</p> <p>10月24日(木) 丹生ノ川交流授業を実施。</p> <p>○丹生ノ川交流授業の内容</p> <p>1 授業参観 4年生「国語：慣用句を知ろう！」 5・6年生「国語：俳句を作ろう！」 俳句の授業では、地域の方々も一緒に俳句を詠む。</p> <p>2 さかさま授業参観 「丹生ノ川小学校の懐かしいエピソード」「かさじぞう読み聞かせ」 古久保先生による24年前の発表会でのかさじぞうの語りを再現、当時の思い出の語りの後、地域の方と思い出を語り合う。</p> <p>3 校歌交流 「上山路小学校校歌」「丹生ノ川小学校校歌」 児童は、この日のために丹生ノ川小学校の校歌を練習し、会場が一体となって校歌を斉唱する。</p> <p>4 交流会 全員参加のゲームで親睦を温める。</p> | | | | |

| | 成 果 | 課 題 |
|--------------|---|---|
| 学 校 | <ul style="list-style-type: none"> ・地域の方々に子どもたちの様子や学校について知っていただく機会となった。 ・地域の方々が参加する授業づくりを行うことができた。 | <ul style="list-style-type: none"> ・参加者は高齢の方が多く、板書や聞き取り等伝えることを念頭に置いた計画の必要がある。 ・参加者がより増え、より地域と結びついた取組となるよう、次年度以降の活動内容を考える。 |
| * 子どもにとって | <ul style="list-style-type: none"> ・地域の方々と交流を広めることができた。 ・地域の方々の話を聞き、地域の様子や丹生ノ川の方々の地域に対する思いを知ることができた。 | <ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーション能力を高め、より積極的に交流する。 |
| * 子どもにとって | <ul style="list-style-type: none"> ・統合で校区が広がったが、より広くなった地域を知ることにより上山路地区への愛着が深まる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・丹生ノ川地区だけでなく、より地域を知ることができるような活動作りを行う。 |
| 地 域 (公民館) | <ul style="list-style-type: none"> ・交流授業を通して、学校と地域の結びつきを深めることができた。 ・地域の方々がお互い交流しあえるような場を提供することができた。 ・公民館主事・分館長を中心に学校、公民館、地域が連携しながら学社融合を進めることができた。 ・交流授業を行うことで、地域に活気が生まれた。 | <ul style="list-style-type: none"> ・公民館が中心となって、より地域が活性化できる活動を考える。 |

評価及び次年度に向けての取り組みの方向

○評価

・公民館主事や分館長が中心となって企画し、地域が主体となって学校を巻き込んだ活動を行う体制づくりを始めることができた。
 ・地域の方々をビックリさせようという古久保先生の発案で生まれた丹生ノ川小学校校歌斉唱だが、校歌と一緒に歌うことで一体感が生まれ、より深く心が通じ合うことができた。また、当時の地域の様子を生の声で聞くことにより、地域に対する人々の思いに接することができた。

○次年度に向けての取り組みの方向

・交流活動への参加者がより増えるよう、学校と公民館、地域で案を出し合いながら、次年度の計画を立てたい。
 ・今後も公民館主事や分館長を中心に取組を進め、こういった交流活動がひとつのきっかけとなって地域の活性化が進むことにつながればよいと考える。



学社融合活動実施報告

| | | | | |
|---|---------|--|-----------|-------------------------|
| 学校名 | | 龍神小学校 | 公民館名 | 龍神公民館 龍神分館 |
| <p>学社融合における学校・地域の様子 龍人学の礎である「龍神の元気の素は人にあり」を旗印にして学社融合を推進することにより、龍神の人を元気にすることを目標に取り組んでいる。「ダイヤモンドを磨くのはダイヤモンドである。人を磨くのもまた人である」という共通認識の下、児童を地域で生活する様々な方々と触れ合わせることで、児童も地域の方も元気になっています。 保護者や地域の方は、学校の教育活動にたいへん協力的です。運動会はもとより、様々な学校行事、授業に地域の方が学校を訪れます。</p> | | | | |
| 活動名 | | 龍人学を通して元気な人を育てる | 学年・教科・領域等 | 全学年 総合・生活・特別活動・学校行事他 |
| 目標 | 学校 | <ul style="list-style-type: none"> ・学校を地域に開き、学習や行事等に参加してもらうことにより、子どもの様子や教育課程の実施状況について理解してもらう。 ・地域の素材や優れた人材を活用し、生きた教育活動を展開する。 ・学校と区民の交流・連携を深め、児童の健全な育成を図る。 | | |
| | 公民館（地域） | <ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちと触れ合うことにより、元気になる。 ・学校との連携を図る活動を通して、地域で子どもたちを育てようとする態度を育てる。 | | |
| <p>支援者及び支援組織 龍神村商工会 龍神公民館龍神分館</p> | | | | |
| <p>取り組みの経過(日時・ねらい・活動内容等)</p> <p>①「運動会で龍神温泉美人体操をみんなで踊ろう」 9月29日(日) 学校・保護者・地域が一つになって行う運動会で、校区内にある龍神温泉にちなんだ美人体操を参加者みんなで踊ることにより、より地域の繋がりが強くなり、みんなが元気になることを目的として取り組んだ。7月に行われた全校参観日には、商工会会員の方にインストラクターとして来て頂き、児童・保護者・職員が振り付けの指導をしていただいた。運動会当日は、児童・保護者・中学生、地域の方々が一つになり、晴天のもと「龍神美人体操」を踊った。</p> <p>②「体力を高める運動」 11月28日(木)4時間目 対象4・6年生 地域在住の龍神スポーツクラブ代表であり、和歌山県スポーツ推進委員協議会副会長である富田進さんに、持久走を中心として、一つの運動また複数の運動を組み合わせる動きを持続する能力を高める運動を学習した。</p> <p>③「Jazzに親しもう」 12月9日(月)3・4時間目 対象 全校児童 龍神村出身のJAZZシンガーである青紀ひかりさんを招聘し、ジャズや海外でのライブ活動についての話を聞いたり、発声練習など一緒にした。英語・中国語・スペイン語などの曲を聴き、子どもたちは楽しく音楽に関わり、音楽に親しみ明るく潤いのある生活を送ろうとする態度を育てることができた。歌手が小学校時代からの夢である話も聞き、児童の心を揺り動かした。</p> <p>④「戦時中の話を聞こう」 12月18日(水)3・4時間目 対象 6年生 日華事変・我が国にかかわる第二次世界大戦について、校区内にすむ現在84歳の板木平勇一さんに話を聞くことにより、児童の学習がより主体的に、より具体的なものとなった。 当日の授業までに、話をしてくださる地域の方に何度も学校を訪れていただき、担任と綿密な打合せを行うことにより、より効果的な学習となった。</p> | | | | |
|  | | | | |

| | 成 果 | 課 題 |
|--------------|--|---|
| 学 校 | 学校に来てくださる地域の方が増え、学校教育への理解が深まった。 友だちや教師以外の人から、激励されたり、認められたりすることによって、児童の自己肯定感が増した。 保護者・地域の方との関係がより密度の濃いものとなった。 | 地域の方と教職員が取り組みについて、共に反省する機会を持つ。 |
| * 子どもにとって | 龍神村のいろいろな方々が、龍神村を盛り上げるために様々な取り組みをしていることを知ることができた。 みんなで活動することの楽しさを知った。 | 子どもの視点をより大切にした取り組みを行っていく。 |
| * 子どもにとって | 地域の方が自分たちのために、さまざまなことをしてくれていることを知り、感謝の気持ちを持つことができた。 | 本年度は様々な場で感謝の気持ちを伝えたが、伝え方・伝える内容・伝える対象を整理する必要がある。 |
| 地 域 (公民館) | 地域の方が、学校教育に興味・関心を持ち、地域で子どもたちを育てようという気持ちが育った。 地域の方が、より子どもたちを好きになった。 | 学校教育に協力していこうとするグループを作っていく必要がある。 |

評価及び次年度に向けての取り組みの方向

(評価)

龍神公民館龍神分館長さんに、「6年生の社会科で戦時中の話をしていただける高齢者の方をさがしている。」と相談したところ、地域で最適な方を紹介して下さった。授業当日も学校を訪れ、授業を見て下さった。また、板木平さんは、学習発表会にも初めて足を運んでいただき、子どもたちの発表を応援して下さった。児童のお礼の便りにも丁寧な返事をいただき、児童との交流が始まった。社会科の授業を通して、新しい出会いがあり、かかわった人みんなが元気になった。

龍神温泉美人体操の取り組みでは、この体操を通して人々がつながった。このような取り組みを継続していきたい。

「JAZZに親しもう」では、保護者や地域の方が学校を訪れ、音楽を通し、世代を超えて楽しい時間を共有することができた。また、夢の大切さを知り、児童にとって学校生活がより充実したものとなった。

上記の取り組みは、本年度初めて取り組んだことであるが、「体力を高める運動」の取り組みは、以前から行っている継続的な取り組みである。「今年は富田先生、いつ教えに来てくれるのですか。」という声が子どもたちからでるようになってきている。

(次年度に向けて)

- ・龍神公民館龍神分館長さんと学社融合について話をする機会を定期的に持ち、今年度より関係を密にしていく。
- ・以前から取り組んでいる継続されている取り組みの意義を再度確認し、より充実したものとする。
- ・子どもたちの視点を学社融合の取り組みに生かしていく。

学社融合活動実施報告

| | | | |
|-----|--------|------|----------|
| 学校名 | 中辺路小学校 | 公民館名 | 中辺路拠点公民館 |
|-----|--------|------|----------|

学社融合における学校・地域の様子
 ・ふるさとの良さを知り、ふるさとを誇りに思う子を願ってのふるさと学習を核に、学校・保護者・地域が一体となった学びの町作りを目指し活動をしている。
 ・開かれた学校を心がけ、様々な行事を通して地域の方々に学校を訪れていただき、子どもたちが頑張っている姿を見ていただけるよう努めている。
 ・6年間の中辺路ふるさと学習を策定し、地域の支援を受ける学びの体制作りに取り組んでいる。

| | | | |
|-----|----------|-----------|-----------------------|
| 活動名 | 学びの町 中辺路 | 学年・教科・領域等 | 生活科・社会科・家庭科・総合的な学習の時間 |
|-----|----------|-----------|-----------------------|

| | | |
|----|---------|--|
| 目標 | 学校 | <ul style="list-style-type: none"> ・地域の方と共に学び、地域に親しみをもつことができる。 ・ふるさと中辺路に愛着をもち、その良さ、魅力を発信することができる。 ・地域の方々に協力参加していただくことにより、学校と地域の関係を密にしていく。 |
| | 公民館（地域） | <ul style="list-style-type: none"> ・学びの支援者として、地域の教育人材の発掘と学校支援の拡大を進める。 ・地域の子を学校と共に見守り育てる教育の基盤を深めていく。 ・地域の方々に、学校と公民館が協力し合って教育活動を進めている取り組みを紹介していく。 |

支援者及び支援組織
 学習支援者(AT:エリア・ティーチャー)・・・地元在住の旧小学校卒業生・地元女性会・子ども三番壱保存会等

取り組みの経過(日時・ねらい・活動内容等)

【ねらい】
 ・地域の方と共に学び、地域に親しみをもつことができる。
 ・ふるさと中辺路に愛着をもち、その良さ、魅力を発信することができる。

【活動内容】
 ○1年・・・学校や学校周辺を探検する学習を通して、秋みつけや不思議みつけをし、学習支援者にアドバイスをもらったり、新たな投げかけをしてもらったりした。
 ○2年・・・友達の家をたずね、地域を探検する学習を通して、広くなった校区を見て回り、疑問に思ったことや、発見したことなどに答えてもらったり、昔の地域の様子を教えてもらったりした。
 ○3年・・・校区探検をし、校区マップにまとめる学習を通して、中辺路の昔のくらしを教えてもらったり、いろいろな体験をさせてもらったりした。
 ○4年・・・閉校になった小学校の沿革や校歌を調べる学習を通して、閉校になった学校の校歌について当時の様子や思いなどをお聴きし、当時の校歌を聴かせてもらった。
 ○5年・・・地域の産業を調べ、体験する学習を通して、地元の産業を知ることができた。
 ○6年・・・ふるさとの良さをガイドブックにまとめる学習を通して地域の人のアドバイスを受けながら地元のガイドブックを作った。



| | 成 果 | 課 題 |
|--------------|--|---|
| 学 校 | <ul style="list-style-type: none"> ・年間を通して、郷土を学習の軸に、支援者とともに発展的に深めることができた。 ・中辺路の歴史・文化・自然について学び、「ふるさと中辺路を誇りとする子」を願う、ふるさと学習の道筋が確立できた。 | <ul style="list-style-type: none"> ・今回、支援していただいた方々が、さらに呼びかけを広めていただき、地域全体に広がる支援者の参加体制を構築したい。 ・校区の多くの地域について、各学年、各年度の学習計画と地域人材をさらに明確にすること。 |
| * 子どもにとって | <ul style="list-style-type: none"> ・児童一人ひとりがそれぞれ課題を見つけ、ふるさと学習に取り組む上で、学習支援者のおかげで、深まりのある学びができた。 | <ul style="list-style-type: none"> ・児童の視野の広がりを、ふるさと学習を通してどのように拡大していくか。 ・児童の自主的な活動や地域と結びついた学習活動を工夫していく必要がある。 |
| * 子どもにとって | <ul style="list-style-type: none"> ・地域にすむ人たちが、分かり易いアドバイスをくれることにより、より身近な存在となり、地域の先生を一層実感できた。 | <ul style="list-style-type: none"> ・校区に多くの集落があるが、年間授業時数の関係で学習の対象となる地域が限られるため、6年間を見通した計画が必要となる。 |
| 地 域 (公民館) | <ul style="list-style-type: none"> ・地域の伝統や文化など様々な資源を学校の教育の場において、効果的に活用できた。また、これらの地域の資源や人材の発掘につながった。 ・学校と公民館が連携し、保護者、地域の多数の協力、支援により、共育コミュニティ本部事業を盛会に実施することができた。 | <ul style="list-style-type: none"> ・公民館は、学校と地域人材の橋渡し役として地域人材の情報をつかみ、人材確保に努めること。また、さらに多くの地域の人材ネットワークを広げていくことが大きな課題である。 ・学校と公民館がより連携を深めていくこと。 |

評価及び次年度に向けての取り組みの方向

- ・地域の人々のふるさとによせる思いや学びの深さを実感でき、郷土について再認識できた。
 - ・11月17日(日)の「中辺路地域コミュニティ本部事業発表会」は地域の多くの方々の支援により、盛会に実施できた。ふるさと学習の中味を多くの方に紹介できる機会となった。
 - ・年間を通した取り組み提示や支援者希望の学校発信をしっかりと行い、公民館と一層のつながりを深める。
 - ・今後の取り組みの方向として、中辺路共育コミュニティのメインテーマ「学びの町 中辺路 ともに育み ともに育つ」の方向性のもと、ふるさと学習を継続していく。
- 【子ども三番叟】 【校歌披露】



| | | | | |
|---|---------|---|-----------|---------------------|
| 学校名 | | 近野小学校 | 公民館名 | 中辺路公民館 近野分館 |
| 学社融合における学校・地域の様子 | | | | |
| <p>年間を通しての諸行事の中で、保育園、小中学校、公民館、校区の諸団体との連携を図るため、代表者による実行委員会を設置し、諸行事を運営していくことで学社融合の取り組みを進めている。地域の方々は大変協力的で子どもたちとも積極的にふれあってくれる。また、そのふれあいを楽しみにしていて喜んでくれている。さらに、地域や公民館との連携を充実させ、学社融合をめざし取り組みを進めていきたい。</p> | | | | |
| 活動名 | | 近野区民体育祭 | 学年・教科・領域等 | 全学年 体育・特別活動・学校行事 |
| 目標 | 学校 | <ul style="list-style-type: none"> ・児童の運動能力を高め、体力の向上を図ると共に、運動に親しむ態度を育てる。 ・基本的な集団行動を習得させるとともに、責任感や連帯感を育てる。 ・保育園児、中学生、地域の方々との交流を通して、地域に支えられていることを理解し、地域の一員であるという自覚を持たせる。 | | |
| | 公民館（地域） | <ul style="list-style-type: none"> ○地域の伝統や文化、自然環境などを大切にし、学校と地域の各種団体や協力者と連携しながら、子どもと地域住民の交流を深め地域の活性化を図る。 | | |
| 支援者及び支援組織 | | | | |
| 保育園、中学校、近野小PTA、近野中育友会、近野振興会、JA女性会、野中果無寿会、地域住民 | | | | |
| 取り組みの経過(日時・ねらい・活動内容等) | | | | |
| 7月 | 2日 | 平成25年度近野分館行事 全体会議 案内状配付(約50人) | | |
| 7月 | 9日 | 平成25年度近野分館行事 全体会議 | | |
| | | <p>参加者 近野分館長 小中学校長 保育園主任 近野振興会会長 各常会長 常会役員 JA女性会長 小学校PTA会長 中学校育友会長 小中教頭 小中体育主任 他</p> <p>今年度の連携行事について確認の後、近野区民体育祭の運営組織、実施計画、役割分担、種目、準備物、予算等について話し合う。地区の高齢化にともない一般参加種目を再考する必要があるなどの意見が出された。</p> | | |
| 7月 | 24日 | 小中合同職員会議をもち、近野区民体育祭の取り組みについて、昨年度の反省をもとに、特に小中の役割分担や小中学校通しての縦割り活動の配慮を要する点について話し合う。 | | |
| 8月 | 数日 | 小中体育主任、近野振興会代表、事務局(小学校教頭)等で連絡調整を行う。 | | |
| 8月 | 28日 | 運動会プログラムを地域全戸に配布。 | | |
| 9月 | 3日 | 小中合同縦割り班会議を開き、班の目標、小中合同種目の参加メンバー等について子どもたちで話し合いを行う。 | | |
| | 9日 | 中辺路音頭講習会 地域の方2名に来ていただき、踊りを教えていただく。 | | |
| | 3回 | 小中学校による合同の練習、その都度職員間で打ち合わせを行う。 | | |
| | | 近野振興会、JA女性会による一般種目の準備、景品の買い出しと準備 | | |
| | 12日 | 小中合同運動会予行練習、その後職員合同で反省打ち合わせ | | |
| | 14日 | 区民体育祭準備、合同打ち合わせ | | |
| | 15日 | 区民体育祭 延期 町内放送にて連絡 | | |
| | 16日 | 区民体育祭 延期 町内放送にて連絡 | | |
| | 22日 | 区民体育祭準備、実施 | | |
| | 25日 | 体育祭お礼状を近野地域全戸に配付 | | |
| 10月 | 1日 | 学校便りに体育祭、小中合同縦割り班会議、中辺路音頭講習会等の記事と写真を掲載し、全戸に配布する。 | | |
| | 9日 | 小中合同職員会議にて、それぞれが同じ項目で反省した内容について再確認する。 | | |



| | 成 果 | 課 題 |
|--------------|---|--|
| 学 校 | <ul style="list-style-type: none"> ・天候の都合で2度も延期になり心配されたが、地域の方々にも多く参加していただき、学校の取り組みを見ていただいたことは、より一層の学校理解につながった。また、児童の成長を共に喜べることは大変意義のあることである。 ・地域の方に中辺路音頭を教えに来ていただいたことで、こどもたちの意欲も高まった。 | <ul style="list-style-type: none"> ・高齢化が進み、児童数も減少し、1ターンの家庭が増えてきている中で、実の祖父母と孫の関係が少なくなっている状況ではあるが、できるだけ多くの方々に参加してもらえよう、運営の仕方やプログラムの内容、広報活動等色々な面で改善に努める。 |
| * 子どもにとって | <ul style="list-style-type: none"> ・多くの地域の方々に練習の成果を見ていただくことができ、当日も応援いただいたことで大きな励みとなった。 ・地域の方々も共に運動会を支えてくれていることを知り、地域の一員である自覚を持ち、故郷を大切に作る心が強くなった。 | <ul style="list-style-type: none"> ・地域の方々にしていただくだけでなく、自分たちも一緒に運動会を盛り上げていくという意識を持って取り組めるようにする。 ・地域の方々に支えていただいていることに対する感謝の気持ちを忘れないで、故郷を愛する気持ちを持ち続ける。 |
| * 子どもにとって | <ul style="list-style-type: none"> ・地域にとって大きな行事である区民体育祭などの場で、元気な近野の子ども達と地域の高齢者や運動会を楽しみにふるさとに帰った方など多くの地域の方々と交流することができた。 | <ul style="list-style-type: none"> ・地域の伝統や文化を地域住民の方々とともに学び、育てていきたい。 |
| 地 域 (公民館) | <ul style="list-style-type: none"> ・区民体育祭をはじめ、近野フェスティバルなど地域をあげての行事活動を学校と公民館とが一体となって実施していくことにより、地域の融和と活性化が図れた。 | <ul style="list-style-type: none"> ・地域の高齢者が増えているなか、移住者家族が増えてきているので、学校の様々な行事を通じて近野地域の住民交流やコミュニティ形成が図れるよう、継続的な取組を行っていきたい。 |

評価及び次年度に向けての取り組みの方向

- ・各種団体から50名近いメンバーで実行委員会を立ち上げ話し合いをする事で、改善点を見つけ、学校と地域が共通理解して取り組めるので、それぞれが役割を果たし、スムーズな運営ができています。
- ・今年の近野区民体育祭は、悪天候のため、2度の延期になったが、事前に町内放送を依頼していたことや、前日に再度放送を依頼し、当日は雨でも体育館で行うことなどを放送してもらった事により、大きな混乱もなく、1日を通して200名近い参加者があり、地域あげての大運動会となった。
- ・昨年の反省を生かし、今年度から新たに行事の運営面で中学校との協力・連携のために、担当者だけでなく全職員による合同会議を行い、合同練習の後にも打ち合わせを行うことで、スムーズな運営ができた。
- ・この行事は、近野地域の異世代の方々が一堂に集う大変重要な場である。地域は高齢化が進み、老人会も解散する。児童数・保護者も減少し、1ターンの家庭が多い。そんな中で、学校のとるべき役割は大変大きいと考えられる。できるだけ、地域の意見が反映できるように情報を収集し、また、地域に対して情報を発信し、引き続き多くの方々に参加してもらえるようにしていきたい。



学社融合活動実施報告

| | | | | |
|--|---|---|-----------|----------|
| 学校名 | | 鮎川小学校 | 公民館名 | 大塔公民館 |
| 学社融合における学校・地域の様子 当地域は田辺市街地および上富田町へ勤務する人が多く在住しており、児童の保護者世帯も共働きの多い。そのため、放課後の過ごし方を見たとき、子どもたちだけでの室内遊び、ゲーム機器を使った遊び等が多く、親以外の大人と触れ合う機会も少ない。そのことから遊びの単一化や大人とのコミュニケーションの不足など、社会性の発達面に弱さを感じさせるところがある。そんな中で、放課後の「ふれあいスクール」の取り組みは、地域の大人とふれあい、興味関心を広げる貴重な機会となっている。教科学習における学社融合もここ2、3年でかなり定着してきた。低学年では「昔遊び」、中学年では「昔のくらし」、高学年では「ミシンサポーター」「園芸」などの取り組みで、地域の人から学び、交流している。 | | | | |
| 活動名 | | 鮎川ふれあいスクール | 学年・教科・領域等 | 全学年(希望者) |
| 目標 | 学校 | 学校・地域・家庭が一体となった大きな輪の中で児童の健やかな成長を育むとともに、保護者や地域の方々と触れ合うことによって、コミュニケーション能力の育成を図る。また、地域の教育資源を生かし、児童の生きる力の育成を図る。 | | |
| | 公民館(地域) | 学校との連携のもと、「学び」及び「地域住民との交流」の機会とし、心豊かな子どもを育むとともに、地域住民も子どもとふれ合う喜びを分かち合い、「地域の子どもは地域で育てる」といった意識・環境づくりを推進し、地域力を高める。 | | |
| 支援者及び支援組織 鮎川ふれあいスクール実行委員会(学校・公民館、子どもクラブ、PTA、大塔老人会、大塔女性会、大塔地区食生活改善推進協議会)、地域ボランティア | | | | |
| 取り組みの経過(日時・ねらい・活動内容等) 放課後や夏休みなどを利用し、地域住民との交流を通して、子どもたちにさまざまな体験をしてもらう機会として下記のとおり事業を実施。 | | | | |
| 5月7日 | 第1回ふれあいスクール実行委員会 地域における子育てボランティアの皆さんをはじめ、老人会や女性会、食生活推進協議会などの団体と小学校、公民館が実行委員会を組織し、活動計画について話し合う。また、学校、地域、公民館の三者で子育てについて意見交換し、交流を深めた。 | | | |
| 5月22日 | 上を目指そう！チャレンジランキング(1.2年生) | 4種のミニゲームを実施 | (13人参加) | |
| 5月29日 | 囲碁を体験しよう！(全学年) | 囲碁教室を実施 | (10人参加) | |
| 6月5日 | 茶道教室(3~6年生) | 茶道教室を実施 | (37人参加) | |
| 6月19日 | 風鈴を作ろう！(3~6年生) | ミニ植木鉢で風鈴づくりを実施 | (50人参加) | |
| 6月20日 | お手玉を習おう！(1~2年生) | (大雨のため中止) | | |
| 7月3日 | ビーズでアクセサリを作ろう！(1.2.5.6年生) | ビーズアクセサリ作りを実施 | (33人参加) | |
| 7月10日 | ビーズでアクセサリを作ろう！(3.4年生) | ビーズアクセサリ作りを実施 | (17人参加) | |
| 9月4日 | 押し花アートをしよう！パート1(4~6年生) | (大雨警報のため中止) | | |
| 9月11日 | 押し花アートをしよう！パート2(4~6年生) | 押し花アート作品づくりを実施 | (18人参加) | |
| 10月2日 | 茶道教室(3~6年生) | 茶道教室を実施 | (29人参加) | |
| 10月23日 | パンブキンスープとパンケーキを作ろう！(2.4.6年生) | パンブキンスープとパンケーキづくり | (22人参加) | |
| 10月30日 | パンブキンスープとパンケーキを作ろう！(1.3.5年生) | パンブキンスープとパンケーキづくり | (36人参加) | |
| 11月6日 | クリスマス工作(1.3.5年生) | ミニツリーほか紙工作を実施 | (26人参加) | |
| 11月20日 | クリスマス工作(2.4.6年生) | ミニツリーほか紙工作を実施 | (24人参加) | |
| 11月30日 | グラウンドゴルフ大会に参加しよう！(全学年) | 交流グラウンドゴルフ大会に参加 | (14人参加) | |
| 12月4日 | ケーキの飾り付け(2.4.6年生) | ケーキの飾り付けを実施 | (34人参加) | |
| 12月11日 | ケーキの飾り付け(1.3.5年生) | ケーキの飾り付けを実施 | (33人参加) | |
| 12月18日 | ミサンガを作ろう！(3.4.6年生) | 刺繍糸でミサンガづくり | (41人参加) | |
| 1月15日 | 凧をつくろう！(1.2.3年生) | 凧づくりと凧上げを実施 | (19人参加) | |
| 1月22日 | 茶道教室(3~6年生) | 茶道教室を実施 | (24人参加) | |
| 1月29日 | 保育園児と仲良くなろう！(5年生) | 保育園を訪問し園児と交流 | (18人参加) | |
| 2月23日 | ポップリづくりを体験しよう！(全学年) | ポップリづくりを実施 | | |
| 2月23日 | バルーンアートを体験しよう！(全学年) | バルーンアートづくりを実施 | | |

| | 成 果 | 課 題 |
|--------------|--|--|
| 学 校 | 子どもたちの興味関心に広がりが見えはじめ、保護者にとっても安心して活動させられる場となっている。また、教師だけのときよりも内容や指導方法の幅が広がり、多様な学習のニーズに応えることができるようになった。 | 人気のある講座では、参加人数が多く、放課後であるため集合時間にそろいにくい。公民館までの移動に安全上の心配があるときは、学校からも引率するようにしている。 |
| * 子どもにとって | 材料費が必要な場合に申込書を出す時点で前納することが徹底できてきた。地域の方のわかりやすい助言に親近感を覚え、気持ちよく活動することができた。 | 集まった子どもの人数や活動内容によっては、統率しにくいところもあり、学校での教師の指示に比べて、地域の先生の指示を聞きにくい児童がいる。 |
| * 子どもにとって | 子どもたちは、毎回ふれあいスクールへの参加を楽しみにしている。当地域においても核家族が多い中、各世代の住民と交流し、いろいろなことを学ぶことで、心豊かな成長につながっている。 | 子どもによっては、少し騒いだりする児童も見受けられることから、ふれあいスクールにおいても、今一度、基本的な礼儀作法等について指導を行い、改善を図りたい。 |
| 地 域 (公民館) | 年々協力して下さる方が増えており、地域による子育ての意識が高まっている。「子どものためになるなら、いつでも協力しますよ」「子どもとふれあうのは楽しい」など、多くの意見をいただいている。授業のサポーターとしても積極的に協力して下さり、「地域による子育て」への関心が高まっている。 | 多くの皆さんから、ご協力をいただいているが、今後は企画面においてもより一層の参画をお願いするとともに、新たな協力者を募り、地域による子育ての輪を広げていきたい。 |

評価及び次年度に向けての取り組みの方向

(1)ふれあいスクール

年度当初、実行委員会で活動の企画や立案をし、年間を通して月3回程度開催できている。長年の継続した取り組みから、児童の参加も多くなっており、公民館・学校の学社融合事業として地域に根付いたものになってきていると感じている。しかし、①活動の運営について、学校職員の関わり方が今のままでいいのかどうか ②ふれあいスクールでの児童の学習規律の向上を図るため、学校で行わなければならない指導は何か ③指導者や協力者の思いをどう生かしていくか 等、課題も生じている。今後、学校・公民館が十分協議し、より充実したものにしていきたいと考える。

(2)学校での授業サポーター、

学校が教科等で必要とする指導者とのコーディネートを公民館が行い、本年度も多くの教科・領域で地域の指導者や消防署・社会福祉協議会の協力や支援をいただいた。3学期に、本年度、本校に関わってくれた方を招き、感想やご意見を伺う場を設定した。これらの方の思いを次年度に生かすとともに、年間計画にしっかりと位置づけをしていきたい。

(3)職員研修のサポーター

職員が地域をどれだけ知っているか、この力を高めるため、本年、地域の文化歴史に堪能な方を招き、現地学習を行った。新しい発見があり、職員自身が地域の良さを知る機会となった。次年度は、学習したことを教材として開発し、授業に具体的に生かしていくように考えている。

学社融合活動実施報告

| | | | |
|-----|-------|------|-------------------|
| 学校名 | 三川小学校 | 公民館名 | 大塔拠点公民館・大塔公民館三川分館 |
|-----|-------|------|-------------------|

学社融合における学校・地域の様子
 本校は、小規模校ということもあり教育活動や特に学校行事などでは地域の方々の協力を仰ぎながら進めている。また、地域には障害者支援施設「あすなろ木守の郷」や高齢者の福祉施設、児童養護施設「くすのき」があり、こうした機関との交流も計画に位置づけて学社融合を進めている。大塔三川地域の文化や伝統等を学ぶ「ふるさと学習」では、地域の方々の協力・支援を得て取り組んでいる。特に例年11月第3日曜日に開催される「三川地域お楽しみ会」は、学社融合の核となる取り組みとして地域と学校が一体となり進めている。回を重ねるに連れて、各種団体の役割分担も明確になり主体的な取り組みとなり、地域の活性化にも繋がっている。

| | | | |
|-----|-----------|-----------|------------------------------|
| 活動名 | 三川地域お楽しみ会 | 学年・教科・領域等 | 全学年 生活科・総合的な学習・音楽・体育・道徳・特別活動 |
|-----|-----------|-----------|------------------------------|

| | | |
|----|---------|---|
| 目標 | 学校 | <ul style="list-style-type: none"> ・地域の大人や高齢者の方々と交流することで、地域の伝統や文化を学ぶ。 ・地域の方に児童の発表を見てもらうことで、学校教育や児童への理解、協力並びに支援をいただく。 ・保護者や地域の方と共に取り組みを進める事を通して、地域やふるさとを愛する豊かな心を培う。 |
| | 公民館（地域） | <ul style="list-style-type: none"> ・お楽しみ会に参画することで、地域住民相互の親睦や交流を深め、地域の連帯を促進する。 ・地域の農産物販売や芸術文化発表の場を設けることで、地域文化の振興を図る。 ・児童、学校との交流を通して、地域で子どもを育む環境を考える。 |

支援者及び支援組織
 三川小学校、三川小学校PTA、PTA・OB、大塔公民館、三川分館、三川地域振興推進会、区長会、交通安全協会、老人会、ボランティア協会、あすなろ会、三川郵便局、JA紀南、道路委員会他

取り組みの経過(日時・ねらい・活動内容等)

- ・7/5 PTA総会(昨年度の反省と本年度の方向について話し合う。)
- ・7/26 第1回実行委員会(昨年度の反省と本年度の取組について検討。組織と予算審議)
- ・学校だより7月号、9月号、10月号、11月号でお楽しみ会の案内と野菜や日用品の提供ボランティア等を周知・依頼する。
- ・9月より、児童がお楽しみ会の来場者にプレゼントする花の種をまき育てる。(約1500鉢分)
- ・夏休み中から、児童が舞台発表(よさこい踊りや太鼓)の練習を始める。
- ・10月に入り、あすなろ楽団との合同練習を行う(10/8、11/12)
- ・10/10 第2回実行委員会(タイムスケジュールや内容の詳細、前日の役割分担について協議)
- ・10/21お楽しみ会の案内状を発送する。
- ・10/末 児童一人ひとりがお楽しみ会のポスターを作成する。
- ・11/5 児童が作成したポスターを地域(14カ所)に貼り出しに行く。(地元新聞紙に掲載される)
 また、お楽しみ会の案内チラシを地域の各家庭に配布する。
- ・11/1 PTA総会で最終の詳細な打ち合わせを行う。
- ・11/初 PTAがバザーや即売会、抽選会の準備を始める。
- ・11/12～ 児童と職員が会場となる体育館や教室を清掃し、準備をする。
- ・11/16 地域やボランティアの方(約60名)といっしょに準備をする。
 【餅つき・袋詰め、野菜の買い取り、会場設営など】
- ・11/17 第8回三川地域お楽しみ会開催 来場者約500名
 (地域内外より多くの方が参加し、親睦と交流を深めた)
 【ふれあい体験教室、三川小学校児童の発表、あすなろ楽団と児童の合同演奏有志発表、神島高校吹奏楽部の演奏、食べ物バザー、野菜や日用品即売会、福引き もちまき、花苗や金魚のプレゼント】
- ・12/5 第3回実行委員会(第8回お楽しみ会の反省会、会計決算報告)
- ・12/14 三川地域お楽しみ会懇親会(お楽しみ会の労をねぎらい、親睦を深めた)

地域にポスターを掲示



| | 成 果 | 課 題 |
|--------------|--|--|
| 学 校 | <ul style="list-style-type: none"> ・毎回、地域内外を問わず多くの方が参加していただき、学校の取り組みや児童の様子を理解していただく機会となっている。 ・お楽しみ会の取り組みについて「融合教育研究会」や「県の実践研究大会」等で発表する機会を得て、学校の取り組みを広く周知し交流することで、課題や改善点などの見直しができた。 | <ul style="list-style-type: none"> ・児童の発表内容について、マンネリ化しないよう意欲や関心を持って取り組めるよう工夫改善をしていく。 ・発表の練習や準備等、先が見通せる計画を持たせ授業時数の確保や教科領域との関係も考え、計画的に進める。 |
| * 子どもにとって | <ul style="list-style-type: none"> ・自分たちの発表を参加者の方に見ていただき評価してもらうことで自信や充実感をもち自己肯定感を育むことができた。 ・地域の方と準備や交流をすることを通して、地域の方々とのつながりをさらに深めることができた。 | <ul style="list-style-type: none"> ・児童数が減少しており、また発達段階の差も大きく発表の内容も含め練習や準備に個々の負担が大きくなっている。 |
| * 子どもにとって | <ul style="list-style-type: none"> ・地域の方とふれあうことで、自分たちの住んでいる地域の良さを再発見するとともに、地域の方々からの温かい愛情を感じ、感謝の気持ちが育まれている。 | <ul style="list-style-type: none"> ・行事での交流だけでなく、地域での日常的な交流へつなげていく。 |
| 地 域 (公民館) | <ul style="list-style-type: none"> ・人口減と高齢化が進む当地域において、児童とふれあう機会を多く持つことで、地域の方、特に高齢者の活力となっている。また、地域で子どもたちを見守っていきこうという気運が高まっている。 ・お楽しみ会では、地域内外から多くの方が集まり、お互いの交流を深める一大行事となっている。 | <ul style="list-style-type: none"> ・地域の人口減と高齢化、さらには児童数の減少もあり、今後この会を継続していくに当たり、組織体制や運営方法について、協議していく必要が出てくる。 |

評価及び次年度に向けての取り組みの方向

・「三川地域お楽しみ会」は、人口減少や少子高齢化が進む本地区にとっては、地域に根付いた学社融合の核となる取り組みであり、地域内外に周知されたものとなっている。さらに、今年度は各種研究会などで本取り組みを発表する機会を得ることができ、他校や各団体と交流・協議することで本実践を見直したり教育活動の中での位置づけを明確にしたりすることができた。

・人口減少、高齢化、保護者減少などが進んでいるため、PTAOBや卒業生、地域の各種団体などのさらなる協力を得て、「お楽しみ会」を継続・発展させていくための組織作りや体制整備が急務である。



前日準備の様子

賑わう食事バザー



児童とあすなろ楽団による発表

学社融合活動実施報告

| | | | | |
|--|---------|---|-----------|---|
| 学校名 | | 富里小学校 | 公民館名 | 大塔公民館・大塔公民館富里分館 |
| 学社融合における学校・地域の様子 | | | | |
| <p>本校校区は、全人口の約半数が60歳以上という高齢化が進んだ地域である。地域唯一の学校として、地域住民は本校の教育に対してとても協力的で、常に物心両面で協力・支援してくれている。6地区278世帯であるが、全校児童26名中、65%は過疎対策で建てられた住宅に住んでいて、校区内の3地区には小学生がいない。そうした中で、ふるさとを愛する子どもを育てるため、地域の方々や、諸施設・関係機関に積極的に協力を求めたり、地域の方を講師として招聘したりすることで、ふるさと富里の自然や文化についての学習や地域の人々との交流を深めている。また、地域の行事などに積極的に参加していくなど、社会教育との連携を深めるように努力している。</p> | | | | |
| 活動名 | | 富里ふれあい交流 | 学年・教科・領域等 | 全校児童 全教科・総合・特別活動等 |
| 目標 | 学校 | 俳句教室やふるさと料理教室などで授業に参画していただくことや、地域の行事に参加し一緒に活動することで、ふるさとの文化や自然についての学習や人々との交流を深め、ふるさとを愛する子どもを育てていく。 | | |
| | 公民館（地域） | 地域住民が、学校の授業に関わったり、各種行事に積極的に参加し、地域の子どもたちと交流をもつことで、身近で子どもたちの成長を見守るとともに、子どもたちにとっては地域のいろいろな人と交流をもつことで、自分たちのふるさとに愛着をもち、地域住民との結びつきを強める。 | | |
| 支援者及び支援組織 大塔公民館・大塔公民館富里分館・各区長・とみさと保育園・富久寿会(敬老会)・あすなろ平瀬の郷・大塔あすなろ会・ふる里富里会・とみさと句会・JA紀南女性会富里支部・大正琴サークル 等 各団体の方々 | | | | |
| 取り組みの経過(日時・ねらい・活動内容等) | | | | |
| <p>【俳句教室】「とみさと句会」の皆さんとの交流</p> <ul style="list-style-type: none"> ・低学年…俳句の作り方について教えてもらい、俳句作りを楽しむ。 ・中学年…句会の開き方について教えてもらい、句会の皆さんとともに俳句を鑑賞する。 ・高学年…句会を開き、句会の皆さんとともに楽しむ。 <p>* 俳句教室の1年間の予定、活動内容についての打合せを行う。(5月) 夏の句会(6月) 秋の句会(10月) 冬の句会(2月)</p> <p>* 作った俳句を『ふるさと富里祭り』や『おおとう生涯学習フェスタ』に出品・展示する。</p> | | | | |
| <p>【ふる里料理教室】講師：JA紀南女性会富里支部のみなさん</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全学年…ふるさとに伝わる料理について教えてもらい、一緒に調理を楽しむ。 <p>* 高学年(寒天を使って、蒸しパン)6月 * 低・中学年(昔のおやつ作り)2月</p> | | | |  |
| <p>【ふれあい学習発表会】参加協力：とみさと保育園・あすなろ楽団・大正琴サークル</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全学年…各学年での発表や全校での発表に向けて、互いに協力し合う。 <p>* 各学年独自の発表 * 全学年…音楽劇の役割分担・練習計画(7月) 練習(9月～11月) 招待状の取組(11月初旬) * 11月20日(水)ふれあい学習発表会実施</p> | | | |  |
| <p>【ふるさと富里祭り】実行委員会(地域各種団体が組織)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全学年…作品展に出品し、地域の方々に学校の取組を見ていただく。 ・住民運動会に参加(よさこい踊り等)し、地域の方々と交流する。 <p>* 実行委員会への参加(9月) * 「よさこい踊り」の練習、作品展準備 * 11月3日(日)ふるさと富里祭りに参加</p> | | | | |

<俳句教室>

<ふれあい学習発表会>

| | 成 果 | 課 題 |
|--------------|---|--|
| 学 校 | <ul style="list-style-type: none"> ・地域の方々に授業に参画していただくことで、授業内容が豊かになった。また、ゲストティーチャーの要請に公民館が協力してくれることで、「ふるさと学習」を深めることができた。 ・地域の方々が多く集う行事に学校の取組を紹介することができ、学校の様子を見ていただく良い機会となった。 | <ul style="list-style-type: none"> ・小学生がいない地域の高齢者の方々にとっても、小学校を身近に感じ、学校に足を向けてもらえるような取り組みを考えていく必要がある。 ・学校の取り組みが、地域の活性化につながっていけるよう、さらに公民館や他団体との連携を密にしていく。 |
| * 子どもにとって | <ul style="list-style-type: none"> ・ふるさとの文化や歴史に興味を持って調べたりまとめたりでき、ふるさとを愛する心情が育ってきた。 ・地域の方々との様々な交流を通して、場に応じた言葉遣いやマナーを考えることができる児童が増えてきた。 | <ul style="list-style-type: none"> ・「ふるさと学習」で学んだことを、積極的に地域の方々に伝えていく。 ・地域へ働きかけていくような、子どもたちの主体的な取り組みができるようにしていく。 |
| * 子どもにとって | <ul style="list-style-type: none"> ・「ふるさと学習」を通して、地域の自然や文化についての関心・理解が高まり「自分たちの住む地域」への愛着が深まった。 ・これらの取り組みを通して、自分の住んでいる地区以外の校区住民との交流も深まり、顔見知りになることができた。 | <ul style="list-style-type: none"> ・地域の一員であるという意識を育み、自分から進んで挨拶をしたり、地域の大人と会話したりするなど、より一層の主体的な取り組みができるようにしていく。 |
| 地 域 (公民館) | <ul style="list-style-type: none"> ・「ふるさと富里まつり」での子どもたちの「よさこい踊り」披露は、祭りを盛り上げ、地域行事を活気づける大変よいものであった。また、地域にとっては、展示物により学校の様子を知ることができ、学校がより身近な存在となっている。 | <ul style="list-style-type: none"> ・学校行事への参加及び地域行事によりできた子どもや保護者とのつながりを、さらに深めていけるよう「声かけ」や「見守り」など、それぞれの立場でできることを継続し、地域力を高めていきたい。 |

評価及び次年度に向けての取り組みの方向

【評価】

□「とみさと句会」の方々との俳句教室は、教えてもらうという立場から、句会を開き、一緒に俳句を楽しむという取り組みへと変わってきた。そうした中で、月に1回富里交流館で開いている句会に、「子どもたちも参加してもらいたい。」と誘っていただき、案内のプリントを作って持ってきてくださった。また、「次の句会に向けて、それぞれが俳句を用意することが励みとなっている。」という言葉もいただき、学校にとっても地域の方々にとっても有意義な取り組みとなっている。

□「ふれあい学習発表会」の招待状を、社会福祉協議会の『愛の日の手紙』の取り組みと一緒にすることで、富里地域の高齢者の方々全員に渡すことができ、双方にとってメリットのある取り組みとなった。

【次年度に向けての方向】

* 学校に来てもらうだけでなく、積極的に地域に出向いて行き、一緒に活動できることを考え地域の方々との交流の機会を増やしていく。

学社融合活動実施報告

| | | | |
|--|-------------------------------|---|--------------------------------|
| 学校名 | 本宮小学校 | 公民館名 | 本宮公民館 (本宮分館・四村分館・請川分館) |
| 学社融合における学校・地域の様子 | | | |
| <p>本宮地域に住む子どもたちは、過疎化・少子高齢化が進み、統廃合により校区が広がったことから友達との交流がなかなか深まらない状況にある。こうした背景において、学校だけでなく家庭・地域社会の中で、将来地域社会の一員として貢献できる子どもを育てていくという考えのもと、保護者・地域・専門家による支援を受けながら学社融合の取組を進めている。保護者・地域にとって、子どもたちへの関心は高く、参観日や懇親会はもとより各行事への出席率は高い。地域に住む、各サークルの方々も積極的に授業支援に参加して頂いたりしていることから、地域ぐるみで子どもを育てようとする意識が高い。</p> | | | |
| 活動名 | 人を育てる支援活動(クラブ・放課後読み聞かせ) | 学年・教科・領域等 | 4～6年・特別活動(クラブ活動) 1～3年・放課後支援 |
| 目標 | 学校 | <ul style="list-style-type: none"> ・地域の方の協力を得て、異年齢の児童がお互いに協力して共通の興味・関心を追求し、主体的にクラブ活動を行う。 ・地域の方の専門的な技術を学び、互いに交流を深める。 ・本に対する興味・関心を高めるとともに、児童の読書力の向上を図る | |
| | 公民館(地域) | <ul style="list-style-type: none"> ・地域の持つ教育力およびそれぞれの分野で専門的な知識を持つ方々を学校教育の中に活かすとともに地域ぐるみで子育てをする意識を高め、本宮町の歴史や文化、自然に親しむ子どもの育成のための手助けを行う。 | |
| 支援者及び支援組織 | | | |
| 保護者 地域に住む方 音無の里地域コミュニティー推進本部 | | | |
| 取り組みの経過(日時・ねらい・活動内容等) | | | |
| <p>本宮小学校では、8年前より地域の人材を活用したクラブ活動を行っている。今年度は、工作・絵画・バドミントン・五目並べ・茶道の5種類のクラブで活動を行った。各クラブの講師の皆さんには、それぞれ主体的にクラブ活動に取り組んでいただき、児童とのコミュニケーションも年々深まっている。</p> <p>加えて、クラブ活動と並行して、下校バスまでの時間帯において、1～3年生に地域並びに保護者の方による放課後読み聞かせを行った。</p> <p>活動日程と具体的な内容は、以下の通りである。</p> | | | |
| 工作クラブ | (ねらい) | 道具の使い方を学び、創造力を高める。身近な材料から作品を製作することにより、達成感を味わう。 | |
| 絵画クラブ | (ねらい) | 絵画を通して、創意工夫する楽しさを味わう。 | |
| バドミントンクラブ | (ねらい) | バドミントンを通して、個々のスキルアップを目指し、いい汗を流し、楽しく活動する。 | |
| 五目並べクラブ | (ねらい) | 五目並べを通して、先を読むことや人間関係について学ぶ。 | |
| 茶道クラブ | (ねらい) | 茶道を通して、日本の伝統文化を学び、礼儀作法を身につける。 | |
| 放課後読み聞かせ | (ねらい) | 本離れへの対策として、低学年から本に触れる機会を多く設定し、読書に対する意欲づけを行う。 | |
| <活動日程・内容> | | | |
| 日時 | クラブ活動 | 放課後支援読み聞かせ | |
| 5月27日(月) | 講師紹介・自己紹介・年間計画作成 | 「ギリギリかめん」などの読み聞かせ | |
| 6月10日(月) | 各クラブの計画に沿って活動 | 「ちいさなはくさい」「あめふり」などの読み聞かせ | |
| 7月 1日(月) | 各クラブの計画に沿って活動 | 「パンケーキを食べる」などの読み聞かせ | |
| 10月 7日(月) | 各クラブの計画に沿って活動 | 「ウリオ」「ねずみのおきょう」などの読み聞かせ | |
| 11月10日(日) | 学校開放の一環として地域へ両活動を公開 | | |
| 12月 2日(月) | 各クラブの計画に沿った活動と1年のまとめ | 「まめうしのクリスマス」などの読み聞かせ | |
| 2月 3日(月) | 一緒に給食を食べた後、お礼の言葉を述べ手紙を渡す。(予定) | | |

| | 成 果 | 課 題 |
|--------------|--|---|
| 学 校 | <ul style="list-style-type: none"> ・本年度も、クラブ活動においては、地域の方々の協力により、教職員では指導が困難である専門的な技術指導が可能となり、充実した活動となった。 ・放課後支援の読み聞かせでは、学習パートナーの方々の読み聞かせを集中して聴いている児童の姿がみられた。本に対する興味・関心が高まり、読書量も増えてきた。 | <ul style="list-style-type: none"> ・物を制作するクラブでは、60分の活動時間内では終われない場合もあった。児童に達成感や成就感を味わわせるために、時間をどう設定していくかが課題である。 |
| * 子どもにとって | <ul style="list-style-type: none"> ・自分が選んだクラブ活動に積極的に参加し、地域の方々から専門的な知識や技能を教えていただき、活動が深まった。 ・学習パートナーの方々に感謝の気持ちをもって接することができるようになった。 | <ul style="list-style-type: none"> ・児童がもっと主体的にクラブ活動を行えるように、自分の目標をしっかりと設定させる。 ・学習パートナーの方々とのコミュニケーションを積極的に進める中で、自分の考えも伝えることができるようにしていく。 |
| * 子どもにとって | <ul style="list-style-type: none"> ・地域の方々と交流することにより、コミュニケーションの仕方や人との接し方などが身についてきた。 ・礼儀や作法を学ぶことにより、普段の生活を見直すきっかけとなった。 | <ul style="list-style-type: none"> ・クラブ活動や読み聞かせに来ていただいている学習パートナーの方々から学んだことを地域の方々との交流につなげていくことが必要である。 |
| 地 域 (公民館) | <ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちと接することにより、子どもたちから元気もらい、成長を温かく見守るという意識が高まっている。 ・クラブ活動で子どもたちに教えたり、読み聞かせの本を考えたりすることにより、地域の大人が学ぶ喜びや生きがいを感じることに繋がっている。 | <ul style="list-style-type: none"> ・学習パートナーとして多くの地域住民に参加してもらえるよう啓発活動をさらに充実させていく。 |

評価及び次年度に向けての取り組みの方向

[評価]

- ・学校、保護者、地域が同じ方向で一体となって子どもを育てていこうという意識が高まった。
- ・11月10日(日)に学校開放の一環として両活動を公開したことは、地域や保護者の方々が学校に来る機会が増えるとともに、学校の取り組みを知っていただくよい機会となった。
- ・児童が多くの大人と関わることによって、人としての成長に必要な規範意識や礼儀などが身についてきている。
- ・クラブ活動では専門性の高い指導を受けることで、読み聞かせでは児童にとって楽しい本に出会うことで、活動への意欲や関心が高まった。

[次年度に向けての取り組み]

- ・公民館や各種団体とのさらなる連携を強め、交流の場を増やしていく。
- ・保護者や地域の方々にクラブ活動への参加や読み聞かせ支援を呼びかけるなど、多くの方が来校しやすいような工夫を行い、開かれた学校づくりの充実を図りたい。



五目並べクラブ



工作クラブ



放課後読み聞かせ

学社融合活動実施報告

| | | | | |
|---|---------|---|-----------|------------------|
| 学校名 | | 三里小学校 | 公民館名 | 本宮公民館三里分館 |
| 学社融合における学校・地域の様子 | | | | |
| <p>・本校は、昔から地域とのつながりが深く、米作りや語り部活動など各学年が地域の方々の協力を得て、学社融合の活動に取り組んでいる。また、2年前に本宮地区の共育コミュニティー活動にも参画し、学社融合のさらなる充実を図っている。</p> <p>・学校の教育計画でも「三里大好き」をテーマに年間指導計画を立て、様々な体験活動を通して、「地域を愛する心」「地域を誇りに思う心」を育てている。特に三里運動会や三里祭りでは、公民館、保育園と協力し、連携を深めながら、地域を盛り上げる行事として学校も協力している。</p> | | | | |
| 活動名 | | 三里運動会 | 学年・教科・領域等 | 全校・学校行事・体育・特活・道徳 |
| 目標 | 学校 | <ul style="list-style-type: none"> ・集団行動を通して、協力、助け合いの気持ちを育てる。 ・児童の運動能力を高め、体力の向上を図る。 ・地域の人々との交流を深め、地域を大切にしようとする気持ちを育てる。 | | |
| | 公民館（地域） | <ul style="list-style-type: none"> ・保育園、小学校、公民館が協力することで、交流を深め、地域の一員としての自覚を促す。 ・地域のふれあいの場として、競技を楽しみ互いのつながりを深める。 | | |
| 支援者及び支援組織 | | | | |
| 本宮公民館三里分館・三里小学校PTA・ひまわり保育園保護者会・地域住民等 | | | | |
| 取り組みの経過(日時・ねらい・活動内容等) | | | | |
| <p>* 6月17日(月)……三里運動会実行委員会を開く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実行委員会メンバー…保育園代表・小学校(校長・教頭・体育主任)・公民館代表 ・保育園、小学校、公民館のそれぞれの種目、役割分担、準備等について話し合う。 ・昨年度の反省を生かした運営を協議する。 <p>* 9月6日(金)……プログラム編成会議を開く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育園、公民館、小学校の種目を確認し、プログラムを編成する。 ・保育園の種目は、すべて午前中に組み入れる。 <p>* 9月19日(木)……運動会予行を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育園も参加して練習を行う。 ・その日の夕方、予行の反省を行い、本番に向けて調整する。 <p>* 9月20日(金)……運動会の準備を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テント張り、いす並べ、運動場周辺の清掃を行う。 <p>* 9月22日(日)……三里運動会が行われる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年から公民館主催の〇×ゲームが復活する。 ・今年の踊りは「よっちょれ」、全校児童が精一杯の演技を見せる。 ・4・5・6年生の一輪車パレードでは、全員が一輪車に乗ることができ、難しい演技も披露した。 <p>* 9月25日(水)……運動会の反省をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昨年度の反省が生かされ、スムーズに進行できた。 | | | | |

| | 成 果 | 課 題 |
|--------------|---|---|
| 学 校 | <ul style="list-style-type: none"> ・一昨年までは中学校が参加していたが、閉校になったので、保育園に協力を依頼したところ、快く受け入れてくれ、運動会も盛大に盛り上がった。 ・地域の人も多数参加してくれることで、学校と地域のつながりが深まることができた。 | <ul style="list-style-type: none"> ・児童数が減少傾向にあり、児童の役割分担にも限界がある。 |
| * 子どもにとって | <ul style="list-style-type: none"> ・一昨年までは準備等中学生に頼っていたが多かったが、昨年からは、小学生が主体的に動かなければならない機会が増え、「自分たちが中心になる。」という意識を持つことができた。それが、地域の一員としての役割にもつながっていく。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ダンスクラブを編成し、運動会で踊っているが、自主的に参加する子が少なくなっている。 |
| * 子どもにとって | <ul style="list-style-type: none"> ・地域の人たちに応援してもらうことで、自分の力を思い切り発揮することができた。また、公民館の人たちと運動会の役割の仕事を一緒に行うことで、子どもたちの働きぶりを知ってもらう良い機会になった。 | <ul style="list-style-type: none"> ・地域交流のふれあいの場をさらに増やし、交流を深めていく。 |
| 地 域 (公民館) | <ul style="list-style-type: none"> ・保育園、小学校、公民館合同で実施することで、三者の連帯意識が強くなり、他の行事においても、互いに協力しやすい関係ができた。 ・多くの地域の人に子どもたちの頑張っている姿を知ってもらう機会になった。 | <ul style="list-style-type: none"> ・三里地区でも高齢化が進み、地域住民の参加者が少なくなってきた。高齢者の方でも参加しやすい種目を取り入れていく必要がある。 |

評価及び次年度に向けての取り組みの方向

- ・保育園、小学校、公民館が合同で行う運動会は、今年で2年目になり、進行も時間通りに実施することができた。また、運動場が芝生なので競技をしていて転んでも、大きなけがに至らない。
- ・保育園の子どもたちと接する機会が少ないので、運動会を通して、園児一人ひとりの様子がよくわかった。逆に、保育園の先生方も、小学校に入った子どもたちの成長ぶりを見て頂けたと思う。
- ・来年は3年目の合同三里運動会となり、さらに充実した運動会が開催できると思う。しかし、種目についてはマンネリ化しないよう工夫していく必要がある。



学社融合活動実施報告

| | | | |
|---|---------------------|---|---------------|
| 学校名 | 東陽中学校 | 公民館名 | 東部・南部公民館 |
| <p>学社融合における学校・地域の様子</p> <p>公民館施設を併設した近畿唯一の中学校として、本年度は公民館と学校が連携を深め、地域の教育力を生かした様々な取り組みを実施することを目指してきた。地域の方々も公民館長、公民館主事の働きかけに協力的で、本校生徒の健全育成に尽力していただける体制ができてきている。本年度より公民館の掲示版を改築していただき、生徒の行事への取り組みの様子や教科の作品等を掲示し、公民館を訪れる地域の方々に広く紹介している。</p> <p>地域にある各小学校とも連携を深め、田辺第二小学校はもとより、田辺第一小学校音楽会への本校合唱部の参加、田辺東部小学校でのひがし触れ合い秋祭りへの本校合唱部の参加、また本校生徒の美術作品の展示など、昨年にはできなかった交流も実施することができた。</p> | | | |
| 活動名 | 公民館・地域・小学校と連携した取り組み | 学年・教科・領域等 | 全学年・総合的な学習の時間 |
| 目標 | 学校 | <ul style="list-style-type: none"> ・公民館施設を併設した学校として、地域の教育力を生かした学社融合の取り組みを推進する。 ・学校と公民館と市立図書館「たなべる」との連携を進める。 ・校区の小学校と連携を深め、児童・生徒が交流できる企画を進める。 | |
| | 公民館（地域） | <ul style="list-style-type: none"> ・中学校と地域のコーディネーターとして、地域の教育力を生かした取り組みを企画、運営する。 ・地域の方と生徒が交流することにより、生徒の健全育成に携わってもらえるようにする。 | |
| <p>支援者及び支援組織</p> <p style="text-align: center;">東部公民館</p> | | | |
| <p>取り組みの経過(日時・ねらい・活動内容等)</p> <p>【地域との連携】</p> <p>○11月9日(土)10日(日) 南部センターフェスティバルへの参加</p> <p>1年生の「よさこいリーダーズ」と、本校吹奏楽部が地域との交流を目的にフェスティバルへ参加、オープニングイベントを担当し、フェスティバルを盛り上げた。また、有志の中学生が催し物のお手伝いに参加した。技術家庭科や美術科の生徒の作品を地域の方に見てもらう良い機会となった。また地域の方々の素晴らしい作品を生徒が鑑賞することもできた。</p> <p>【公民館との連携】</p> <p>○8月20日(火) 公民館主催 写真教室</p> <p>公民館主催で、地域の写真に詳しい方々を講師として招聘し、コンピュータ部、手芸調理・美術部の生徒が、写真の撮り方、構図、写真の鑑賞のポイント等について教えていただき、写真撮影を通して地域の方と温かく触れ合うことができた。</p> <p>○11月7日(木)12日(火)14日(木)19日(火) 家庭科の授業での郷土料理調理実習</p> <p>学校と公民館が連携し、家庭科で地域の郷土料理に詳しい方々を学校にお招きし、2年生を対象に郷土料理調理実習を実施した。事前会議を本校応接室で行い、本番は本校調理室で行った。メニューは「鯛の紀州煮」、「ほうれん草のおひたし」、「炊き込みご飯」の3種類で、郷土料理を学習する良い機会となった。</p> <p>○11月15日(金)16日(土)17日(日) 公民館主催 公民館写真展・文化展</p> <p>昨年度まで別々の日に実施していた写真展と文化展を、本年度は本校多目的ホールで写真展、公民館大集会室で文化展を同時開催した。写真展には、夏休みの写真教室で教わった生徒の作品や地域の方々の撮られた写真、文化展には本校技術家庭科や美術科、地域の婦人会、子ども会、高校生等の作品が展示され、作品を通して交流を行った。</p> <p>○5月26日(日) 公民館主催ソフトテニス大会</p> <p>公民館主催のソフトテニス大会に本校のソフトテニス部員が参加し、地域のテニス愛好家の方々と試合を行い、交流を深めた。</p> <p>○公民館の掲示版の活用</p> <p>公民館大集会室前の掲示板を改築し、公民館を訪れる地域の方に生徒の取り組みを知ってもらった。</p> <p>【小中の連携】</p> <p>○9月29日(日) 田辺第二小学校運動会へ参加 ○12月11日(水) 田二小6年生の中学校授業体験</p> <p>本校で行われた田辺第二小学校の運動会に本校2年生がよさこいで参加、小学生、保護者、地域の方々によさこい踊りを披露した。また12月11日(水)に6年生の中学校授業体験とクラブ見学を行った。</p> | | | |

| | 成 果 | 課 題 |
|--------------|---|--|
| 学 校 | 郷土料理の調理実習では地域の方々の協力を得て、有意義に実施することができた。地域の方や生徒の感想を見ると、「とても楽しかったです。またこのような機会があれば参加したい。」という意見が大変多かった。 写真展を多目的ホールで開催したことで、本校にも気軽に地域の方が写真を見に来てくれ、生徒と触れ合い、より良いコミュニケーションの場となったことなど、大きな成果があった。 | 公民館を併設した近畿唯一の中学校であることを生かし、地域の教育力を生かした新たな取り組みを公民館と連携して進めていかなければならない。そのためには、公民館を通して町内会や婦人会等とのつながりを強めていくことが必要である。 |
| * 子どもにとって | コンピュータ教室では生徒が教える立場になることで、地域の方にどのように接すれば上手く伝わるかをしっかり考える良い機会となった。 郷土料理調理実習では、自分達の郷土料理についてや地産地消について学習し、地域の方と温かく交流できたことが成果である。 | 特定の生徒ばかりの活動ではなく、多くの生徒が参加してみたいと思えるような、行事への参加の呼びかけ方の工夫が必要である。 |
| * 子どもにとって | 料理教室や写真教室などを通じて、地域に住んでいる様々な方と交流できる貴重な体験となった。 | 地域の方と交流した事業が、今後の学習や、普段の生活に役立つよう期待したい。 |
| 地 域 (公民館) | 料理教室や写真教室など、地域の方が生徒と触れ合える機会を多く持たせた。自分の知識や技能を生徒に教えることで、地域の子どもは地域で育てると意識の醸成、社会に参画している実感を育めた。 | 地域の人と生徒が交流できる事業をさらに展開するため、地域の人材の掘り起こしに努める。また、地域の方が主体的に取り組める事業を展開していきたい。 |

評価及び次年度に向けての取り組みの方向

昨年度以上に本年度は、公民館と学校の併設の利点を最大限に生かすため、学校の施設を開放した様々な取り組みを実施することができた。中でも、郷土料理調理実習は、地域の方や生徒の両方にとって、調理を通して温かく触れ合うコミュニケーションを作る場となり、地域と学校をつなぐ素晴らしい企画であり、大きな成果が得られたと考えられる。また、本校多目的ホールで写真展を開催したことにより、地域の方々に本校の施設を知ってもらう良い機会となった。

次年度は、本年度の成果と課題を生かし、公民館を併設した近畿唯一の中学校としての特色ある新しい取り組みを、公民館と連携しながら築き上げていきたい。



郷土料理調理実習

写真展



コンピュータ教室

学社融合活動実施報告

| | | | |
|--|------------------|--|-------------------|
| 学校名 | 明洋中学校 | 公民館名 | 芳養公民館・西部公民館・中部公民館 |
| 学社融合における学校・地域の様子 | | | |
| <p>・本年度、学校は、これまで行ってきた学社融合の内容を充実させるよう取り組んだ。地域の行事への参加については、全校ないし部活動での参加をした。これは、学校を地域の方々を知っていただくよい機会や発表の場であるという押さえを昨年度からしたことによる。家庭科においては、昨年度も実施した鯔の包丁でのさばき方の補助に加え、ミシン実習の補助や夏季休暇中の補習への補助などもお願いした。これについては、地域の方々へ学校へ出向いていただき交流を深めるだけでなく、技量や学力の向上に支援していただく形となった。この支援をしていただいた方々は、生徒との交流が良かったという感想も聞かせてくれた。相互に得たものがあつたと考えている。</p> | | | |
| 活動名 | 防災学習・地域の人々との交流学習 | 学年・教科・領域等 | 全学年・家庭科・特別活動 |
| 目標 | 学校 | <ul style="list-style-type: none"> ・地域との交流を図り、ふるさとを愛する気持を育てる。 ・地域での発表を表現活動の場・地域への貢献の場として定着させていく。 ・様々な人との関わりを持つことで、コミュニケーション能力を高める。 ・地域の伝統を受け継ぐ態度を養う。 | |
| | 公民館（地域） | <ul style="list-style-type: none"> ・学校授業を通じた地域と生徒の交流を進める中で、地域の人材がもつ知識や技術を次の世代へ伝承していく。 ・学校と交流を図ることで、学校をより身近に感じさせていく。 ・地域と学校がつながることで、防災関連の取組は勿論のこと、学社融合事業の推進ができる。 | |
| 支援者及び支援組織 | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・芳養地域人材バンク登録者・各地区の方々・西部地区自主防災会連絡協議会・西部地域共育コミュニティ本部・各公民館 | | | |
| 取り組みの経過(日時・ねらい・活動内容等) | | | |
| <p>【地域と共に活動することをめざして】</p> <p>◎保・幼の園児と避難訓練をしたり、起震車体験をした。また、地域の方々へ自衛隊の降下訓練の様子の模様、倒壊家屋からの人命救助を見学した。さらに、地域の人々とグループを作り、担架・縄の結び方・止血訓練を自衛隊員に習った。・西部地区防災訓練<5/26></p> | | | |
| <p>【地域からの支援と交流をすることをめざして】</p> <p>◎昨年に引き続き、地域の行事に参加し活動したり、表現活動を行うことにより楽しむことを共有していくことで豊かな関係を作ることができつつある。将来、社会の一員として貢献していくための意識付けとなっている。・近隣の保育所・幼稚園・福祉施設訪問やコンサート(プラスバンド部)</p> <p style="text-align: right;"><8/19・8/22・8/29・11/9・11/24></p> <p>・幼稚園園庭の掃除(土曜クラブ)・児童館祭・しおさい祭(プラスバンド部)・餅つき大会・キャンプ(柔道部)</p> <p style="text-align: right;"><4/27・8/3~4・11/2・11/16・12/26></p> | | | |
| <p>【地域の支援を受けてよりよく学習することをめざして】</p> <p>◎地産地消の調理実習の実施に伴いアジのおろし方を指導していただいた。ミシン実習では、指導をしていただいた作品を秋の地域作品展に出品した。夏休みの補習は、初めての試みであったが、学力向上に少しでも役立てばというご厚意を感じた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アジの三枚おろし<5/21・6/3・6/11> ・ミシン実習の補助<7/17~18・9/11~12> ・3年生夏休み補習授業<7/22~7/26 7/29・7/31・8/2・8/9> | | | |
| <p>【地域からの発信活動を学ぶことをめざして】</p> <p>◎総合・体育・行事での講師招聘ではあるが、校区・近隣の出身者や活動者であり、郷土・家族への思いを大切に、地域からの発信活動や貢献することを一つの生き方としており、それを学ぶことができた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・藤堂俊隆さん(龍泉寺和尚)の講演(7/8) ・古家学さん(プロミュージシャン)の歌と講演(11/23) ・合気会のみなさんからの指導と植芝盛平の学習(9月第4週~11月第2週) ・寺本藍さんと工藤智恵さん(プロダンサー2名)のダンス指導と講演(12月第2週) | | | |

| | 成 果 | 課 題 |
|--------------|--|--|
| 学 校 | <ul style="list-style-type: none"> ・小中連携・明融会の存在は昨年にもまして円滑に機能した。そのことにより、地域とも身近な関係を保って取り組みを行うことができた。 ・学習への支援は、家庭科だけでなく、夏季補習でもしていただいた。学校を知らせ、地域には、学校を理解していただき、将来的には、地域を考える生徒を育てていく営みの輪が年間通してできた。 | <ul style="list-style-type: none"> ・地域との防災訓練を今後どういう形で実現していくか。 ・義務教育9年間の視点を持って取り組む場合、学社融合では具体的にどのような必要があるか。 ・家庭学習の定着や学力の向上を図っていくために、地域にどのような理解を求め、学校としてどう取り組むか。 |
| * 子どもにとって | <ul style="list-style-type: none"> ・挨拶・お礼・お礼の手紙・コミュニケーションの取り方など、様々な年齢・立場の方々との交流で、生の学びがあった。 ・取り組みの中で、喜怒哀楽を地域の方と共有できる機会を持てた。 | <ul style="list-style-type: none"> ・地域の方々より確かなコミュニケーションを取る姿勢を続けさせたい。 ・地域に貢献できることは何かを自ら考える機会を持たせたい。 |
| * 子どもにとって | <ul style="list-style-type: none"> ・地域の方から、さまざまな専門的な技術を学ぶ機会を得ることができた。 ・地域の方に来てもらうだけでなく、生徒自身が地域へ向うことで、より地域とのつながりを感じる事ができた。 ・田辺市防災津波シンポジウムで子どもたちの視点から見たすばらしい発表があり、このような学習機会を多く持つこと、また、地域の方と交わる機会が増えてきた。 | <ul style="list-style-type: none"> ・生徒が会得した知識や技術を日常生活に生かしていけるような取り組みをしたい。 ・自分が住んでいる地域に愛着や誇りを持つということが大切で、ひとり一人が地域の一員として何ができるのか今一度考える必要がある。 |
| 地 域 (公民館) | <ul style="list-style-type: none"> ・防災訓練で、災害の最前線で活動する自衛隊員から指導を受けることで、地域・学校共に、防災意識をさらに高めるきっかけとなった。 ・生徒たちと交流することで、生き甲斐、やりがいを感じる事ができた。 ・地域事業に子どもたちが参加・発表する機会が多くなってきたことにより、地域と学校の距離感が縮まった。最近では、登下校や買い物時に子どもたちから声をかけてくれることも多く、繋がり輪が広がっている。 | <ul style="list-style-type: none"> ・地域全体の防災意識を維持しながら、さらに向上させるための方法を考える必要がある。 ・現在行っている事業を、今後、世代が変わっても如何に継続していくかが課題である。 ・学社融合事業も地域に浸透していると思うが、まだまだ地域住民に内容が周知されているとは思えないので広報や周知活動をしていく必要がある。 |

評価及び次年度に向けての取り組みの方向

【評価】

・今年度は、今までになかった取り組みとして、ミシンボランティアと夏季補習ボランティアを実施し、地域の中には未発掘の人材がたくさんいることがわかった。指導していただいたり具体的な交流を図ったりすることで、生徒のコミュニケーション能力もついてきた。

【取り組みの方向】

・来年度は、11月に近畿技術家庭科研究会の発表があり、本校は家庭科の授業を行う予定である。これにあたり、地域の公民館を通じて協力いただける人材の確保や事前の打ち合わせ等を充実させていきたい。



学社融合活動実施報告

| | | | |
|--|---------------------|---|-----------|
| 学校名 | 高雄中学校 | 公民館名 | 秋津・万呂公民館 |
| <p>学社融合における学校・地域の様子</p> <p>◎校内体制として</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各クラス単位で防災に関する標語を考え、14のあんどんを作成しあんどん祭に参加、出品する。 <p>◎今後の課題として</p> <ul style="list-style-type: none"> ・さらに生徒へ地域行事への参加を促すとともに、学校の各活動への地域からの参加を呼びかける ・学校の実践が保護者や地域に理解されているかを検証する必要がある。 | | | |
| 活動名 | 地域の活性化と防災に対する考えを深める | 学年・教科・領域等 | 総合的な学習の時間 |
| 目標 | 学校 | 生徒は地域の一員として意義や自覚を深め、地域社会に貢献する意欲や態度を身につけ高めていく。 防災に対する意識を高め、地域に啓発しようとする姿勢を培う。 | |
| | 公民館（地域） | 地域と子どもが協力して、まちづくり行事に積極的に参加し、参加者相互の交流を通じて、地域社会の一員としての意識を高めてもらう。また秋津・万呂両地域間のつながりを深め、地域外からも広く多くの方に参加していただくことで地域活性化へと繋げる。 | |
| <p>支援者及び支援組織</p> <p>育友会・町内会・公民館・地域団体等</p> | | | |
| <p>取り組みの経過(日時・ねらい・活動内容等)</p> <p>あんどん祭への出品に向けた取り組み</p> <p>日時 8月17日(土)</p> <p>ねらい・目的</p> <ul style="list-style-type: none"> ・防災の意識を高め、言葉によって表現し、啓発する姿勢を培う。 ・協力して避難することの大切さを学ぶ。 ・出品された作品を通して、課題を考え、今後に生かす機会とする。 <p>活動内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各クラスで標語を考え、4つの標語を作成する。 ・作成した標語を毛筆で用紙に書き、あんどんとして出品する。 | | | |
|  | |  | |

| | 成 果 | 課 題 |
|---|--|--|
| 学 校 | <ul style="list-style-type: none"> ・防災の標語を考えることで、一層災害に対する備えや意識を高めさせる機会となった。 ・地域の行事に参加することで、地域の活動を通して交流していこうとする態度が生まれてきている。 | <ul style="list-style-type: none"> ・防災学習の取り組みの一環として、標語づくりを位置付けていきたい。また、防災だけでなく中学校での取り組みが地域に発信できるような機会にしていきたい。 ・公民館、町内会が中心となる活動のため、連携を密にして、学校としても計画的に取り組んでいきたい。 |
| * 子どもにとって | <ul style="list-style-type: none"> ・生徒一人ひとりが、独自に考える時間があり、更にクラスで検討する時間が持てたため、防災に対する意識を深めることができた。 | <ul style="list-style-type: none"> ・地域で行う避難訓練には参加できているが、場所や時間を設定しての訓練をさらに充実させることが課題である。 |
| * 子どもにとって | <ul style="list-style-type: none"> ・地域づくりに関わっているという意識が高まっている。秋津・万呂地域内だけでなく地域外にも中学生の持つ防災意識を発信できた。 | <ul style="list-style-type: none"> ・参加者同士の交流、地域づくりに関わっているという意識をさらに高めていくこと。 |
| 地 域 (公民館) | <ul style="list-style-type: none"> ・地域の方に中学生の持つ防災意識を見ていただくことができた。一緒に参加することで中学生も地域の一員という意識が強くなってきている。 | <ul style="list-style-type: none"> ・本年度であんどん祭りは公民館から離れ、別団体が引き継ぐような形でいったん終了することとなった。どのような形になるかまだ未定だが、今後も学校と連携し、地域づくりを進めていきたい。 |
| 評価及び次年度に向けての取り組みの方向 | | |
| 評価 | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・地域行事への参加だけでなく、防災に関して、意識を高めることができた。 | | |
| 次年度に向けての取り組みの方向 | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・防災についての意識を高める工夫を考えていく。 | | |

学社融合活動実施報告

| | | | |
|-----|-------|------|-------|
| 学校名 | 新庄中学校 | 公民館名 | 新庄公民館 |
|-----|-------|------|-------|

学社融合における学校・地域の様子
 3年生の「新庄地震学」も13年目を迎え、地域との連携も年々深まってきています。今年は「避難所としての必要な機能を考える」をテーマに加え、田辺工業高等学校と連携することもできました。
 1年生の「地域学習」では、昨年度に引き続き、県指定天然記念物「奥山の甌穴」に地域の方々から声をかけていただき現地調査に行くことができました。また、市指定無形文化財「新庄杜氏唄」でも保存会の方々と交流し、詳しく教えていただくことができました。他にも「葉糸古墳」や「岩陰遺跡」といった地域住民でもほとんど知らない歴史遺産について現地調査を行いました。
 他にも夏休みには、有志によるシーカヤック作りを企画し、秋には波の静かな内之浦湾に漕ぎ出し、地域住民の方々にもたくさん参加いただきました。

| | |
|-------------------|--|
| 地震学・地域学習・各教科の取り組み | 学年・教科・領域等 3年地震学、1年地域学習、各教科ゲストティーチャー招聘授業 |
|-------------------|--|

| | | |
|----|---------|---|
| 目標 | 学校 | 【地震学】9教科10テーマから地震・津波を中心とした防災学習に取り組み、学習の成果を後輩・保護者。地域に向けて発信する。 【地域学習】新庄地域の自然・産業・歴史・文化について学び、学習の成果を先輩、保護者に伝える。 【各教科の取り組み】各教科授業に合わせて地元のゲストティーチャーを招いた授業など。 |
| | 公民館（地域） | ・それぞれの学習への取り組みに対し、公民館サークル等関係者や地域住民の参加を促し学校支援の枠にとどまらず、いわゆる「地域力」の向上に努める。 |

支援者及び支援組織
 保護者、小学校、幼稚園、保育所、高校、新庄公民館、地域住民、新庄漁協、個人事業所、関係各機関

取り組みの経過(日時・ねらい・活動内容等)
 (新庄地震学)

| 教科 | テーマ | 内容 |
|----|---------------|--|
| 理科 | 地震と津波のメカニズム | 地震や津波のメカニズムについて探求する。 |
| 国語 | 防災標語 | 「防災標語」を募集、審査し、優秀作品を表彰する。また、地域の様々なところに掲示、配布する。 |
| 英語 | 防災カルタ | 英語を使って、地震や津波の教訓をわかりやすく提示し、防災や減災への備えを探求し、出前授業を行う。 |
| 美術 | 新庄地震学カレンダーの製作 | 防災一口メモや昨年度の取り組み等をカレンダーにまとめ、配布する。 |
| 社会 | 校舎の活用 | 体育館や校舎を避難所として使用するために必要な機能や部屋割りを考える。 |
| 数学 | 凧を使って情報伝達 | 三平方の定理を用いて凧を製作し、情報の伝達について探求する。 |
| 保体 | 避難所の生活と保健衛生 | 避難所の生活を調べ、中学校が避難所となった場合について、その生活面や保健衛生について探求する。 |
| 技術 | 発電の方法と工夫 | 地震発生後に電気を得るための方法を考え、それに必要な装置を探求する。 |
| 家庭 | 食の工夫 | 避難所生活での食に関して、必要とされる物を考え工夫する。 |
| 音楽 | 歌とダンスの活用 | 防災の啓発や震災後の心身の健康を考えた歌とダンスを継承し、創作する。 |



【地域学習】

- ・県指定天然記念物「奥山の甌穴」の現地調査
- ・田辺市無形文化財「新庄杜氏唄」の伝承
- ・紀南索道 ・葉糸古墳 ・岩陰遺跡
- ・新庄七不思議 ・祇園さん ・南方熊楠

【手作りシーカヤック】

夏休み中、有志により手作りシーカヤックを製作
 秋には内之浦湾で「ふるさとの海に漕ぎだそう」と漕艇会を行いました。

【学社融合発表会】

11月24日(日)
 3年間の取り組みについて発表



| | 成 果 | 課 題 |
|--------------|---|--|
| 学 校 | <ul style="list-style-type: none"> ・左記以外にも、昨年に引き続いてゲストティーチャー招聘授業を実施し、交流を深めることができた。 写生会…地元絵画教室 国語の授業…俳句愛好会 体育の授業…グラウンドゴルフ愛好会 家庭の授業…漁協女性部 など ・校内整備作業や、体育大会、文化祭など、学校行事には多くの地域住民が参加してくれている。 | <ul style="list-style-type: none"> ・広がりつつある地域とのつながりを絶やさぬように、継続していくことが、最も大切なことである。 ・地域の人々が参加しやすいような催しや企画を立てていくこと。 ・諸経費の捻出。 |
| * 子どもにとって | <ul style="list-style-type: none"> ・地震学に取り組むことで、幼稚園、保育所、小学校、高等学校、地域との交流・絆を深め、防災意識も高まった。 ・プレゼンテーション能力を高められた。 ・新庄中生であるとともに、地域の一員であることが自覚できてきた。 | <ul style="list-style-type: none"> ・3年間で系統立てた取り組みになるようにしたい。 授業時間等にも工夫が必要である。 ・継続的に取り組み、生徒が成長して地域住民となった時に、意識が高まっているようにしたい。 |
| * 子どもにとって | <ul style="list-style-type: none"> ・各分野で多くの人々との出会いや触れ合いがあったこと。 ・専門知識をお持ちの方々からの刺激を享受し、将来の選択肢のヒントになったとも感じられること。 | <ul style="list-style-type: none"> ・取り組むテーマの選択肢は十分であったかなどの検証が必要だと考える。 ・さらに、子どもたちの興味は満たされたかの検証も必要かと思われる。 |
| 地 域 (公民館) | <ul style="list-style-type: none"> ・多くの方々の参加により、学校をはじめ地域内での多様な課題や問題点を知っていただけたこと。 ・生徒に自分の技術を伝えたり披露することや体験談を話すことで、参加者自身の意識向上につながったと思われること。 | <ul style="list-style-type: none"> ・取り組むテーマが多様になればなるほど、講師となる人材の手配に悩まされる。 ・内容の継続性に工夫が必要なものへの対応。例えば「新庄杜氏唄」であれば、1年限りではなく1～3生が参加できるような工夫があればよいのではないだろうか。 |

評価及び次年度に向けての取り組みの方向

〈評価〉

東日本大震災以降、防災教育が注目され、13年目を迎えた本校の「新庄地震学」も、より一層注目されるようになった。新聞やTVに取り上げられることも多くなり、地域での関心も高まっているように感じる。最近では韓国のマスコミから問い合わせがあった。

「手作りシーカヤック」の取り組みは、生徒有志が夏休みに制作したカヤックを、秋に地域の人々の力を借りて漕艇式が行われたのだが、地域からも「カヤックを作ってみたい」という声があり、広がりを見せている。



〈次年度に向けての取り組み〉

学社融合推進補助事業の指定が今年で終わってしまうが、作り上げてきた地域との絆が切れないようにしたい。また、この絆を活用して、新庄中学校が地域コミュニティの発信地となるよう、今までの取り組みを継続していきたい。



学社融合活動実施報告

| | | | |
|-----|--------|------|--------|
| 学校名 | 上芳養中学校 | 公民館名 | 上芳養公民館 |
|-----|--------|------|--------|

学社融合における学校・地域の様子
 本校では育友会をはじめ、公民館・町内会・敬老会など地域との連携を深める取り組みをいくつも行っている。昨年度と同様に、上芳養地域にある保育所・小学校・中学校・公民館・第二のぞみ園との地域連絡協議会をもち、各機関の年間行事の確認や、今年度の連携に向けた話し合いをおこなった。
 また参観日以外の学校開放週間・体育大会・文化発表会などのときには保護者だけでなく地域の方々も来校し、学校の様子を見てもらっている。

| | | | |
|-----|------|-----------|--------------|
| 活動名 | 農事体験 | 学年・教科・領域等 | 1年生総合的な学習の時間 |
|-----|------|-----------|--------------|

| | | |
|----|---------|--|
| 目標 | 学校 | 地域の産業である梅産業を体験することにより、働くことの意義や大変さを育成する。また地域の産業を通じて地域愛を育む。 |
| | 公民館（地域） | 地域の産業である梅産業を子ども達に体験してもらうことにより、地場産業に対する理解を進め、地域愛の育成につなげる。 中学生に対する理解を深め、子ども達を地域で鍛えるという機運を高める。 |

支援者及び支援組織
 上芳養中学校 JA上芳養支所 上芳養中学校保護者 上芳養中学校母の部

取り組みの経過(日時・ねらい・活動内容等)
 この活動は毎年上芳養中学校の第1学年で行われている。今年度も上芳養中学校1年生担任を中心に活動を計画した。今年度は梅畑の受け入れ先の斡旋、事前学習をJA上芳養支所にご協力いただいた。梅畑の提供は上芳養中学校の保護者の方がご協力してくれました。
 その後、梅ジュースづくり、梅を使ったレシピの開発に取り組んだ。その活動の際にもJA上芳養支所、女性会、上芳養中学校母の部の方に実習のご協力、ご指導をいただいた。

- 5月 「梅」事前学習・・・農協の方の出前授業
- 6月 農事体験2日間
- 7月 梅ジュース作り、農事体験レポート冊子づくり
- 9月 梅料理計画
- 10月 梅料理実習
- 11月 生徒達による梅料理の開発
文化発表会での発表



農事体験の様子



農事体験の様子2



梅調理実習の様子

| | 成 果 | 課 題 |
|--------------|---|---|
| 学 校 | <ul style="list-style-type: none"> ・農事体験により、働くことの大切さ、意義について学ばせることができた。また地域の産業である梅産業を通じて地域愛を育むことができた。 ・梅調理実習を通じて、おいしい梅の活用の仕方を生徒たちが研究し、発表することによって、梅産業の活性化、地域おこしの一部を担うことができ、地域の構成員としての自覚を育むことができた。 | <ul style="list-style-type: none"> ・小学校でも梅の学習を3年間に渡り取り組んでいるので、それ以外の中学校テーマを考えるのが難しい。 ・調理実習は班ごと生徒達が考えたものなので、材料の分量の把握などが難しい。 |
| * 子どもにとって | <ul style="list-style-type: none"> ・農事体験を通じて、地域の産業を体験することにより、働くことの大切さ、意義について学ぶことができた。 ・農事体験によって、地域への愛着を深めることができた。 | <ul style="list-style-type: none"> ・小学校で梅の学習に3年間取り組んでいるので、生徒の興味関心を引くのが難しい。 |
| * 子どもにとって | <ul style="list-style-type: none"> ・梅について体系的に学ぶことによって、梅産業の奥深さや魅力について学ぶことができた。また、その過程で、様々な立場の人達と交流を深めることができた。 | <ul style="list-style-type: none"> ・これまであまり関わることのなかった地域の人達とでも積極的に交流していこうという社交性を育みたい。 |
| 地 域 (公民館) | <ul style="list-style-type: none"> ・体系的な学習を通して、梅産業に対する理解を深めさせることができた。 ・子どもを持つ保護者でなくても、交流を通じて地域の子どもの教育に対する関心を高めることができた。 | <ul style="list-style-type: none"> ・今後も事業を通して学校と連携を深め、地域と学校、お互いの「顔の見える関係」を継続していきたい。 |

評価及び次年度に向けての取り組みの方向

<評価>

- ・農事体験を通じて、生徒に働くことの大切さ、意義について学習させることができた。
- ・今年度はJA上芳養支所の協力を得ることができ、スムーズに体験に取り組むことができた。
- ・梅調理実習を通じて、地域の構成員であることの自覚を育むことができた。

<次年度への取り組み>

- ・例年通り小学校、中学校、保育所、第2のぞみ園、公民館、ころころ山などと連携した取り組みを行っていく。
- ・地域の連携をさらに深め、生徒たちにとって、地域にとって有意義な活動を模索していきたい。

学社融合活動実施報告

| | | | |
|--|--|--|---------------|
| 学校名 | 中芳養中学校 | 公民館名 | 中芳養公民館 |
| <p>学社融合における学校・地域の様子 本校では、「梅勤労体験」「中芳養夏祭り」「芳寿会との交流」「芳養の里交流」など、地域との交流を通して、「豊かな心」「生きる力」の育成を目指している。保護者や地域、関係団体の方々はこの学校の取組に対して協力的で、異世代との交流や地域の自然や文化、産業との触れ合いの機会をより多く設けることができています。 また、本年度は、梅勤労体験学習を1年生の取り組みとし、その内容をより一層充実させることができた。JA紀南中芳養支所の協力を得て、受け入れ先の梅農家を紹介してもらい、広く地域に出て体験することができた。</p> | | | |
| 活動名 | 地域の産業を通して地域とつながる | 学年・教科・領域等 | 1学年・総合的な学習の時間 |
| 目標 | 学校 | <ul style="list-style-type: none"> ・中芳養地区の基幹産業である梅の栽培について学び、ふるさとの産業について理解を深める。 ・働くことの苦労や大切さを学び、自己の生き方に生かせるようにする。 ・地域の現状や課題に目を向け、地域の将来について考える機会とする。 | |
| | 公民館（地域） | <ul style="list-style-type: none"> ・地域の良さを子ども達に教える中で、地域住民自身も地域に対する愛着を再認識する。 ・中学生に対する理解を深め、子ども達を地域で鍛えるという機運を高める。 ・中学生との交流を通じて、地域住民同士でも交流が進み、住民の絆作りに寄与する。 | |
| <p>支援者及び支援組織 中芳養公民館、JA紀南中芳養支所、地域の梅農家の方々</p> | | | |
| <p>取り組みの経過(日時・ねらい・活動内容等)</p> | | | |
| 梅勤労体験 事前学習① 6月4日(火) | <p>地域へ出での体験学習に向け、資料「青いダイヤの里に生まれて」を使って、梅農家の現状と課題について学習をする。次時の学習に向け、疑問点や学習したい事柄をまとめる。</p> | | |
| 梅勤労体験 事前学習② 6月5日(水) | <p>JA紀南の林さんを講師として、梅栽培の歴史や現状について説明していただく。産業として成り立つために様々な工夫をされていることを学ぶとともに、中芳養地区で栽培されている梅の種類などについて学ぶ。</p> | | |
| 校内梅取り体験 6月6日(木) | <p>梅農家での作業に向け、校内に植えられている梅の収穫を体験。昨年度の手入れもあり豊作で、時間内に切り切れない量だった。収穫した梅は、ジュースに加工し、一部を塩漬けにし保存する。</p> | | |
| 梅勤労体験 6月12日(水) | <p>保護者とJA紀南中芳養支所の協力により、9班に分かれて梅勤労体験を実施。青梅採り、落ち梅拾い、選果等の体験を行う。慣れない作業で苦労したところもあったが、忙しい時期でもあり農家の人たちには大変喜ばれた体験学習となった。</p> | | |
| 梅加工場見学 10月2日(水) | <p>栽培、収穫、加工、販売まで行う6次産業の現状を理解するために、JA紀南の梅加工場の見学を実施。収穫から製品化への行程を見学し、梅の種や汚水もリサイクルされている最新の施設に驚かされた。</p> | | |
| 味梅作り 10月29日(火) | <p>校内梅取り体験で塩漬けしていた梅を使って、味梅作りを体験。予想以上に美味しくでき、そのできばえに満足した実習となった。</p> | | |
| 中芳養祭発表 11月24日(日) | <p>「学びを地域に返す」取組として、これまでの学習内容をまとめ、感謝の気持ちを込めて中芳養祭で発表する。</p> | | |



| | 成 果 | 課 題 |
|---|--|--|
| 学 校 | <ul style="list-style-type: none"> ・事前事後の取り組みを通して、教職員と地域の方々との連携を深められた。 ・保護者や地域の方に協力を得て体験学習を行うことで、学校・家庭・地域が一体となって地域の子どもを育てるという意識を高めることができた。 | <ul style="list-style-type: none"> ・事前・事後の指導のさらなる充実を図り、教職員と生徒ともに目的意識をもって地域の方々と連携して取り組んでいきたい。 ・梅農家の保護者が少なくなる中で、地域の方々に体験学習の意義や成果を理解していただき、協力者を増やしていきたい。 ・取り組み内容の再検討と時間数の確保を考えて、さらに取り組みを充実させていきたい。 |
| * 子どもにとって | <ul style="list-style-type: none"> ・地域の基幹産業である梅栽培・梅産業についての理解を深めることができた。 ・働くことの苦労や喜びを体感するとともに、異年齢の方との作業を通して人とのコミュニケーションの大切さを学ぶことができた。 | <ul style="list-style-type: none"> ・学校の授業だけでなく、休日などに地域の行事に積極的に参加し、交流することで、自分の住んでいる地域についての理解を深められるようにしていきたい。 ・地域の基幹産業を学ぶことで自分の生き方や地域の将来について考えを広げられるようにしていきたい。 |
| * 子どもにとって | <ul style="list-style-type: none"> ・地域の人々との交流により、地域を知るとともに、地域の一員としての自覚を持つことができた。 | <ul style="list-style-type: none"> ・地域の一員として、地域の行事に積極的に参加していこうという気持ちを育てていきたい。 |
| 地 域 (公民館) | <ul style="list-style-type: none"> ・中学生との交流を通じて、地域の魅力を改めて発見することができた。 ・子どもを持つ保護者でなくても交流を通じて、地域の子どもの教育に対する関心を高めることができた。 ・日常生活の中で中学生と直接関わりがなかった人も、交流を通じて顔見知りになることができた。 | <ul style="list-style-type: none"> ・地域・学校行事に対して、幅広い年代の方に関心を持っていただけるよう公民館報等の情報の発信に力を入れる。 ・地域・学校行事に対しての協力者を積極的に発掘していきたい。 |
| <p>評価及び次年度に向けての取り組みの方向</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまでの収穫を主とした体験に加え、梅栽培の歴史や現状の学習、加工場の見学などを取り入れることにより、地域の基幹産業である『梅』についての知識や現状をより深めることができた。 ・地域へ出て活動することで挨拶や言葉使いなどを学ぶとともに、人との出会いや触れ合い、勤労体験などを通して「豊かな心」「生きる力」を育てるよい機会となった。 ・梅勤労体験学習など、さまざまな体験学習を通して、地域に対する郷土愛を育てていきたい。 ・定期的に行われている中芳養地域連絡会を、お互いの情報交換や共通、共同の取り組みの構築等、積極的な取り組みを進める活動へと発展させていきたい。また、公民館との関係をさらに密にし、地域の教育力の掘り起こしを進めていきたい。今後、地域の協力者をリストアップして、積極的に学校教育への参加を呼びかけていきたい。また、学校教育の中で、地域人材の活用を場を具体的に検討していきたい。 ・取り組み内容については、常に新しい視線で再評価し、精選充実の取り組みを進めていきたい。 | | |

学社融合活動実施報告

| | | | | |
|--|---------|--|-----------|---------|
| 学校名 | | 上秋津中学校 | 公民館名 | 上秋津公民館 |
| <p>学社融合における学校・地域の様子 梅・柑橘類を中心とする専業農家が大半を占める農村地帯であったが、近年宅地化が進み交通の便もよいため、他地域からの転入者も増えてきた。地域住民は、教育に高い関心を持ち、地域に対する誇りと郷土愛にあふれる土地柄である。 また、農事体験学習における実行委員会組織(公民館主事・町内会長・JA・きてら・ガルテン・中学校職員)や、愛郷会、校区協議会などが本校教育活動を支えてくれている。</p> | | | | |
| 活動名 | | 防災学習 | 学年・教科・領域等 | 3年生総合学習 |
| 目標 | 学校 | 「そのときに備えて」、正しい知識の習得により、自己の所属する集団の防災能力・減災能力を高める。地域を支える人材の育成をめざす。 | | |
| | 公民館(地域) | 防災学習や農事体験学習などの学習を通じて、地域(人、歴史など)から多くを学ぶことで、地域について深く知り、地域を愛する心の育成となるよう努めたい。そして将来地域づくりの担い手として地域で活躍する人材の育成に繋げたい。 | | |
| <p>支援者及び支援組織 上秋津公民館 ガルテン 消防署</p> | | | | |
| <p>取り組みの経過(日時・ねらい・活動内容等) 《防災学習(3年生)》 2年生3学期に消防署を訪問し、起震車に乗ったり消火器の正しい使い方など防災に関わる知識学習と体験学習を積んだ。 3年生総合学習と理科の授業において、土砂災害、地震、津波、液状化現象などを学習し、地域(公民館、ガルテン)に出かけて聞き取り学習を行った。「そのときに備えて」公民館に備蓄されているマットや毛布などを実際に見せていただいた。 学習したこと聞き取ったことなどを冊子にまとめ、文化祭などで地域に配布し発信した。</p> <p>《その他の取り組み》</p> <ul style="list-style-type: none"> ★ 農事体験学習(1年生) <ul style="list-style-type: none"> 9月に事務局(公民館主事と中学校学社融合担当)打ち合わせ 10月に実行委員会(公民館主事、ガルテン、JA、、町内会長、PTA会長、中学校職員)をもつ 11月に事前学習と農事体験を行い、感想文やお礼状なども含めての事後学習を行う。 ★ 公民館との連携 <ul style="list-style-type: none"> 4月から月1回程度、幼稚園、小学校、中学校、公民館の4者が集まり、交流会を持った。 学校行事の意義目的や日程の説明などを行い、特に農事体験についての協力を依頼する。 9月 農事体験の打ち合わせと文化祭におけるサークル展の協力依頼 10月 公民館主事を通して、サークル展の方に作品出品を依頼する。 11月 展示用パネルの借り受けと体育館への搬入 パネルの組み立てと作品展示、文化祭終了後の撤去 ★ 幼小中連携 <ul style="list-style-type: none"> 4月から行っている幼小中公連携の会議の中で話し合いや準備を進め、小学校の音楽会に幼稚園や中学校も参加し、上秋津地区の文化芸術を高める一助と成った。 | | | | |

| | 成 果 | 課 題 |
|---|--|---|
| 学 校 | 「そのときに備えて」のそのときに差し迫っている中で、机上の知識だけではなく、判断力や実践力を培う絶好の機会となった。 | 少子化、過疎化が進む現状の中で、中学生が担う責任の大きさを痛感している。「そのとき」に実際の戦力となれるよう期待している。 3年生が行ったこの取り組みを発達段階を考えて全校的な取り組みに高めていくことを検討すべきではないかと考えている。 |
| * 子どもにとって | 自分自身が地域に守られて生きていることを実感し、行政などが中心となって地域を支えていることを知った。 | 今年度、3年生を対象に行った学習なので、系統だっけ学習を組み立てていけば、行動につながるかが懸念される。 |
| * 子どもにとって | ・防災学習や農事体験を通じて、地域の活動や産業について学習することで地域の一員として何ができるのかを考える機会になった。 ・地域の施設に行き、聞き取りと学習をすることで、地域の施設がどのような活動・役割をしているかを知る機会となった。 | ・学校生活以外でも、生徒が自主的に、学んだことを実践する機会を持てば、より具体的な体験・実践として身につくと考えられるが、実践の機会が少ない。 ・幼稚園、小学校、地域防災組織との連携を密にし、学習の流れを構築することで学習成果を高めたい。 |
| 地 域 (公民館) | ・防災学習を通じて、中学生が正しい知識を学ぶことで、地域防災の大きな力となる。 ・地域の施設に行き、聞き取りと学習をすることで、地域の施設・団体がどのような活動・役割をしているかを知ってもらう機会となった。また、まとめ(冊子)を通じて保護者の方々の地域理解にも繋がった。 | ・地域住民の防災意識の高揚のため、中学生の学習したことを住民みんなに知っていただけるような機会を設け、地域全体で防災学習できる体制づくりが必要となる。 ・幼稚園、小学校、地域での防災学習・訓練の連携を深め、地域防災体制を確立し、より具体的な役割や分担を構築し、中学生が担うことができる部分を明確にし、より具体的に体験・学習できるよう発展させていきたい。 |
| <p>評価及び次年度に向けての取り組みの方向</p> <p>《防災学習》 今年度3年生が取り組んだ防災学習をどうやって実践力につなげていくか、また、いかにして、全校的な取り組みに高めて行くかが今後の検討課題である。 幼稚園や小学校で行われている防災訓練や学習内容をお互い交流するとともに、地域の各種団体との連携をカリキュラムに生かす。</p> <p>《公民館との連携・・・文化祭サークル展》 公民館サークル(絵画、写真、書道)の作品を展示することで、生徒がレベルの高い作品に触れることができた。また、サークル展の活動が保護者など地域の方に認識していただき、上秋津地区の文化の発展に寄与できた。 サークル展の会員の方々に美術や国語(書写)の授業サポートをしていただくことも可能ではないかと考えている。</p> | | |

学社融合活動実施報告

| | | | |
|--|------------|--|----------------------------|
| 学校名 | 秋津川中学校 | 公民館名 | 秋津川公民館 |
| 学社融合における学校・地域の様子 | | | |
| <p>秋津川中学校は、秋津川小学校と同じ敷地内に隣接して廊下でつながり、運動場や体育館、プール等を共用しながら学校生活を送っている。児童・生徒間でも教職員間でも交流が行われ、小中連携が進んでいる。ほとんどの生徒は、保育所から小、中学校と一緒に生活しているため、生徒同士の間関係もよい。また、保護者も長い年月と一緒に活動しているため連帯意識や、地域の人々も子ども達を見守り育てていこうとする意識が強い。</p> <p>学社融合の取り組みから、子ども達が地域の方々と触れ合うことで、視野を自分のみから地域へと広げて考えられるようになるとともに、備長炭等の優れた地域の文化を学び、炭琴の演奏を披露することで、地域に誇りをもち、地域の方々も学校行事や子ども達との活動を仲介として、地域内の交流が活発に行われている。また、コミュニティーとしてのまとまりが保持され、各種お祭り行事等、秋津川地域としての文化の形成・継承が行われている。</p> | | | |
| 活動名 | 秋津川ふるさとまつり | 学年・教科・領域等 | 全学年 (国語・社会・数学・理科・英語・総合) |
| 目標 | 学校 | <ul style="list-style-type: none"> ・地域の人たちとのふれあいを深め、地域を知るとともに地域の良さを発見し、地域を愛し、地域を誇りに思い、大切にすることを育てる。 ・炭琴演奏を全員で行うことで、生徒各々が責任を自覚し、発表力を高める。 ・授業を公開することで、秋津川中学校を地域の方々々に知ってもらい、開かれた学校づくりを進める。 | |
| | 公民館(地域) | <ul style="list-style-type: none"> ・地域住民と子どもたちが交流を深めることで、郷土愛を育み、地域としての連帯感を高める。 ・地域住民、各種団体、学校が協力して一つの行事に取り組み、来場の方々々に秋津川の産業や伝統文化、教育活動の一端を知っていただくことで地域の活性化を図る。 ・地域住民に学校の取り組みに目を向けてもらい、子どもたちの健全育成に関心を持っていただく。 | |
| 支援者及び支援組織 | | | |
| 秋津川小中学校育友会、秋津川公民館、秋津川町内会、秋津川振興会、JA紀南上秋津支所秋津川店、JA女性会、秋津川婦人会 | | | |
| 取り組みの経過(日時・ねらい・活動内容等) | | | |
| <p>○ 5月27日(月) 平成25年度第1回 公民館協力委員会 平成25年度秋津川公民館事業計画の提案・承認、役員を選出 第29回ふるさとまつり 11月17日(日)開催 決定</p> <p>○ 7月30日(火) 平成25年度第2回 公民館協力委員会 盆行事について</p> <p>○ 9月 3日(火) 平成25年度第3回 公民館協力委員会 ふるさとまつり 開催日時の確認(11月17日(日)) 農林産物品評会へ出展の呼びかけ・お願い</p> <p>○10月29日(火) 平成25年度第4回 公民館協力委員会 ふるさとまつり 運営について協議 準備・片付けの分担や、当日の役割、当日のイベント日程等を決定</p> <p>○11月15日(金) 生徒の作品等の飾りつけ、炭琴演奏等の準備</p> <p>○11月16日(土) 地域の方々による会場設営並びに農林産物品評会等</p> <p>○11月17日(日) ふるさとまつり当日</p> <p>1、2限は公開授業(地域の方々々に自由に授業を参観してもらう)</p> <p>3、4限はふるさとまつりに参加。炭琴演奏・南中ソーランを披露 演奏曲目「世界に一つだけの花」「千の風になって」「花は咲く」</p> <p>5限も公開授業</p> <p>※昼食は、婦人会の方々々が作ってくださった「五目寿司」をいただきました。</p> | | | |

| | 成 果 | 課 題 |
|--------------|---|--|
| 学 校 | <ul style="list-style-type: none"> ・地域の多くの方々が「ふるさとまつり」に来校し、秋津川小・中学校を身近に感じ、児童生徒の様子を知ってもらいよい機会となった。さらに、炭琴演奏や南中ソーランを披露することで、秋津川中学校の地域に根ざした教育活動の一端を知ってもらいよい機会となった。 ・授業参観をしてくださった方は少なかったが、本校が実施している少人数を活かした丁寧な授業の良さを認識していただけた。 | <ul style="list-style-type: none"> ・せっかく多くの来校者がいたにもかかわらず、そのほとんどは催し物会場の運動場や体育館へ行ってしまい、授業を参観して下さる方が少なかった。もう少し、当日の広報に力を入れる必要があるようだ。 ・11月には本校の文化祭も開催された。少人数の中で素晴らしい発表が続き、一部でもよいからふるさとまつりでも実施できないものかと思い、来年は日曜日開催を計画したい。 |
| * 子どもにとって | <ul style="list-style-type: none"> ・普段の学校生活は少人数で過ごしているため、大勢の人を前に発表するという、貴重な体験を積む機会であった。 ・地域の催しへ参加することで、地域の一員としての連帯感や自覚を促すきっかけとなっている。 | <ul style="list-style-type: none"> ・子どもが少ないということもあって、地域からは大切にされ過ぎるところがあり、自立心の芽生えが遅れがちになりやすい。それぞれに役割分担をし、責任感を高めるようにしたい。 ・地域に対して、自分たちは何ができ、何をすべきかを考える主体的な態度を育てたい。 |
| * 子どもにとって | <ul style="list-style-type: none"> ・炭琴演奏や踊りなどの披露を通して、自分たちの取り組みや地域行事に関わっている姿を多くの来場者に見ていただくことができた。 ・地域の皆さんが、一生懸命、この行事に取り組んでいる姿を通して、ふるさと秋津川の良さを再確認することができた。 | <ul style="list-style-type: none"> ・これからも地域の行事や活動に積極的に関わって、多くの方々と交流し、人間性や社会性を高めていただきたい。 |
| 地 域 (公民館) | <ul style="list-style-type: none"> ・地域と学校が協力してこの行事を開催することで、地域の活性化にもつながっている。 ・多くの来場者に秋津川の産業や文化、そして、学校や子どもたちの取り組みを知っていただく良い機会となった。 ・少人数ながらも、子どもたちがひたむきに行事に参加・協力してくれていることで、地域住民も元気と活力をもらっている。 | <ul style="list-style-type: none"> ・少子高齢、過疎の進む地域にとって、このような交流行事が益々重要になってくると思われる。今後も継続して開催していけるよう、学校ほか各種団体とも連携しながら取り組んでいきたい。 ・時間的な制約があるが、行事をさらに盛り上げ、マンネリ化を避けるために、子どもたちの声を取り入れたり、世代間で交流ができるような新たなイベント内容も検討してみたい。 |

評価及び次年度に向けての取り組みの方向

・ふるさとまつりへは多くの来訪者があったにもかかわらず、授業参観をして下さる方が少なかったのは残念だった。授業参観をしてくださった方からは「少人数の授業がとても良かったです。」「先生が丁寧に指導している。」等、少人数故、一人ひとりに目の行き届いた授業の良さを褒めていただいた。

・7月から練習をつんできた炭琴の合奏は、「世界に一つだけの花」「千の風になって」「花は咲く」ともたいへんよいできばえで炭琴サークルの方々から、また、元気のある「南中ソーラン」は地域の方々からもお褒めの言葉をいただいた。そのことは、生徒達にとって自分を肯定的に見る材料となり、自信につながったものと思われる。また、合奏は、一人ひとりが責任をもってよい演奏をしなければ全体としてまとまらないものであるため、各自の責任感を高める役割も果たしていると思われる。

・大勢の人前で発表できる数少ない機会であり、普段、少人数の仲間内だけでしか生活していない生徒達にとっては、たいへん貴重な体験の場となった。今後も小規模校の本校においては、大勢の場で発表する機会は大切にする必要がある。

・生徒達は、今は、地域の方々から与えられた受身の参加意識しか持っていないように思われる。今後は、企画のマンネリ化を避ける意味からも、生徒達から主体的にこのまつりを盛り上げようとする機会が設けられないものかと思う。それを考えさせることは、生徒達に秋津川地域の将来を考えさせることにつながり、郷土を思う気持ちをより一層強くすることにつながるように思う。

学社融合活動実施報告

| | | | |
|---|-----------------|---|-------------------------|
| 学校名 | 衣笠中学校 | 公民館名 | 三栖公民館・万呂公民館 |
| 学社融合における学校・地域の様子 | | | |
| <p>本校では、学校が抱える教育課題を積極的に家庭・地域に訴えることにより、課題を共有化し、学校と地域が共に子育てに関わっていきこうとする地盤が確立されている。さらに取組を深化させるために、生徒と関わってくれる多くの人たちとの交流が一時的なものにならないように取組を系統立てたものになっている。</p> <p>地域の人たちとの体験活動を通して、生徒は好ましい人間関係のあり方を学び、人を思いやる豊かな人間性を身に付けつつある。</p> | | | |
| 活動名 | みんなが輝こう みんなで輝こう | 学年・教科・領域等 | 全学年 総合的な学習の時間・美術・家庭等 |
| 目標 | 学校 | <ul style="list-style-type: none"> ・自然や地域の人々とのふれあいを大切にし、地域社会の一員としての自覚を持たせ、地域に貢献する態度を育成する。 ・地域を知り、たくさんの人やものとの出会いから、心を育て、生き方を学ばせる。 | |
| | 公民館（地域） | <ul style="list-style-type: none"> ・作品展示や公民館報上での活動紹介をすることで、学校・生徒の様子を地域の方に知ってもらおう。 ・地域の方それぞれがもつ技能・知識・経験を生かし、将来の地域を担う子どもたちを見守り、育てていく。 | |
| 支援者及び支援組織 | | | |
| 三栖・万呂公民館、南紀田辺観光センター、JA三栖等地域団体、地域住民 | | | |
| 取り組みの経過(日時・ねらい・活動内容等) | | | |
| <p>1. 地域を知って、地域の良さを発信する活動</p> <p>① 地域産業の学習（梅農業体験等） <総合的な学習の時間> ② 地域を誇る作品づくり・生徒作品展の開催 <美術科></p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 地域の素材を使用した作品 … 地元企業、地域住民から提供された梅枝・種、備長炭を使っての制作 *「梅・地域の良さアピールポスター」(1年)「田辺のスペシャル工芸品」(2年)「梅キャラクター」(3年) ◆ 作品展：駅前南紀田辺観光センター、11月文化展等 万呂・三栖コミュニティセンターにて <p>③ 地域に貢献するために(福祉体験) 介護老人保健施設「すみれ苑」にて体験学習 <総合学習></p> | | | |
| <p>2. 公民館を通じた学校と地域の連携の取組、三栖幼稚園との協働実践</p> <p>(1) 学社融合担当者会議の開催 三栖幼・三栖小・衣笠中の担当、校区内の公民館主事が定期的に集まり、より強い関係を築くために連携会議を持つ。</p> <p>(2) 共育ミニ集会「か・た・り・愛」(11月) ◆ 小西博之氏の教育講演会后、学校・育友会主催で共育ミニ集会を開催。 地域住民・公民館関係者、三栖幼・三栖小・衣笠中の保護者・職員で意見交流。</p> <p>(3) 地域の方の指導による授業実践 ◇体育科(全学年:剣道)</p> <p>(4) 三栖幼稚園との協働実践</p> <p>① 授業実践 ☆美術科(園児をモデルにしたデザイン画) ☆英語科(英語すごろく) ☆家庭科(月見団子作り) ☆理科(自然観察) 等</p> <p>② さまざまな行事を通じての交流 (文化発表会等)</p> | | | |
|  | | <p>「地域の方の指導による 体育授業」</p> | |
|  | | <p>「美術科 園児をモデルに したデザイン画」</p> | |

| | 成 果 | 課 題 |
|--------------|--|---|
| 学 校 | <ul style="list-style-type: none"> ・地域との関わりを体感する様々な取組を通して、郷土愛が育まれ、自分たちがこの地域で生きているということを実感させることができた。 ・地域の方から、学校内や教師との関わりとは違ったアプローチを受けることで、人の温かさ等を感じるとともに、コミュニケーション力を高めることができた。 ・教職員の地域や社会に対する認識が深まり、さらなる連携への意識が高まった。 | <ul style="list-style-type: none"> ・地域の方々との関わり・交流を通して、生徒の規範意識をさらに高めていきたい。 ・今後とも積極的に地域、外部講師とのつながりを深め、より一層子どもや学校に関心をもってくれる人を増やしたい。 ・共育ミニ集会の実施など、学校としても、地域に対して様々な角度で関わる機会を増やしていきたい。 |
| * 子どもにとって | <ul style="list-style-type: none"> ・より多くの大人との関わりを持つことにより、多様な価値観を知り、社会性を身につける機会となり、子どもたちの成長に大きなプラスとなった。 ・活動を通して多くの方に認めてもらうことで、自信を持ち、地域への愛着を深めた。 | <ul style="list-style-type: none"> ・生徒が自主性を高め、主体的に企画・運営できるような取組が、必要である。 ・地域の一員として自覚し、継続して地域に貢献できるようになる。 |
| * 子どもにとって | <ul style="list-style-type: none"> ・梅農業体験など地域の大人とふれあいながら、地域の特産物を学ぶことで一般的な職業体験では学べない地域への愛着心を育てられた。 | <ul style="list-style-type: none"> ・一過性の取組に終わらず、継続したものになるよう様々な時・場所で地域と交わるようにする。 |
| 地 域 (公民館) | <ul style="list-style-type: none"> ・作品展、館報誌上での紹介で、学校・生徒の様子を広く知っていただくことはもとより、共育ミニ集会を開催することで学校のおかれている状況や課題も共有できた。 | <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の居住地が広範囲に広がるため、お互いに連携を密にし、より深く地域を知ること、体験できるように場の設定をしていきたい。 ・地域には、まだたくさんの眠った知識や経験がある。また学校が必要とするものも多岐にわたる。うまくマッチングできるよう人材の把握にも努めたい。 |

評価及び次年度に向けての取り組みの方向

本校では、「生まれ育った地域について学び、地域への愛着の気持ちや、地域に貢献したいという気持ちを育てる」という目標を掲げ、様々な取組を進めている。

この目標実現のためにも、さらに公民館との連携を深め、子どもたちにとって有効な活動に発展させられるような企画・運営をしていきたいと考えている。学習したことを情報発信していくという意味で、JR田辺駅前南紀田辺観光センター・公民館での地域を誇る生徒作品展を開催した。隣接の三栖幼稚園とのさまざまな実践は、子どもたちが自己肯定感を持つことができるなど多くのメリットを得ており、本校の特色ある取組となりつつある。

真の学社融合をすすめるために、学社融合活動の必要性を全職員が感じ、今後も公民館と協議・検討する時間を増やし、様々な取組を発展させていきたい。また、保護者・地域住民にも積極的に学社融合活動への関わりを強めてもらい、子どもたちの礼儀・マナー等の規範意識向上も含めた有意義な活動につなげていきたい。



「公民館での
生徒作品展の
様子」

僕たち、
「梅の栄養素！」
(文化発表会にて)



学社融合活動実施報告

| | | | |
|---|-----------|---|---|
| 学校名 | 長野中学校 | 公民館名 | 長野公民館 |
| <p>学社融合における学校・地域の様子</p> <p>地域の方々や保護者の皆さんは、学校に対して「地域の学校」という思いが強く、何事にもとても協力的である。本校は様々な体験活動を取り入れているが、地域内での体験が多く、地域との交流や郷土の学習を深めている。その都度公民館と連絡調整しながら行い、地域の人々の参加も協力的である。また、地域の人たちは長野中学校の活動を楽しみにしてくれている。</p> <p>そのような地域の雰囲気の中で生徒たちはのびのびと活動し、地域の一員として地域行事や公民館行事へも積極的に参加したり、清掃活動などボランティア活動も行っている。</p> | | | |
| 活動名 | 田植え・稲刈り学習 | 学年・教科・領域等 | 総合的な学習の時間 |
| 目標 | 学校 | <ul style="list-style-type: none"> ・食べ物を栽培し食べるまでにすることがどんなに大変なことなのかを知る機会にする。 ・稲作が日本に伝わって以来、日本人の主食として大事にされてきた「お米」がどのようにしてつくられているかを知る。 ・「お米」を大切にしてきた私たちの先祖へ思いを遣り、その苦勞を偲び、体験する機会にする。 | |
| | 公民館（地域） | <ul style="list-style-type: none"> ・地域の方それぞれが、自分の持つ技能・知識・経験を生かし、将来の長野を担う子どもたちを見守り、育てていく。 | |
| <p>支援者及び支援組織</p> <p>長野伏菟野区 小池さん</p> | | | |
| <p>取り組みの経過(日時・ねらい・活動内容等)</p> <p>5月 9日 田植え 5月15日 こんにやく作り体験 9月30日 稲刈り 10月22日 古道ウォーク 11月6日 わら草履づくり・給食試食会 11月10日 菊まつり (田植え体験学習の実施要領)</p> <p>・当日の日程</p> <p>8:30 学校出発 8:40 伏菟野着 生徒会代表によるあいさつ 小池さんより田植えの説明・実習指導</p> <p>9:00 田植え実習 11:50 田植え実習終了 片づけ(手足洗い) 生徒会代表あいさつ 12:00 伏菟野出発</p> <p>(稲刈り実習実施要領)</p> <p>12:40 移動 12:55 現地到着 13:00 実習開始 小池さんによる実習指導 15:30 実習終了 生徒会代表あいさつ 16:00 終了 帰校</p> <p>(目的)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・なぜお米が大切にされてきたか等、お米について学習する機会にする。 ・地域の人からいろいろな知恵を学ぶ。 ・郷土の歴史や文化に触れ、郷土を知る機会にする。 ・普段食べている「お米」が食卓にやってくるまでがどんなに大変なことなのかを体験する。 ・農薬を使わずにお米を育てる「お布団農法」について知り、体験する機会にする。 ・熊野川の自然豊かな伏菟野地域についてよく知り、自分たちの故郷の良さを再認識する機会にする。 | | | |
| | |  |  |
| | | | 田引き(田植え)の様子 |
| | |  | |
| | | | 稲刈りの様子 |

| | 成 果 | 課 題 |
|--|---|---|
| 学 校 | <ul style="list-style-type: none"> ・生徒たちはこれまでも食べ物を大切にす る気持ちを持っていたが、この体験でさら にお米を植えてからできるまでについて理 解を深めることができた。 ・慣れない農作業を通して、お米の栽培の 大変さを体験することで農作業に従事して いる人々の大変さに気づき、感謝の心が 育った。 | <p>一般的な田植えとは違う農法であるので、もう 少し生徒自身にその農法の成り立ちや方法につ いて学校で調べ学習を行うなどの自主的な事前 学習を行うことも考えておけばよかった。</p> |
| * 子ども にとって | <p>生徒の感想 私が小学生の頃していた田植えは、手で苗を 植えていく方法でした。今回は今までと違っ た『布団農法』という植え方でした。この体験で 毎日当たり前食べているお米は、大変な作 業をとおして食べられるんだなあ実感できま した。</p> | <p>「田植え」「稲刈り」ともに最近では簡単に体験 できる作業ではないため、生徒にとって有意義な 体験学習であった。</p> |
| * 子ども にとって | <ul style="list-style-type: none"> ・日ごろ自分達が食べているお米がどのよ うにして植えられているかを知り、またそ の大変さを体験することで、食物を大切に する心を学んだ。 | <ul style="list-style-type: none"> ・今の時代、調理済みの食品が生徒たちの周り に数多くあるが、田植え・稲刈り体験を通してそ の大変さを実感し、さらに「食育」につなげていき たい。 |
| 地 域 (公民館) | <ul style="list-style-type: none"> ・現代社会では、大人でも自分たちが口に するもの、身に着けるものの製造過程を 目にすることもなく、知らないことが多い。 それを地域の人から直接指導を受け、学 ぶことで教科書等で見聞きするよりもより 子どもたちの心に残る授業になったので はなかるうか。 ・地域の方にとっても直接指導をすること で、より身近に学校、生徒を感じてもらっ てきたのではなかるうか。 | <ul style="list-style-type: none"> ・地域の方は、学校に対してとても協力的であ る。しかしまだまだ眠っている知識・経験は多い と思われる。また、学校が欲するものも多岐にわ たる。公民館としては、より一層の人財の把握に 努め、地域と学校の架け橋になれるようにした い。 |
| <p>評価及び次年度に向けての取り組みの方向</p> <p><評価></p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の方々と協力してふれあいながら活動を行うということは、中学生に地域への帰属感をいだかせ るうえで大変有意義な取り組みであるとともに、地域の文化を継承し心豊かな人間の育成にも大変有 意義である。 ・地域の方々にとっても、学校便りで活動の様子を知るよりも、直接学校での活動や生徒の様子を目に することで学校への理解も深まったと思う。また、わら草履作りや菊祭りなども含めて若い中学生との触 れあう機会を、みな心待ちにしてくれている。 ・今年度は夏季休業中に図書館を地域に開放する取組を行った。広報活動が不十分だったためか多 くの人に利用していただくところまではいかなかったが、学校開放の取組としては有意義である。 <p><次年度に向けての取り組みの方向></p> <ul style="list-style-type: none"> ・本校が行っている体験学習は種類が豊富で活動内容も充実しているため、生徒たちの「豊かな心」を 育む上で非常に有効で、全国学力学習状況調査の生徒質問紙調査結果にもよく現れている。今後も授 業時数を確保しながら、有意義な地域に根ざした「体験活動」を学社融合の柱に据え、効果的な実施に 向け、方法等を改善しながら公民館・地域との協力の下進めていきたい。 | | |

学社融合活動実施報告

| | | | | |
|---|------------------|---|------|---------------------------------|
| 学校名 | | 龍神中学校 | 公民館名 | 龍神公民館 |
| 学社融合における学校・地域の様子 | | | | |
| <p>地域の人と接することで、地域を知り、地域に学ぶという「ふるさと学習」を基本として、「自然・環境」「歴史・文化」「産業」「福祉」の4つの分野において、それぞれの発達段階に応じて特色ある実践活動を展開している。具体的な取り組みは ①「学校だより(夢抱き)」の校区全戸(約1700戸)への配布 ②体育大会、文化祭等の学校行事への参加の推進 ③ボランティア活動の推進 ④地域行事への中学生の積極的な参加 ⑤職業体験活動の実施 ⑥外部講師(ゲストティーチャー)の活用等を行っている。</p> | | | | |
| 活動名 | | 地域ふれあい活動 | | 学年・教科・領域等 全学年、各学年・総合・特活・学校行事 |
| 目 標 | 学 校 | <ul style="list-style-type: none"> ・地域社会の中で、子どもたちの豊かな人間性、社会性を養う。 ・活動を通して地域の方々との交流を図り、地域の文化や、地域を愛する心情を養う。さらに、地域の教育力を生かした様々な活動に発展させていく。 ・ボランティア活動やリサイクル活動を通して、地域の環境美化・保全の意識を高める。 | | |
| | 公 民 館 (地 域) | <ul style="list-style-type: none"> ・地域を担う人材を育成する。 ・地域の人材からふるさとを学ぶ機会を提供する。 ・生徒との交流を通して、地域団体の活性化を図り、生きがいを見出す。 | | |
| 支援者及び支援組織 | | | | |
| 龍神地域各地区、龍神公民館、龍神中学校PTA、学校評議員、社会福祉協議会、西牟婁振興局、市・環境課、龍神行政局、龍神森林組合 等 | | | | |
| 取り組みの経過(日時・ねらい・活動内容等) | | | | |
| <p>5/22 1年 リサイクル学習会(講師:田辺市市民環境部環境課職員)</p> <p>5/26 第1回古紙古着回収活動(旧龍神村3中学校を拠点に実施)</p> <p>6/5 1年 紀の国緑育事業 森林教室(講師:藤本 花子氏、西牟婁振興局林務課)</p> <p>6/21 1年 食育授業(講師:咲楽小 栄養士)</p> <p>7/9 1年 交通安全教室(講師:田辺警察署職員)</p> <p>8/18 地域清掃ボランティア活動</p> <p>9/10 全校 東京二期会「ワークショップ」(文化庁 文化芸術体験事業)</p> <p>9/13 全校 租税学習(講師:田辺税務所職員)</p> <p>9/29 小学校運動会への参加(全校 出身小学校へ)</p> <p>10/2 全校 東京二期会合唱団公演(文化庁 文化芸術体験事業)</p> <p>10/27 第2回古紙古着回収活動</p> <p>10/29 2年 食育授業(講師:咲楽小 栄養士)</p> <p>11/3 荒島神社、皆瀬神社、丹生神社 祭礼</p> <p>11/11 全校 福祉学習(講師:田辺市社会福祉協議会職員他)</p> <p>11/23~26 村民文化祭 美術作品展示(全校)</p> <p>11/24 村民文化祭 舞台発表 3年「混声二部合唱」で参加</p> <p>12/5 全校 薬物乱用予防学習(講師:西前多香哉氏)</p> <p>12/13 校区内の高齢者(65歳以上一人暮らし)の方にお手紙を書く。(田辺市社会福祉協議会、龍神行政局)</p> <p>12/16 3年 保育実習(柳瀬保育園)</p> <p>12/17 1年 キッズスクールサポート事業(講師:和歌山県警)</p> <p>12/24 虎ヶ峰清掃作業(全校)</p> <p>1/21 3年 「食」に関する指導、調理実習(咲楽小 栄養士)</p> <p>2/23 第3回古紙古着回収(旧龍神村3中学校を拠点に実施)</p> <p>3/ 1年 林業体験学習(龍神森林組合)</p> <p>4月~3月 学校だより「夢抱き」の手渡し配布活動</p> | | | | |

| | 成 果 | 課 題 |
|--------------|--|---|
| 学 校 | <ul style="list-style-type: none"> ・保護者や地域の方に学校の様子や活動をより多く知ってもらうことができ、地域の学校としての意識をより高めることができた。 ・活動に対して大勢の方に協力していただくことができ、学校と地域の関係を密にすることができた。 ・講師(ゲストティーチャー)招聘により幅広い分野の学習をすることができた。 | <ul style="list-style-type: none"> ・学校と地域の関係をより密にし、地域の教育力をより生かした活動計画を立てていく。(幅広い分野にわたった取り組み) ・地域の方々の協力により、自分たちの教育活動が成り立っていることを生徒に自覚させるとともに、地域の方々への感謝の気持ちを育成する。 |
| * 子どもにとって | <ul style="list-style-type: none"> ・地域の大勢の方々の協力により、さまざまな活動ができ、より大きな達成感を味わうことができた。 ・環境美化・保全への意識を高めることができた。 | <ul style="list-style-type: none"> ・地域の方に感謝する心や、これらの取り組みが貴重な体験であるということを感じてもらいたい。 ・地域の行事や活動に積極的に関わって、より多くの方と交流し社会性を高める。 ・地域の方への挨拶や交通ルールやマナーを守る態度を向上させる。 |
| * 子どもにとって | <ul style="list-style-type: none"> ・地域にある組織や団体がゲストティーチャーとして学校に入ることにより、地域で活躍している方から直接話を聞くことにより子供達にとっても意義深い学習になっている。 ・地域の方と活動を通して交流を深められた。 | <ul style="list-style-type: none"> ・生徒が学社融合活動で学んだことや経験を地域や今後の人生の中で生かしていけるよう大切にしてほしい。 ・地域で活躍できる生徒の育成。 |
| 地 域 (公民館) | <ul style="list-style-type: none"> ・地域の方が学校に出向くことにより、学校活動に対する関心が高まり、保護者以外の地域の皆さんにも「地域の学校」として、学校活動に協力いただいている。「学校だより」を手渡しで配布することにより、校区の住民がより中学校の取組に関心を持つようになっている。 | <ul style="list-style-type: none"> ・学社融合活動をスムーズに行うために、地域と学校をつなぐ人材の育成。 |

評価

- ・学校だより「夢抱き」の校区(約1700戸)への手渡し配布を、年間を通じて行うことができ、学校での活動を地域に発信することができた。
- ・体育祭や文化祭に、保護者だけではなく大勢の地域の方々に参加していただくことができた。
- ・村民文化祭の舞台発表や美術作品の出品において、大勢の地域の方に鑑賞していただくことができた。
- ・祭礼の和太鼓や笛の演奏などに、積極的に参加することができた。
- ・リサイクル活動には、保護者や地域の方共に大変協力的で、たくさんの古紙、古着などの回収をしていただくことができた。
- ・清掃活動では、地域の方々いろいろな教えていただきながら作業をするなど、異世代の方との交流を深めることができた。
- ・虎ヶ峰清掃作業の活動を通して、環境を守ることの大切さを体験を通して学ぶことができた。
- ・外部講師(ゲストティーチャー)の招聘により、幅広い分野の体験や学習をすることができた。

取り組みの方向

- ・学校、公民館、各関係団体による組織作りを行う。
- ・学校と地域の関係をより密にし、地域の教育力をより生かした活動計画を立てていく。(幅広い分野にわたった取り組み。)
- ・環境美化・保全活動に対する住民意識を高めていくために、広報活動の工夫をする。
- ・年3回のリサイクル活動の継続。(普段から古紙、古着をためておいてもらえるような活動としていく。)
- ・環境教育を充実させ、意識を高めるとともに、主体的に活動を進めていけるようにする。
- ・学校だより「夢抱き」配布の際に、地域の方への積極的な挨拶や、親しみのある会話ができるようにしていく。

学社融合活動実施報告

| | | | |
|--|---|--|----------------|
| 学校名 | 中辺路中学校 | 公民館名 | 中辺路公民館 |
| 学社融合における学校・地域の様子 | | | |
| <p>自然豊かな環境の中で、少人数ではあるが生徒達は保護者や地域の方々に大切に温かく見守られながら学校生活を送っている。学校では、地域との交流を深める様々な取り組みを行っており、それらを継続的に行うことで、年々活動に協力して下さる地域の方々が増えている。比較的に地域全体が「地域で子供を育てる」という意識を持っており、地域の方が取り組みを提案して下さることもある。女性会や老人会といった地域の中にある組織の方々との交流も積極的に行っている。</p> | | | |
| 活動名 | 地域から受け継ぐ、地域に学ぶ、地域にかえす 地域との交流、地域のためにできること | 学年・教科・領域等 | 全学年・総合・特活・学校行事 |
| 目標 | 学校 | <p>○自然や地域の人とのふれあいを大切に、地域社会の一員としての自覚を持たせ、ふるさとを愛する心を育む。</p> <p>○地域行事やボランティア活動に積極的に関わっていかうとする生徒を育成する。</p> | |
| | 公民館（地域） | <p>○生徒と地域住民との交流を深めることにより、子ども達が地域への理解を深める。</p> <p>○学校と地域の連携を密にして子ども達の健全育成を図る。</p> | |
| 支援者及び支援組織 | | | |
| <p>・田辺市女性会連絡協議会中辺路支部・清姫音頭保存会・花ボランティア(13名) ・熊野の森ネットワークいちいがしの会 等</p> | | | |
| 取り組みの経過(日時・ねらい・活動内容等) | | | |
| <p>●地域から受け継ぐ ・「清姫音頭を教わる」 全校…9/18 「清姫音頭保存会」の方々に来ていただき、全校生徒に踊りを教えていただいた。それを校内の体育祭で、保護者や地域の方々にも参加していただき、披露した。 ・女性会との交流で調理実習 3年…10/18 地域の食材を使って、調理法などを田辺市女性会連絡協議会中辺路支部の方々に教えていただいた。</p> | | | |
| <p>●地域に学ぶ ・「花ボランティアから教わる」 1, 2年…年6回程度 今年度は13名の地域の方々が、花ボランティアに登録して下さり、一緒に種まきやポットへの植え替えをしていただいた。</p> | | | |
| <p>●地域にかえす ・校内で育てた花の苗を配布 生徒会活動の一つとして、町内の事業所や地域の方々に苗を植えたポットを配り、育ててもらっています。 ・森林ボランティア 全校 「熊野の森ネットワーク・いちいがしの会」に協力を得て、どんぐりの実から苗を育て、2年後に山に植樹する。 * 苗の水やり * 7/16…苗の牛乳パックへの植えかえ * 10/31…どんぐりの実拾い * 2/1…植樹</p> | | | |
| <p>●地域との交流 ・子育てサークルとふれあい体験 1年…5/16、3年…7/4 中辺路保健センターにて、地域の子育てサークルとふれあい体験を行った。 ・グランドゴルフ 3年…11/12 地域の老人会の方々と本校グランドにて、グランドゴルフを行った。</p> | | | |
| <p>●地域のために出来ること ・サマーボランティア 夏休みに地域の施設にご協力いただき、全校生徒が自主的に参加した。</p> | | | |

| | 成 果 | 課 題 |
|--------------|--|---|
| 学 校 | <p>地域の方々と関わり、交流を深めるごとに、教職員の地域に対する認識がより深まっている。</p> <p>様々な取り組みを通して、学校と地域とのつながりを構築していくことにより、地域の方々の学校教育や生徒に対する関心が高まり、理解を深めていただくことができた。</p> | <p>様々な取り組みをするゆえに、時間の確保が大変になる。しっかりと計画的に時間を確保していく必要がある。</p> <p>今後も継続させることによって、地域の方々と学校との協力関係をより深めていきたい。</p> |
| * 子どもにとって | <ul style="list-style-type: none"> ・地域の方々との関わりによって、社会性やコミュニケーション能力の向上につながっている。 ・地域の伝統をはじめ、様々なことを学ぶことができた。 | <p>どの活動も、生徒が主体的に取り組み、地域に対してより愛着を持てるように指導していきたい。</p> |
| * 子どもにとって | <p>中学生が行っている花作り・花配布の地道な活動が子ども達の自信になり、中辺路地域の住民の誇りや自慢につながっていることもある。</p> | <p>花ボランティア活動以外にも女性会や老人会などとの積極的な交流を継続していきたい。</p> |
| 地 域 (公民館) | <ul style="list-style-type: none"> ・中学校の生徒が花ボランティア活動で育てた花の苗配りは、地域の住民に大好評であり、こうした地域と中学生の交流が地域の環境美化意識を高めることにもつながる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・学校で取り組んでいる学習活動に地域全体がもっと関心を持ってもらえるよう、公民館として応援できることを考えていきたい。 |

評価及び次年度に向けての取り組みの方向

- ・地域の文化を知ることで地域の方々に認められ、自尊感情が育まれている。
- ・「花ボランティア」は毎年、継続的に行うことにより年々協力して下さる方が増えてきた。生徒と同じ作業を行っていただき、生徒と地域の方の交流を深めることが出来た。
- ・花の苗を生徒が配ることで、直接地域の方々の声を聞くことが出来、達成感や地域に貢献している意識を感じられている。
- ・子育てサークルやランドゴルフは、生徒とは他世代の方々と交流する良い機会となり、社会を知る上で大きな役割を果たしている。
- ・今年度サマーボランティアは、全校生徒が参加した。地域のために役立とうと、主体的に活動する感情を育むのに効果が見られた。
- ・どの取り組みも毎年継続的に行うことで、より深められていくと考える。取り組みが多い中、しっかりと計画的に行っていく必要がある。



学社融合活動実施報告

| | | | | |
|--|---------|---|-----------|---------------|
| 学校名 | | 近野中学校 | 公民館名 | 中辺路公民館近野分館 |
| <p>学社融合における学校・地域の様子</p> <ul style="list-style-type: none"> ・伝統的に学校と地域の連携が密であり、協力的である。 ・地域が一体となって取り組む行事として、近野区民体育祭(9月)近露丸かじり体験(11月)近野フェスティバル・文化祭(11月)近野山間マラソン(3月)などがある。中学校も地域の一翼を担って生徒も職員も主体的に参加している。 ・総合的な学習の時間に年間を通して行っている米作りは、地域の多くの方々の協力のもと行っている。また、収穫したお米は、地域の方々にも活用してもらっている。 | | | | |
| 活動名 | | 米作り結節点としての近露丸かじり体験イベント参加 | 学年・教科・領域等 | 全学年・総合的な学習の時間 |
| 目標 | 学校 | <ul style="list-style-type: none"> ・地域での活動を通して地域を知る。・共同作業をすることにより、助け合いや協調性を養うと共に、地域との作業を通して地域の方々に対するの尊敬の気持ちを育てる。 ・米作りの地域の方々へのご恩返しとして地域のイベントに参加し、達成感とおもてなしの気持ちを育てる | | |
| | 公民館(地域) | <ul style="list-style-type: none"> ○生徒と地域住民との交流を深めることにより、子ども達が地域への理解を深める。 ○学校と地域の連携を密にして子ども達の健全育成を図る。 | | |
| <p>支援者及び支援組織</p> <p>九乗氏・前氏・久保氏・中村氏・三栖氏・山本氏・まるかじり体験実行委員会・NPO古道の里に花と愛・JA女性会・近野振興会・公民館近野分館・山形屋 等</p> | | | | |
| <p>取り組みの経過(日時・ねらい・活動内容等)</p> <p>5月 8日(水) 九乗さんの自宅で地域の方の指導のもと、1年生が箱苗作り・籾まきを体験した。</p> <p>5月31日(金) 多禰さんからお借りした田んぼで、地域の方の指導のもと、2年生が代掻きを体験した。</p> <p>6月 7日(金) 地域の方の指導のもと、全校でもち米とうるち米の田植えを体験した。</p> <p>8月 6日(火) 全校で、田の雑草とりをした。</p> <p>9月25日(水) 地域の方の指導のもと、全校で稲刈り体験を行った。</p> <p>10月 2日(水) 地域の方の指導のもと、全校で脱穀体験を行った。</p> <p>10月21日(月) 近露丸かじり体験実行委員会</p> <p>今年は、地域の方への米作りの感謝の気持ちと米作りの結節点として餅つきをして、餅の販売で参加することを実行委員会に伝える。</p> <p>11月 3日(日) 近露丸かじり体験イベントに全校で参加。山形屋さんに場所をお借りし地域の方々の指導のもと、餅つき・餅握り・販売の体験をした。</p> <p>12月 5日(木) 近露丸かじり体験実行委員会</p> <p>『中学校も参加していただき、地域が高齢化していく中で若い力の子供達が地域の行事に参加して頂けることは、将来への大いなる希望となりました。参加して頂くに当たっては先生方の熱心な御指導と郷土愛によるところであると深く感謝致しております。』と、実行委員会からお礼を頂きました。</p> <p>*『ちかの平安の郷かめや』に丸かじり体験の生徒及び職員の感想文が展示されています。</p> | | | | |
|  | |  | | |

| | 成 果 | 課 題 |
|--------------|---|---|
| 学 校 | <ul style="list-style-type: none"> ・米作りを箱苗から取組、収穫までを行い勤労の尊さを学ばせることができた。 ・米の結節点として餅つきを行い、日本の食文化の学習をさせることができた。 ・地域の方との交流が深まり、感謝の気持ちや先人を敬う気持ちが育った。 ・多くの共同作業を取り組む中で、協調心や思いやりの気持ちが育った。 ・集団としてのまとまりが育ち、学校行事等でもその力が発揮された。 | <ul style="list-style-type: none"> ・総合的な学習の時間が少なくなるなかで、米作りの時間を確保するのが難しくなっている。 ・天候に左右されることが多く、予定通りに実施できない。 ・来年度以降生徒数・職員数とも減少するなか今のままでの実施は難しくなってくる。 ・行事の精選や中身の検討。 |
| * 子どもにとって | <ul style="list-style-type: none"> ・米作りの作業の流れが学べた。 ・人生の先輩として地域の方を敬うようになり、あいさつ等にあらわれている。 ・地域のイベントや学校行事に主体的に参加できている。 | <ul style="list-style-type: none"> ・生徒同士の中で、先輩から後輩へと取組が伝授できていけるようなしくみに。 ・生徒一人一人の負担が多く重くなってくること。 |
| * 子どもにとって | <p>地域が抱える様々な課題に気づくとともに、地域の活性化のために自分たちも参加していくことで学ぶことができた。</p> | <p>地域の伝統に学び、地域の活動に今後とも継続して関わってってもらいたい。</p> |
| 地 域 (公民館) | <p>前年度に引き続き、校区内の休耕田を借用して、地域住民のご協力により、米作り体験を行った。 こうした地域の方々や生徒たちが一連の米作り作業を行うことで交流を深めることができていることは、学社融合の推進に寄与している活動であると思う。</p> | <p>生徒数が少なくなってきたなか、学校と地域住民が連携した体験学習を行って、地域全体で子どもを育てる学習を進めていくことが重要となっている。</p> |

評価及び次年度に向けての取り組みの方向

・米作りを箱苗作り・もみまき・代掻き・田植え・雑草取り・稲刈り・脱穀までの農作業を体験し、日本の米作りの一連の作業を体験する事ができた。今後も米作りのサイクルを体験を通して学ばせたい。

・地域の方々の協力なくして米作り体験はできない。今後とも地域の中で育つ近野中生としての位置づけとして、地域から多くの事を学び、また地域に感謝の気持ちを伝える学社融合を目指したい。

・昔ながらの杵と臼で餅つき体験をし、日本の食文化の継承がはかれた。また、近野フェスティバル・文化祭の育友会主催のパパママランチや女性会のバザーの食材として提供できたことは、地域に恩返しできて良かった。これも学社融合の成果。今後もこういう関係であり続けたい。



学社融合活動実施報告

| | | | | |
|--|---------|--|------|-----------------------------|
| 学校名 | | 大塔中学校 | 公民館名 | 大塔公民館 |
| 学社融合における学校・地域の様子 | | | | |
| <p>本校では「ふるさとを愛し、心豊かに、たくましく生きる児童生徒の育成」を目標に小中一貫教育としてATOM学習を展開している。ATOM学習には、鮎川・富里・三川の3小学校と各地域とともに清掃活動を行う「大塔リフレッシュ大作戦」があり、大塔公民館と連携しながら中学校3年生(9年生)が中心となって計画し、保護者・地域の老人クラブなどからも多くの参加をいただき実施している。</p> | | | | |
| 活動名 | | 大塔リフレッシュ大作戦 | | 学年・教科・領域等 全学年(総合的な学習の時間) |
| 目標 | 学校 | <p>・ふるさとを愛する心を育み、自発的に学び考える力や社会の変化に柔軟に対応できる力を養う。また、お互いの個性を認め合うためのコミュニケーション能力を高め、自己実現に向けて努力しようとする児童生徒を育てる。</p> | | |
| | 公民館(地域) | <p>・地域住民と児童生徒が清掃活動を通して交流を深めるとともに、ふるさとの恵まれた自然環境を見つめ直す機会とする。また、次代を担う子どもたちを地域で育み見守っていきこうという気運を高める。</p> | | |
| 支援者及び支援組織 | | | | |
| 大塔公民館・大塔自治連絡協議会・大塔老人クラブ連合会・保護者・地域住民 | | | | |
| 取り組みの経過(日時・ねらい・活動内容等) | | | | |
| <p>『大塔リフレッシュ大作戦』 ○実施日 11月13日(水) ○ねらい ・地域のポイ捨てや不法投棄について調べることによって、ゴミの種類や環境に与える影響、ゴミを出さないような工夫などについて考える。 ・地域の児童生徒や身近な人々に呼びかけをし、計画を立てて一緒に清掃活動をすることにより、みんなで協力することの大切さを知る。 ・自分たちの地域は自分たちできれいにし、自分たちの地域を大切にする。 ○清掃場所 ・鮎川地区 ①下附1, 2, 3 ②下附4 ③下附5 ④下附県営 ⑤宇立 ⑥向越・能登 ⑦城ノ浦・内ノ井 ⑧宮代・津呂 ⑨県営1, 2・下平・市営 ⑩射場 ⑪鉛山 ・富里地区 ①竹西1 ②竹西2 ③上野 ④中ノ番・下川上 ⑤支所前・平瀬 ・三川地区 ①面川・熊野 ②合川 ③向山</p> | | | | |
|  | |  | | |

| | 成 果 | 課 題 |
|--------------|---|---|
| 学 校 | <ul style="list-style-type: none"> ・縦割り班の活動であるため、中学生は小学生を導こうと努力し、中学3年生は全体を見通しながら、責任感を持って取り組むことができた。 ・総合的な学習の一環として、生徒に行事の運営・計画・先導を経験させることで、自信を持たせることができ、将来、社会への参画を意識させることができた。 | <ul style="list-style-type: none"> ・例年続けている活動であるため、マンネリ化しつつある部分もある。また、学校の意図だけでなく、地域の思いを両立させるためには、時間設定や清掃区域、児童・生徒との関わり方などいくつかの課題がある。地域が広いため、また、職員が少ないため、大塔全体を1回の活動でやりあげるのは困難である。隔年で、清掃地域を変えていくなどの工夫が必要である。また、この時期は、学校行事だけでなく、多くの行事があるため、並行しながらの取り組みになるなどの課題がある。 |
| * 子どもにとって | <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の感想には、地域のこと、地域の人々との交流のこと、小学生との交流のこと、来年に向けてのこと、ゴミ問題のことなどについて前向きな感想が多く、地域についてや環境問題について考える良い機会になっている。 | <ul style="list-style-type: none"> ・3年生が中心に計画から実施まで行っているので、3年生に対する負担が大きくなっている。 ・地域の清掃活動以外に、実施時の小学生の安全確保に注意しなければならない。 |
| * 子どもにとって | <ul style="list-style-type: none"> ・地域の大人たちと協力しながら活動することで社会性を育むとともに、清掃活動を通してふるさとの自然環境を見つめ直し、日頃、気づかなかった新たな発見をする機会となった。 | <ul style="list-style-type: none"> ・「大塔リフレッシュ大作戦」では、それぞれ自分の住んでいる地区で清掃活動を行っているが、他の地区でも活動することで、より地域を知り、多くの地域住民との交流を図っていくことも考えられる。そして、これらの活動を通して、子どもたちの地域づくりへの参画へとつなげていく。 |
| 地 域 (公民館) | <ul style="list-style-type: none"> ・地域によっては、小中学生のいないところもあり、住民にとってもこの活動を通して子どもたちと交流できる喜びを感じている。また、これからの地域を担う子どもたちにいろいろなことを伝えていきたいという思いが高まっている。 | <ul style="list-style-type: none"> ・地域の各種団体に協力をいただいているが、平日の実施ということもあり、参加者が限られている。多くの地域住民に参加いただくための工夫も必要となってくる。また、活動の打ち合わせ等にも地域住民の積極的な参加が望まれる。 |

評価及び次年度に向けての取り組みの方向

全体的に、生徒の活動の様子、地域との関わりについて良好であった。中学生は、小学生の見本となるように活動し、小学生も積極的にゴミ拾いをし、地域の方々とも協力しながら取り組むことができた。児童・生徒の中には、ゴミの量が減ってきていると実感している者が多く、これまでの活動の成果の現れだと思われる。今後も継続することで、地域全体が環境美化について意識し、大塔の自然を守る活動の一環として、取り組むことができるものと期待している。

今後考えられる取り組みの方向性として、

1点目は大塔地域全体を清掃するためには、単年計画ではなく、何年間かを見通して計画的に実施していくことができると考える。ただし、職員の転出転入などで計画的におこなうには研究の必要がある。また、中学3年生の生徒は、リーダーとなり活動するとき、自分の地域を清掃することができなくなるという課題も考えられる。

2点目として、取り組みを長年続けてきたことにより、「大塔リフレッシュ大作戦」を経験した卒業生や地域の人々は、ゴミのポイ捨てなどをしないようになっていくと考えられるが、川遊びや観光で訪れる他の地域からの人々が出すゴミへの対応について考えていく必要がある。活動を周知し、大塔地域外の人々にもこの取り組みを知ってもらふ必要があると思われる。

3点目として、平日の実施であるため、参加ができる団体が限られている。今後は、更に活動の内容を理解してもらい、活動内容の改善と共通理解を図り、生徒にとってより達成感のある充実した活動となるように、周囲の大人の協力サポート体制づくりが大切だと考える。

学社融合活動実施報告

| | | | |
|-----|-------|------|-------------------------------|
| 学校名 | 本宮中学校 | 公民館名 | 本宮公民館 本宮分館・四村川分館・請川分館・三里分館 |
|-----|-------|------|-------------------------------|

学社融合における学校・地域の様子

「学校教育のさまざまな場面で、地域と連携することにより、地域と共に歩む開かれた学校づくり」を目的とし、「音無の里地域共育コミュニティ」を中心として様々な活動に取り組んでいる。「音無の里地域共育コミュニティ」では、「子どもたちが地域の多くの方々と交流し、多様な体験や経験を積み重ねることで、規範意識やコミュニケーション能力、ひいては確かな学力の向上を図ると共に、地域の活性化にも貢献できるよう、学校・家庭・地域が一体となった教育活動の充実」を目指している。具体的には学校での活動を「学習支援」「ふるさとづくり」「保育園・小学校・中学校連携」の3つの柱にわけ、地域コーディネーターの協力を得ながら、地域と一体となった活動を進めている。

地域の方や保護者は学校教育に協力的であり、学校や育友会からの行事等への呼びかけをした場合、多くの方が参加、協力して下さっている。

| | | | |
|-----|----------|-----------|--------|
| 活動名 | プランター花植え | 学年・教科・領域等 | 全学年・総合 |
|-----|----------|-----------|--------|

| | | |
|-----|---------|--|
| 目 標 | 学 校 | ・地域と連携・協力し、開かれた学校づくりを進める。 ・郷土を愛し、地域に貢献できる生徒を育成する。 |
| | 公民館（地域） | ・地域人材を活かした活動を推進し、学校や子ども達の様子を知り、交流を深めると共に、地域を愛する子どもを育む。 |

支援者及び支援組織

共育コーディネーター・学校支援ボランティア・公民館各分館・女性会・地域の方

取り組みの経過(日時・ねらい・活動内容等)

○日時 平成25年12月10日(火) 10:00～15:10

○目的
学校と公民館及び地域住民等と一緒に、プランターに花を植え、それを観光地である本宮地域に配布設置することにより、ふるさとづくりに貢献するとともに生徒に地域の一員としての自覚とおもてなしの心を育むことを目的とする。

○活動内容
プランター(220個)にパンジーの苗(660本)を植える。学年毎に作業を分担し、地域の方にやり方を教えて頂きながら作業を行う。

・1年「土作り」
古い土をふるって石などを取り除き、新しい土と混ぜ、プランターに入れる。



・2年「苗植え」
根をほぐしながら、プランターに苗を植える。



・3年「配布・設置」
国道沿いや道の駅などに、プランターを運び、設置する。



| | 成 果 | 課 題 |
|--------------|---|--|
| 学 校 | 事前の打ち合わせなど、学校と公民館他、地域の方とのコミュニケーションの場が増え、信頼関係を深めることができた。また、地域の方の協力や作業の仕方を指導して頂いたことにより、活動をスムーズに進めることができた。 | 現在行っている活動を継続しながら、これからも学校教育に関心をもってもらえるよう、地域とのつながりを深め、積極的な働きかけをしていく。 |
| * 子どもにとって | 地域の方と一緒に作業を進める中で、子ども達は多くの大人と関わりを持つことができた。地域に出て行くことで地域の一員としての自覚を促すことができ、地域へ貢献することの達成感を得ることができた。 | 子ども達が自主的に地域に関心を持ち、主体的に考え行動できる態度を育てていく。 |
| * 子どもにとって | 古い土の再利用による土作りや苗の植え方など教わりながら、地域の方と交流することができた。観光地である本宮地域を訪れる方々へのおもてなしの心を育むことができた。 | この活動だけでなく、色々な活動を通して地域の一員であることの自覚を促していきたい。 |
| 地 域 (公民館) | 一緒に作業することで子ども達とふれあう良い機会となった。また学校が身近なものとなった。プランターを観光施設などに設置することで、地域が美しくなるとともに観光客などに喜んでいただいた。 | プランターの数に限りがあるため、地域全体に配布することができない。また、設置場所によっては、花への水やりなどの管理が困難である。 |

評価及び次年度に向けての取り組みの方向

<評価>

本校は統合2年目となり、共育コミュニティに関わる活動は、昨年度の反省を生かして良い取組は継続し、見直しが必要な活動については改善しながら取組を進めることができた。

今回の花植えの活動は3年目となる。昨年までは土作りの作業は地域の方でやって頂き、生徒は花植えと配布・設置の作業を手伝う形だった。今年は土作りの作業から生徒が参加させて頂いたので、花を植えるまでの作業全般を体験することができたので良かった。

小学校での老人会との取組でも花の苗を植える作業を体験しているので、苗を植える作業は手早くできた。

<次年度に向けての取組の方向>

学校支援地域本部事業の指定は今年度で終了するため、費用の工面等の問題があるが、音無の里地域共育コミュニティとしては、プランターの花植えと地域への配布・設置の作業は、今後も継続していきたい活動の一つである。

今後も、公民館をはじめ各団体の協力を得ながら、地域とのつながりを深める活動を取り入れ、地域との交流を深めていきたい。

学社融合活動実施報告

| | | | |
|--|---------|--|-------|
| 学校名 | 新庄幼稚園 | 公民館名 | 新庄公民館 |
| <p>学社融合における学校・地域の様子</p> <p>本園では少しでも多くの地域力を幼稚園に取り込み、「社会全体で子どもを育てていく」という機運を高めていきたいと考える。そこで園と距離が近く、また公民館事業(生涯学習活動)も盛んな事から、「共にふれあい、学びあうー友だちや地域の人とのかかわりを通してー」というテーマのもと、公民館や地域の方々との取組を進めている。例えば、地域の伝統文化「ぎおんさんの夜見世」の参加、月1回実施しているお茶教室や、学期に2回程度実施しているコーラスサークルの方々との交流、11月には園児の作品を展示した公民館ロビー展などを行っている。こういった活動を通して、地域の方の温かさや優しさ、地域の文化・伝統などを感じながら、自分の住む地域を愛し、自分も地域の一員だと感じ、将来は新庄地域を担う存在になってほしいと願っている。</p> | | | |
| 活動名 | | 「ぎおんさんの夜見世」に参加 | |
| | | 学年・教科・領域等 | |
| 目標 | 園 | <ul style="list-style-type: none"> ・地域の人々が長年大切に受け継いでいる伝統文化を継承する。 ・園児と保護者が共に地域の行事に参加することで親子のふれあいを広げる。 ・作品作りを通して、親子のコミュニケーションを図る。・親子でイメージした物を具現化していく楽しさを味わう。 ・身近な材料を使い、試したり工夫したりするおもしろさを味わう。 ・共通の目的に向かって、みんなで協力し合う。 | |
| | 公民館(地域) | <ul style="list-style-type: none"> ・地域の伝統文化継承の担い手養成を園児だけではなく保護者も巻き込んで進めていく。 ・作品の制作過程での親子や地域の方々との触れ合いを大切にする。 | |
| <p>支援者及び支援組織</p> <p>地域に住む講師(松本さん)、新庄公民館の主事、新庄幼稚園の保護者や園児</p> | | | |
| <p>取り組みの経過(日時・ねらい・活動内容等)</p> <p>今年は地域の伝統文化である「ぎおんさんの夜見世」に、材料集めや制作なども家族で取り組むことでもっと興味や関心をもつのではないかと考え、地域の方や母親クラブの方々(園児の母親で作っているサークル)の協力のもと活動を進めた。</p> <p>○5月20日</p> <ul style="list-style-type: none"> ・PTA会議で、今年の「ぎおんさんの夜見世」について、職員から『「ぎおんさんの夜見世」のねらいや「今年は親子で制作をしていきたい」ということ』を伝え、理解や協力、アイデアを得る。今年のテーマは子ども達が好きなお話「おむすびころりん」とする。 <p>○5月29日</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育参観の後、PTAの方や母親クラブの幹事さんと職員とで、今年のぎおんさんについて話し合う。(材料集めや背景の制作、制作日程など) <p>○6月7日</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公民館主事を通じ地域に住む松本さんから「ぎおんさんの夜見世」についての由来や制作方などを保護者や園児に教えて頂く進め方や内容を話し合う。 * 今年新庄に引っ越してきた方や「ぎおんさんの夜見世」について全く知らない方もいるし、2回作った方がいろいろなアイデアも出るのではないかとということで、制作日程を6月26日と7月12日とする。 <p>○6月26日</p> <ul style="list-style-type: none"> ・松本さんに保護者や園児に「ぎおんさんの夜見世」についての由来や制作方法などを話して頂く。そして素材(ナス、切って乾燥させたカボチャ、マカロニなど)を使って親子でネズミを作っていく。出来たネズミを園で展示する。 <p>○7月～</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ナスよりもジャガイモの方がネズミらしく出来たという意見からネズミの体をジャガイモで作ることになる。PTAの役員の方や母親クラブの方、園児が、「こんな野菜は使えるかな?」とジャガイモや家で栽培しているオクラなどを園にもって来てくれ、材料が集まる。 <p>○7月8日～10日</p> <ul style="list-style-type: none"> ・母親クラブの方々が集まり、絵本「おむすびころりん」のおじいさんや、土の中の様子、杵に臼などを身近な素材(ふやジャガイモ、ひょうたんなど)で作る。 <p>○7月12日</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2回目の制作。1回目作ったという経験から親子で話し合い、自分のイメージしたネズミ作りをする。1回目よりもスムーズに工夫しながら作る。 <p>○7月13日「ぎおんさんの夜見世」当日</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年は土曜日なので、PTAの方に手伝ってもらって、親子で作り上げた作品を展示する。 | | | |



～松本さんのお話の様子～

| | 成 果 | 課 題 |
|-------------|---|---|
| 園 | ・公民館主事を通じ、地域の講師に由来を話して頂いたり、保護者に材料集めを呼びかけたり、制作のアイデアを募ったりしたことで、地域、家庭、園が共通の目的をもって取り組み、人と文化が結びつき、達成感や充実感を味わうことができた。 | ・「ぎおんさんの夜見世」では生野菜を使うことが多く、夏の暑さなどから日持ちができないので、それらを考えたテーマや材料集めをしなければならぬ。また畑をもち、野菜を作っている家庭も少なく、材料集めが難しいところがある。 ・地域の方や保護者の方の都合、園の他の行事を考えて日程を組む必要がある。 |
| * 子どもにとって | ・地域、家庭、園がつながりを深めることで、園だけでは味わえないより豊かな生活体験を子ども達は味わうことができた。 | ・作品を見る人もイメージをもちやすく、また作る子ども達や保護者も共通のイメージを持って取り組めるようなテーマを考える。(誰もが知っている絵本の一場面を制作するなど) |
| * 子どもにとって | ・作品制作をとおして「祇園祭」についての興味を持てた。 ・家庭では出来ない親子の触れ合いがあったのではないだろうか。 | ・「祇園祭」そのものの意味を理解させることが難しく、単に作品作りに終始しているように感じる一面があるので、分かりやすく伝える工夫が必要である。 |
| 地域 (公民館) | ・講師の方の反応が大変よく、子どもたちから元気をもたらしたなどのコメントがある。 ・「祇園祭夜見世」当日は会場である通りを歩いていると子どもたちから声をかけてくれるなど、地域の賑わいを感じさせる存在となっている。 | ・上記の子どもに対する記述と重なるが、単なる祭りに終わらせない工夫がないと文化の継承にならない。 ・町並み保存(保全)も視野に入れた取り組みが必要になってくると思われる。 |

評価及び次年度に向けての取り組みの方向

本園に通っている子ども達の家庭は、長年新庄地域に住んでいる方もいるが、転居されて新庄に来られた方もおられ、「ぎおんさんの夜見世」の由来などを知らない方も見受けられる。そこで公民館や地域に住む講師に協力を願い、親子で「ぎおんさんの夜見世」の由来や、生野菜や乾物などで作る方法を教えて頂いた。またPTAの役員や母親クラブの方々の理解や協力を得て、作品の材料集めやアイデアも出して頂いた。そして親子で実際に作品を作ることで、「ぎおんさんの夜見世」に対する興味や関心が深まり、みんな(地域の方、保護者、園児)で「ぎおんさんの夜見世」という共通の目的に向かって取り組む楽しさや、身近な素材(野菜や木の実など)でイメージした物を作るおもしろさを味わうことができた。

後日保護者の方から「子どもと一緒に作ることで、作る過程も見れて楽しかった』『買い物に行った時、売っているじゃがいもを見て、「(ぎおんさんの時に作ったような)ネズミができるなあ」と子どもと話した』などの声があったり、「ぎおんさんの夜見世」では作品を背景に写真を撮る家族の姿もあった。子どもの作品を通して客観的に伝統行事に触れていた保護者だが、今回実際に自分も子どもと一緒に制作することで主観的に考えることにつながり、視点を変えて伝統文化を見たり、伝統文化を支える一員になれたというような連帯感や充実感も味わえたと思う。

「ぎおんさんの夜見世」に取り組むことで、人と人(地域の方、園児、保護者)とのつながりや地域の伝統文化への関心が深まった。次年度も3者(地域、保護者、園)が学社融合の推進という同じ方向に向かって歩みを進めていきたい。

| | | | |
|-----|-------|------|-------|
| 学校名 | 三栖幼稚園 | 公民館名 | 三栖公民館 |
|-----|-------|------|-------|

学社融合における学校・地域の様子
 本園では、「人とかがわり育ちあう」という研究テーマのもと、友達そして地域の様々な年齢層の人々との交流を深めていくことで、人々の優しさや温かさに触れ、うるおいや変化のある豊かな園生活を送ることができるようにと願い、日々保育の充実を図っている。
 立地条件を生かした衣笠中学校との交流を軸に日常的なかかわりを大切に無理なく継続できるよう、交流の見方を少し変えたり、工夫を加えたりする方法で学社融合の取り組みの充実、発展に努めている。
 2011年から、中学生との昼休み交流のきっかけ作りとして始めた『にこにこまつり』。保護者、未就園児、高齢者学級まで幅広い年齢層の方々も招き、3年間積み上げてきた交流のお陰で、子ども達そして地域、お互いが“人と人”と繋がっていくことに安心感を持ち、地域への関心が強まってきているところである。

| | | | |
|-----|--------------------|-----------|-----|
| 活動名 | にこにこまつり(地域の方々を招いて) | 学年・教科・領域等 | 全園児 |
|-----|--------------------|-----------|-----|

| | | |
|----|---------|---|
| 目標 | 園 | ・様々な人と『にこにこまつり』を楽しむ中で、思いやりの気持ちを持って接したり、人とのかかわりを心から楽しんだりする。 |
| | 公民館(地域) | ・高齢者学級を中心に地域の方と園児による世代間交流を図る。 ・園児の様子を直接見てもらうことで、地域の学校(幼稚園)との認識を深め、子どもを見守り育てていこうという意識を持ってもらう。 |

支援者及び支援組織
 衣笠中学校、保護者、未就園児、公民館、高齢者学級

取り組みの経過(日時・ねらい・活動内容等)

にこにこまつり☺

園内での遊びに中学生や地域の様々な年齢層の方々を招待して一緒に楽しもう!

2011年 <きっかけ作りとして発案>

お昼休みを利用して中学生が気軽に足を運んでもらうためのきっかけ作りとして『にこにこまつり』を開催。沢山の中学生が来て、遊びを楽しんでくれた。

2012年 <『にこにこまつり』を定例化>

テーマを決め、一年間の交流にストーリー性を持たせる。2年目の『にこにこまつり』。中学生も遊びコーナーを作ってくれて園児も、生徒も遊びを楽しむ中で、触れ合いを楽しむ。

2013年 <定着した『にこにこまつり』>

3年間の積み上げがあって、『にこにこまつり』が単なるイベントではなく、定着することで、日常的なかかわり・関係が深まってきた。今回はペアで楽しめる遊びにしよう!

手作りゲームの内容

- 的当てゲーム
- パターゴルフ
- レストラン
- なかよしすごろくゲーム

11/6, 8 中学生を招待



☆なかよしすごろくゲーム☆
 年長児が手作り。
 ペアで楽しめる遊びにしよう!
 ・一緒にサイコロを振る。
 ・すごろくの内容は、「ほっぺとほっぺをくっつける。」「かたをくんでとぶ」など。



11/ 7 保護者、未就園児を招待

12/17 高齢者学級の方を招待



| | 成 果 | 課 題 |
|-------------|---|--|
| 園 | <ul style="list-style-type: none"> ・3年目となる『にこにこまつり』。「人とかかわりを大切にしたい」というねらいから、今回は中学生とペアで楽しむ内容の遊びを考えたおかげで、よりかかわりが深まったと思う。 ・様々な地域の方に『にこにこまつり』を楽しんでもらうことで子ども達の姿を見てもらいうい機会になった。 | <ul style="list-style-type: none"> ・行事等がある中で準備に少し難しいところがあるので、遊びの内容を工夫したものにしたい。 ・中学生との交流においては圧倒的に中学生の人数の方が多く、園児とペアになれない中学生もいたので、改善点を考えていきたい。 ・高齢者学級との交流においては日程調整がうまく合うように、年度当初に計画を立てておきたい。 |
| * 子どもにとって | <ul style="list-style-type: none"> ・園全体の子供達の絆が深まり、その上で、園外の地域の方々に自分達で力を合わせて作った遊びを楽しんでもらえたという満足感、達成感が自信につながった。 ・人への接し方や言葉遣いに気をつけ、思いやりの気持ちの育ちにつながった。 | <ul style="list-style-type: none"> ・今後更に本園のテーマである「人とかかわり育ちあう」という視点で子どもへの援助や仲介の在り方に努め、一人ひとりが『にこにこまつり』を通してどのような育ちにつながっているのかを読み取りながら改善点を見出していきたい。 |
| * 子どもにとって | <ul style="list-style-type: none"> ・地域の方もであるが、子どもたちにとっても異年代の方とのふれあいは楽しみの1つのものであり、高齢者の方と元気いっぱい交わり、また今年は年長児がエスコートしてくれたが、子どもたちなりにどのようにすれば楽しんでもらえるか考えることにもつながったのではなからうか。 | <ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちの負担にならないようにしていきたい。 |
| 地域 (公民館) | <ul style="list-style-type: none"> ・一緒にゲームをしたり、おしゃべりを楽しむことで、子どもたちをいつくしみ見守っていかうとする体制が整いつつあるのではなからうか。 | <ul style="list-style-type: none"> ・地域における人づきあいが少なくなっており、異年齢間の交わりが減っている中での取組であり、地域の方も楽しみにしてくれている行事ではあるが、互いに予定が多く、幼稚園側も書いてくれているように、計画的に日程調整をする必要がある。 |

評価及び次年度に向けての取り組みの方向

○本園の子ども達は、誰かが来園すると、「こんにちは」と元気に挨拶をして気軽に話しかけたり、喜んだり、人とかかわることが好きになってきている。中学生や高齢者、未就園児との交流においてもその姿は随所に見られている。これは、まず園内においてクラスの友達、そして異年齢とのかかわりが深まり、お互いを思いやり、認めあえる、そういう土台が出来上がっているからこそ、園外に目を向けられるようになり、地域の方々とかかわりにうまく循環していると感じられる。

○特に隣接している衣笠中学校とは授業と保育のコラボレーションをはじめ、日々の交流も沢山させていただいている。ただ単発的な交流ではなく、事前の打ち合わせは勿論のこと、お互いにこういう力を育てていきたいというねらいを持ち、一つ一つの交流自体は同じであっても、内容に膨らみを持たせたり、工夫を加えたりして、無理なく交流することができている。また、意識して取り組みを進めることで交流の質がどんどん変化して、温かな交流が深みを増してきたように感じている。

中学生に「園児との交流は自分自身の成長によい影響があると思うか。」というアンケートをとったところ、「あてはまる。」という答えの割合が1年生より2年生、2年生より3年生というように、学年が上がるにつれて高くなっていて、3年生では約8割強の生徒さんが「あてはまる。」と答えたといううれしい報告を受けた。これは、日頃の交流の深まりと比例しているのではないかと思われる。中学校の先生方、生徒さんの意識の表れを、保護者や地域の方々にも啓発し、今育ちつつあるこの学社融合の芽をさらに広げ、深めていけるような工夫に努めていきたい。

○『にこにこまつり』は3年目を迎え、年々遊びの内容を工夫しながら進めてきている。今回も沢山の地域の方々楽しんでいただくことができ、子ども達も大満足の様子であった。今後も一対一のかかわりが深まり、心通う交流となるよう、この『にこにこまつり』を発展させていきたい。

| | | | | |
|--|---------|--|-----------|--------|
| 学校名 | | 上秋津幼稚園 | 公民館名 | 上秋津公民館 |
| <p>学社融合における学校・地域の様子</p> <p>旧田辺市の北東部、市街地より数キロ離れ、標高606メートルの高尾山のふもとに位置し、静かな環境の中に所在している。上秋津地区は年間を通して色々な柑橘類の生産が主であったが、近年は専業農家の家庭は減少していて、今年度当園における専業農家は3世帯である。また、若い年代の世帯数も増えてきて、本園では核家族19世帯、同居家族9世帯である。昔から教育熱心な地域であるので、幼稚園教育にも理解があり物心両面に協力的で、温かい支援を頂いている。地域には町内会はじめ、あらゆる組織・団体を網羅する「秋津野塾」という地域作り団体が結成されていて、様々な活動を行っている。</p> | | | | |
| 活動名 | | | 学年・教科・領域等 | |
| グラウンドゴルフ参観日 | | | | |
| 目標 | 園 | 園周辺の大人の方々との触れ合いを通して様々な活動を経験し、豊かな心を育む。親子で触れ合い、ルールのある遊びを楽しむ。保護者にもグラウンドゴルフの楽しさを伝えると共に、サークルの存在を知らせる。 | | |
| | 公民館（地域） | 地域に住む高齢者の方々に指導者として参加いただくことで、高齢者の方々のいきがいになるとともに、世代間の交流にも繋がる活動でもあるので多くの方に交流事業に参加いただけるよう声かけを行う。 | | |
| <p>支援者及び支援組織</p> <p>上秋津地区グラウンドゴルフ愛好会、幼稚園PTA、公民館</p> | | | | |
| <p>取り組みの経過(日時・ねらい・活動内容等)</p> <p>7月19日 ・参観日の持ち方を職員会議する。 例年は保護者参加型の参観日として、ドッジボールなど運動遊びを取り入れていた。また、グラウンドゴルフ愛好会の方々との交流は、年長児のみが参加して行っていた。しかし、今年度の年長児は人数が少なく、チームやグループとして成り立ちにくいことと、活動の盛り上がりにも欠けることが懸念されることから、グラウンドゴルフを参観日として親子で楽しみ、且、地域の愛好会の方々との交流として行うこととした。</p> <p>9月25日 ・上秋津公民館主事との打ち合わせ 公民館のサークル活動の一環として、公民館主事がスティックなどの用具を準備してくれる。</p> <p>10月10日 ・上秋津グラウンドゴルフ愛好会との打ち合わせ 参観日として行う上で、時間や活動の流れ、人数など例年との違いを調整する。</p> <p>11月6日 ・グラウンドゴルフ参観日 グラウンドゴルフ愛好会の方々からのルールの説明。5チームに分かれてゲームが始まる。 園児だけでなく、保護者や祖父母もグラウンドゴルフの楽しさを味わう。 ↓ 「楽しい」「面白い」の感想。興味を持った祖父母も出てくる。 ↓ グラウンドゴルフサークルの方々によるサークルの紹介へ</p> | | | | |
|  | | | | |

| | 成 果 | 課 題 |
|-----------|--|--|
| 園 | <ul style="list-style-type: none"> ・園児だけで行うよりも、活動が盛り上がり、グループ、チーム意識が感じられた。 ・各グループに地域の方々が入ってくれたおかげで、少人数での関わりができ、保護者と地域の方との触れ合いが生まれた。 ・保護者や祖父母もグラウンドゴルフを楽しむサークルに興味を持つ姿が見られた。地域の方々もサークルの紹介をして入会を呼びかけてくれた。 ・行事のスリム化が図られる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・地域のサークルや組織などの把握と、教育力として活用し、園児との触れ合いのできる活動内容の検討をしておくことが望ましい。 ・今まで園生活の中で行っている活動の中で、祖父母や老人会、各施設組織との交流を今一度見直し、リンクできるものを見つけてさらに効率のよいスリム化を目指したい。 |
| * 子どもにとって | <ul style="list-style-type: none"> ・園児一人一人に目が行き届いたので、上達が早くなり、ゲームを十分楽しめた。 ・保護者も共に行うことで、安心感を持って取り組んでいた。 | <ul style="list-style-type: none"> ・グラウンドゴルフなど特に運動遊びでは、継続して遊びたいが、用具などの準備が大変である。 |
| * 子どもにとって | <ul style="list-style-type: none"> ・地域の高齢者の方々と一緒に新しいことに挑戦することで、世代間の交流に繋がる。 ・保護者と一緒に地域の方から教わることで、学ぶ喜びや楽しさを知る機会となった。 | <ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園行事以外で、日頃地域の方々と世代を超えて交流する機会が少ない。 ・学んだことを家庭で活かす機会が少ない。 |
| 地域 (公民館) | <ul style="list-style-type: none"> ・地域の高齢者の方々のいきがづくり。 ・地域で行われている活動について保護者の方にも知ってもらう機会となった。 ・3世代が集い、ともに学ぶ機会となった。 ・単独で開催する場合と比べて、幼稚園・地域・公民館が少しずつの労力で事業を楽しく開催することができた。 | <ul style="list-style-type: none"> ・参加してくれる指導者の固定化。 ・指導者として声かけを行うと身構えてしまい、参加を断られることがある。もっと気軽に参加していただける環境づくりが必要。 ・子どもたちに教える喜びや楽しさを広く知ってもらうことが大切。 |

評価及び次年度に向けての取り組みの方向

・参観日とグラウンドゴルフ愛好会との交流をリンクして行ったことにより、今まで気づかなかった問題点と成果が見られた。そのひとつは、交流活動などの保育公開の場を多く設けているが、最近の保護者は就労や趣味などで参観日が増えることを必ずしも喜んでいないことである。今一度、園行事や活動の内容を見直すことで、増えてきている行事を効率良くスリム化できると思われる。

・2点目には、地域に住む園児の祖父母の中にも、地域のサークルや活動のことを知らない方がおられるということである。公開して参観するだけでなく一緒に活動することで、地域の方との触れ合いが生まれ、活動の楽しさが味わえることがわかった。今回も「グラウンドゴルフって面白いなあ。」「こんな練習はいつやりやんの。」といった声があり、サークルの方も活動を紹介して「是非、気軽に参加してください。」「一緒に楽しみませんか。」と呼びかけを行う場となった。

・地域の公立幼稚園として、未就園児の保育など地域のセンター的な役割を担うべく努力しているが、新しい方向として、職員や園児だけでなく、保護者や祖父母も住民として地域と繋いでいききっかけ作りのひとつとしての幼稚園の在り方も考えられるということに気がついた。園児にとっても地域に関わった家庭環境の中で生活が豊かになり、見守られる安心感も得られる。また、一般的に老人会や町内会組織のメンバーの広がりが見られにくいと聞くと、地域にとっても新しい人材の確保につながる利点があると思われる。

・今はまだ、昨年度までの「絵本タイム支援」による地域の方々の幼稚園に対する協力意識の広がりを大切にして取り組んでいるところであるが、今回の参観日とサークル活動との交流の成果を生かして、地域の幼稚園としての存在感を強めればと考える。

学社融合活動実施報告

| | | | |
|--|---------|--|--------|
| 学校名 | 中芳養幼稚園 | 公民館名 | 中芳養公民館 |
| <p>学社融合における学校・地域の様子</p> <p>中芳養地区には、地域あげでの夏の恒例行事『中芳養夏まつり』があり、今年は11回目を迎えた。実行委員会を中心として地域の各種団体の組織や協力体制の強化を図り、知恵と力を出し合い、地域の子供達のため、また世代間交流・地域間交流、伝統文化の継承という大きな目的のもと、一大イベントとして定着してきている。</p> <p>本園においては、「生き生きと活動し、豊かな心を持った子ども」の育成をめざし、地域のいろいろな人とのふれあいにより、身近な人々に親しみを持ち、人とかかわることの楽しさや、人の役に立つ喜びをという願いを持ち、中芳養地域の高齢者の会である『芳寿会』の方々や未就園児・小学校・中学校との交流も一年を通して計画的に行っている。</p> <p>交流の際の打ち合わせや、地域連携担当者の定期的な会議などを持ち、組織的・継続的に進めることができつつある。新しい取組も入れながら関係を深め、お互いが楽しめる、お互いに意義のある交流が続いている。</p> | | | |
| 活動名 | 中芳養夏まつり | 学年・教科・領域等 | 全園児 |
| 目標 | 園 | <ul style="list-style-type: none"> ・地域のいろいろな年代の人とふれ合い、人の温かさや優しさを感じ、人とかかわる喜びや楽しさを感じる。 ・地域の人・場・行事にふれ、地域や身近な人に親しみを持つ。 ・幼稚園を地域に開き、地域とのつながりや幼稚園教育への理解を深める。 ・園児が地域やみんなのためにできることを考え、人の役に立つ喜びを感じる。 | |
| | 公民館（地域） | <ul style="list-style-type: none"> ・地域の人と人、子ども達を繋ぐ場を設け、連帯感を高める。 ・子ども達の健全育成に取り組む機運を高める。 ・地域の行事に関わることによって地域を愛する気持ちを醸成、共有する。 | |
| <p>支援者及び支援組織</p> <p>夏まつり実行委員会(中芳養公民館・中芳養町内会・中芳養幼稚園・中芳養小学校・中芳養中学校・中芳養幼稚園PTA・中芳養小学校PTA・中芳養中学校PTA・消防団・芳寿会・JA中芳養支所)</p> | | | |
| <p>取り組みの経過(日時・ねらい・活動内容等)</p> <p>☆地域・他団体との共同の取り組み</p> <p>6月13日(木) 中芳養夏まつり事務局会議(公民館長・主事・町内会長・JA支所長・幼小中担当者) 平成24年度夏まつりの報告と今年度の要項について検討協議</p> <p>7月10日(水) 中芳養夏まつり実行委員会(各種団体の代表者16名が参加) 第11回中芳養夏まつりの開催について…協力体制や細部までの検討協議</p> <p>8月 3日(土) 会場準備・午後3時～ 『第11回中芳養夏まつり』開催 午後7時～9時 弁慶鬼若太鼓の演奏・盆踊り(6曲)・夜店(8店)・おどらんやのよさこい踊り・打上花火 幼稚園PTAもヨーヨー釣りの夜店を担当 中芳養の老若男女がたくさん集い、大盛況の催しとなる</p> <p>8月 9日(金) 中芳養夏まつり反省会(地域連携担当者会にて) チケット使用状況 幼児110名・小学生160名・中学生60名程度</p> | | | |
| <p>☆幼稚園内での取り組み (5歳児)</p> <p>ねらい ○夏まつりに期待をもち、友だちと役割分担しながら準備を進め、やり遂げる充実感を味わう。 ○地域のために役に立つことを考えたり、地域の人たちに自分たちからはたらきかけていく楽しさを味わう。</p> <p>内容 ・夏まつりを地域の人に知らせる方法を考えたり、それに向かって友だちと力を合わせて取り組む楽しさを感じる。 ・グループの中で、思いやアイデアを出し合い、伝え合い、ひとつのものを作り上げていく充実感や満足感を感じる。</p> <p>7月 9日(火)/10日(水) 夏まつりのポスター作り(7枚) 7月11日(木) 夜店の看板作り(8枚) 7月17日(水) ポスターを地域の拠点に貼ってもらえるように子ども達が依頼に出向く。(4ヶ所) 8月 1日(木) 保護者全員で、まつり当日に幼稚園が担当する夜店のヨーヨー作りをする。地域の方3名に来ていただき、盆踊りを教えていただく。(保護者と園児全員)</p> | | | |



| | 成 果 | 課 題 |
|-------------|--|--|
| 園 | <ul style="list-style-type: none"> ・地域の各種団体が、それぞれの力を出し合い、一つの大きなイベントを展開していることに大きな意義を感じる。 ・幼稚園の子ども達の頑張りや作品を多くの方に見ていただける機会となり、幼稚園理解につながる。 ・保護者が地域の行事に参画し、地域の方とつながるいい機会となる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・子どもだけでなく、いろいろな年代の方が楽しめる夏まつりになるような工夫をし、多世代の方のかかわりが持てるように進めたい。 ・今できている好循環を継承継続していきたい。 |
| * 子どもにとって | <ul style="list-style-type: none"> ・人の役に立つ喜びを味わい、やり遂げる充実感が味わえる。 ・地域のいろいろな年代の方とふれ合うことができ、楽しい時間を共有できるいい経験となる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・自分達が楽しい時間を過ごせるのは、たくさんのお世話をしてくださる人がいるということに気づき、感謝の気持ちが持てるように進めていきたい。 |
| * 子どもにとって | <ul style="list-style-type: none"> ・地域の大人と交流を深めることで、園生活以外でも見守ってくれているという安心感に繋がる。 ・「地域のイベントは楽しい」という思いを感じ、地域に愛着を持つことができる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・先生以外の大人と接することで、社会性や規律性などを身につけていきたい。 |
| 地域 (公民館) | <ul style="list-style-type: none"> ・子どもへの教育に参加することで、地域の一員としての連帯感や一体感を育むことに寄与している。 ・地域の子どもは地域で育てるという機運が高まっている。 ・地域の行事に参加することによって、地域を深く知ることができる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・参加することへの抵抗感を無くしていくため、参加した方から参加していない方への声かけや、公民館報などを使った情報提供を進めていく。 ・事前の協力体制作りや、開催後の反省会などを積極的に持ち、よりよい開催に向けてさらに努力していく。 |

評価及び次年度に向けての取り組みの方向

平成15年に立ち上がった中芳養地域あげての一大イベント『中芳養夏まつり』も今年で11回目となった。紆余曲折はあったが、平成21年には夏まつりを盛り上げようと、実行委員会を組織することで、協力的体制が強化され、地域の恒例行事として位置づいてきている。

今年度は事務局会議の中での話し合いが活発に行われ、①中学生の力を発揮できる場として、チケット作りへの参画を ②まつりの年代別参加人数の把握のために、チケットの色分けを ③課題や問題点の聞き取りを行い、来年に生かすための反省会を実施する など、今までの反省に立った見直しや、次を見据えた新しい取り組みを進めることができた。

実行委員会でも世代交代やチケットの無料配布の枠、夜店の有料化、地域の高校生を次の担い手として育てる手立て等について真剣な議論が行われ、今年度も盛大な夏まつりを開催することができた。

反省会の中では、今回の夏まつりの細かい分析の上に立った、かなりつつこんだ内容がでており、来年度はまた充実した夏まつりになると思われる。

幼稚園においては保護者の協力体制が毎年恒例となり引き継がれ、準備や盆踊りを自分達のできることを楽しみながらという好循環がみえている。園児も「大きい組さんになったら自分達も・・・」「今年は自分達が活躍する番だ。」という流れの中で引き継ぎがうまく進んでいる。これからもこの循環サイクルが続いていくように進めていきたい。

幼稚園だけではできないことも、地域の各団体と力や考えを出し合い協力し合うことでいろいろな可能性が広がっていく。これからも地域の方々の知恵や力をお借りしながら園の取り組みを充実させていきたい。

講評

I はじめに

田辺市の実践を学ぶことは、学社融合の今後を見据える作業であると思っています。今年も全学校・園区の実践を読ませて頂くことができ、本当にありがたいことだと思っています。その感謝の意を込めて、今年度も、各学校・園区ごとに、その実践に込められた意味や意義の読み取りを試みました。

II 各区の特色

1 田辺第一小学校区

昨年度と同じ「読み聞かせ・ブックトーク・おはなし会」の実践が報告されています。

目標については、学校側の設定は変わっていませんが、公民館・地域側の目標が、昨年度の「地域の大人が、本を中心とした活動に参加することで、学校・公民館一体型施設を地域の交流拠点とする」「本を中心とした活動を進める中で、子どもたちだけでなく、共同学習者として、大人にも学びが生まれる活動とする」から、「本を中心とした活動を進める中で、児童と地域の交流が生まれ、大人と児童の相互に『地域の一員』であるという意識を育むことができる」「活動を通して交流を深める中で、互いが学び合っていることを自覚し、双方向性のあるつながりを築くことができる」に変わっています。公民館・地域側が、なぜ目標設定を変えたのか、また、なぜこのような目標を設定したのか、とても興味深いところです。

今年度の成果欄に「継続的に整備し続けている、公民館ロビーの図書コーナーを地域の方にも利用していただくことで公民館と地域の距離が縮まり、新たな交流を生むきっかけとなった」とあります。この記述からは、「学校・公民館一体型施設を地域の交流拠点とする」という昨年度の目標がすでに達成されたことが分かります。また、今年度の評価欄にある「今年度は、保護者ボランティアの方が市立図書館へ出向き、専門的に新刊本の整理の仕方などについて研修を受け、学校図書に生かしてくれた」という記述からは、「大人にも学びが生まれる」という昨年度の目標もやはり達成できていると読み取りました。報告に新たに書き加えられたこれらの記述からは、田辺第一小学校区では、田辺第一小学校と中部公民館・地域との読書活動を核に据えた学社融合によって、大人側に学びが生まれ、その学びを通し活動を支える人が育ち、自主的な活動が繰り広げられているという現状が読み取れます。だからこそ、公民館・地域側は、目標を「双方向性のあるつながりを築くことができる」とする必要があったのだと考えます。

2 田辺第二小学校区

田辺第二小学校区では、今年度は「沿岸部に位置する本校や地域にとって、防災に対する取組は共通の重要課題である。そこで、これらを中心に学社融合の取組を推進し、学校・公民館・地域とのさらなる連携強化を図っていきたい」との考えから、「防災安全学習への取組」を行なっています。その取り組みを通じて学校は「主体的な判断力・行動力を持った子どもたちを育てていきたい」と考えています。また公民館・地域側は「地域住民・地域と学校とのつながりを強化し、自助・共助の重要性を理解し、さらに

その意識を高める」ことをねらっています。

これらの目標を達成するために、学校、東部・南部公民館、東陽中学校、紀南看護専門学校、立正幼稚園、みどり保育所、あゆみ保育所、紀南幼稚園、交通指導員など、多種多様な機関等の協働を仕組んでいます。多数の機関が連携、協働できるのは、田辺第二小学校が積極的にその機能を発揮しているからではないかと考えます。学校が積極的に動けば地域が一つにまとまるということを教えてくれる素晴らしい実践です。

評価欄に「これらの取組みを通してお互いの問題を共有化することができた点は大きい」「今後も学校の果たす役割は大きく」「学校・地域・公民館との連携を強化することが重要」と記されていますが、これらの認識を実践へとつなげていくためには、まさに「防災・安全学習を深化」させていくことが大切なのだと思います。「防災・安全学習の深化」は学校が中心になることで可能となり、学校と公民館が協働してこそ学習の成果を活かすことができる地域になっていくのだと思います。

3 田辺第三小学校区

「西部地域共育コミュニティ本部事業（学校支援地域本部事業）の取組み」が「3年目をむかえ」「12月1日に成果発表会を行った。」そうです。報告の成果欄には、「地域の方に支援いただくことで専門的な知識（俳句・そろばん・ミシン等）を教えていただき、その経験からアドバイスいただくことで学習活動を広げ、深めることができた」「また、教師が児童のニーズに即したきめ細やかな指導を行うことができ、学習効果が高まった」「本事業の展開は、家庭やPTAに対し子どもの健やかな成長や支援の在り方の示唆が多くあった。家庭での学年別の学習の仕方を『家庭学習の手引き』として提示し、また、基本的な生活習慣の見直しに向けた『田三小 BOOK はなまるデー（ノーゲーム、ノーテレビの日：毎月13日実施）』の取組も徐々に効果が出てきている」と、数多くの成果があったことが記されています。

田辺第三小学校区の学社融合の実践の詳細をこの報告だけから読み取ることはできませんが、書かれている言葉を手掛かりに推測すると、その取組みの重点の一つが学力向上にあったと思われます。学社融合の研究としては画期的な研究であると言えます。報告に、「地域の人材を活用した授業で専門的な知識に触れ、『驚き』や『あこがれ』の感情と、『やってみたい』という児童の学習意欲に繋げることができた。また、学習支援ボランティア（OK先生）の励ましや賞賛の言葉掛けで学習意欲の向上や心の安定と成長に繋がった」とあり、学社融合の手法による授業の充実が図られたことが読み取れます。また、「家庭での学年別の学習の仕方を『家庭学習の手引き』として提示」ともあります。充実した授業と、学社融合の手法で作成された「家庭学習の手引き」を手にした田辺第三小学校区からは、おそらく数年以内に学力の向上が報告されるだろうと思います。

4 芳養小学校区

「地域のさまざまな大人との出会いがあり、SPの専門的な指導を受け、それを基に継続的に取組み、その単元の学習内容を広め深め、発展させることができた」

芳養小学校区の報告からは、地域の方々への信頼と感謝が読み取れました。芳養小学校が掲げる『『地域の教育力を生かした授業の創造』に積極的に取組み、地域のさまざまな大人との出会いや、子どもに多くの感動的体験を味わわせることを大切に考える

とともに、地域の人々が持つ専門性によって、より確かな知識や実践力を育むことができるようにする」という目標も、地域の方々への信頼と感謝があつてこそ達成されているのだと思います。と同時に、「地域の方々が生徒の中に入り、協働して効果的な授業を作るための工夫や注意点・改善点について考えていきたい」とする学校の姿勢が、地域の力を引き出し、地域の力を子どもたちのために役立つものへと変えていっているのだとも思います。

「1年から6年までの地域の教育力を生かした授業では、約60名のSPが学習に参加してくれた。地域の教育力の高さを実感した」「地域の方々（SP）から直接語って頂くと説得力があり、興味・意欲が出て、調べ学習に取り組めた。子どもにとって、授業がより分かりやすくなった」という芳養小学校区の実践は授業を中核とした実践であり、その授業は「地域の方々が生徒（SP（スクールパートナー））として参画し、担任と共に授業を作り上げている」というものなのです。であるからこそ、「子どもや担任にとって地域の新しい発見」に代表されるような感動的な授業が行なっているのではないかと思います。

報告書にある「地域の教育力を生かした授業の『実践記録』を残し、次年度の授業に活用したい」ということを行なうことで、芳養小学校の授業実践はさらに感動的なものへと深化していくのではないのでしょうか。

5 大坊小学校区

「収穫祭『サツマイモ料理を楽しもう』」の実践は、同じ部屋、同じ食材を使いながらも、子ども班と大人班に分かれて別々のメニューを調理し、その後に互いに作った料理を試食するという共学タイプの珍しい実践になっています。

指導者や補助者としてではなく共学者としてお母さん方に参加してもらうために、事前に行われた授業参観後に、「リーダーのお母さんを中心に当日の参加体制等について相談する」ことを働きかけ、「学校主導ではなく、お母さんたちの意欲的な活動となる」ように導いています。報告書にはそのように働きかけた意図は書かれていませんが、学校がお母さんたちの主体性を尊重したことがこの実践を実り多いものにしたのだと思います。

「メニュー検討会」「大人班役割分担」「材料・用具等、学校で準備できないものについてはお母さんを中心として不足分の準備」「事前準備の必要な食材については、リーダーを中心に下準備」という過程は、「保護者同士、地域、学校のつながりを深める時間」となり、そういう場を提供することで学校は「地域に開かれた学校の実現に近づけた」のだらうと思います。

6 新庄小学校区

「地域の方々や公民館の活動の中から学校教育に役立つものを選び、連携して取り組み、地域と学校のつながりを密にして、地域の方々の連帯感を深める」というねらいのもと、「公民館・地域・サークル活動等と連携した各学年の取り組み」が実践されました。

具体的には、「7月 ユーラス 2年生 サークルの方に歌などを聞かせてもらい、音楽の楽しさや共に活動する喜びを知る」「7月 ぎおんさん 3年生 地域の方に『祇園さん』のいわれや作品の作り方を教えてもらう」「12月 地震津波の話 6年生

地域の方から地震や津波の体験談を聞かせてもらい、命を守る方法と心構えを学ぶ」「1月 むかしのあそび 1年生 地域の高齢者の方に教えてもらい、素朴な道具での遊びの良さと、ふれ合う楽しさを知る」「1月 グランドゴルフ 4年生 サークルの方と一緒に運動し、体を動かす楽しさや共に活動することの喜びを知る」「2月 箏・尺八 5年生 サークルの方に演奏を聞かせてもらい、伝統文化のよさを学ぶ」が行われました。

これらの活動は、子どもたちに、「専門的な知識等にふれ、学習を深めることができた」「地域の方々の活動を知って、地域への関心が増した」「学校内や個人の家庭の中では体験できないことに、直に触れることができた」「学校や家庭などとは異なる枠の人たちとの出会い」などの成果をもたらしました。同時に「地域の方との交流の場となり、地域の活動を知る機会となった」と、学校や教職員にも大きなメリットをもたらしました。さらには、「講師などで学校に行かれた方々の感想が『子どもたちとの触れ合いが楽しい』など非常に好評であり、子どもたちに頼られることで活動に自信がついたものと感じられる」と、地域側にも成果がもたらされました。

この実践を通して、地域に存在する大きな力に気づいた学校は、「学校から地域に働きかけたり、児童が地域のために動くことができるような活動ができないか」と考えるようになりました。新庄小学校に新たな動きが起きるかもしれません。

7 新庄第二小学校区

「児童会を中心に、新二の恵まれた環境の中で学んだことを、保護者・地域の方々に向けて発信するとともに、世代を超えた『ふれあい』を通し、地域に生きる一員として、新二校区を知り、校区・故郷を愛する心情を育てる」ことを目標に「新二まつり」を行ないました。その開催に込めた学校の願いは、「地域の方々を始め、公民館サークルの参加者が学校の授業・行事に参加することで、単に知識や技術の伝承だけではなく、人と人との触れ合いの中で多くのことをお互いを感じ・学んでいってほしい」というものでした。そして、「学校や家庭では体験できないことに取り組むことにより、子どもたちの興味の幅を広げることになった」「大袈裟ではあるが、将来の進路の選択肢を広げるきっかけの一つにもなったのではないだろうか」という成果を手にしています。実践記録を読ませて頂き、決して“大袈裟”ではないと思いました。

それほどの成果を手にしている新庄第二小学校区ですが、先を見つめる目線には厳しいものがあり、「単なる学校行事の延長としての『まつり』に終始しないような取り組みにする必要があるのではないだろうか」と考えています。そこには「学校支援の一面でのみ捉えられることの無いような取り組みにするためにも、講師などの引き受け手(人材)の確保など裾野を広げるとともに、相互に刺激を与えあうような関係性が欲しい」という思いがあるのです。また、「保護者や児童、ボランティアで来て頂いている地域の方々には、『学校・地域の行事』という意識が根付いているものの、それ以外の地域住民にも足を運んでもらえればという願いもある。そのために、こういった形で働きかけていけるかが、今後の課題といえる。この行事を通し、学校と地域の結びつきを深め、融合をさらに進めていきたい」という願いもあるのです。

新庄第二小学校区の学社融合は、そのような思い、願によって、さらに前進していかせたいと思います。

8 稲成小学校区

「稲成再発見～農業体験・伝統文化継承体験を通して～」の実践は、「農業体験活動を通して、地域の様子を知り、米や野菜作りに対する地域の方々の工夫や苦労を知る」「地域を知り、地域の伝統文化を学ぶことで『ふるさと稲成』への愛着を深める」（学校）、「地域の子どもの地域で育てるという意識の向上を図る」「地域社会の中で、地域住民と子どもたちとの交流を深めることにより、コミュニティ活動の活性化を図る」（公民館・地域側）という目標達成のために行われました。

内容は、2年「サツマイモ作り」、3年「夏野菜を育てよう」、5年「米作りに挑戦しよう」、5年「稲成の祭りについて調べよう」、「米作りと稲成の伝統的な祭り（獅子舞等）との関係を学び、伝統文化を受け継ごうというねらいのもと『稲成・むつみふれあい文化祭』で、5年生全員で獅子舞を舞い地域の方々に披露した」「学校・公民館共催行事『稲成・むつみふれあい文化祭』」というものでした。

その結果、「地域の畑を借りて活動することで、『ほんまもん農業体験』ができた。さらに農作物を大切に作る気持ちが育ってきた」「稲成地区で作られている農作物について調べることで、地域の様子を知り、農業に関わっているこの地区の方々の工夫や思いを知ることができた」という成果を得ています。この「農業体験学習」は「地域の方々の支援のおかげで充実した学習内容が展開できた」とのことです。

また、報告とは別な実践である「伝統文化の継承」についても、「子ども・親・地域の方々と三世代の交流ができた」そうで、「農業体験学習と共に長年続いてきており、内容的にも地域への発信という点でも一定の評価が得られている」そうです。同様に、「9年前にスタートした『稲成ふれあいスクール』は昨年度までの反省をもとに、講師先生を全て地域の方々にするなど、今年度から『地域色の濃い内容』に移行し始めた」そうです。長年の継続した取り組みが、地域を変えて来たのだと思います。

稲成小学校としては、「生活科や総合的な学習については、学習ボランティアとして地域の方々に多く関わっていただいている。今後は他教科の中で、授業の中で、もっと地域の人材を活用できないか、内容を検討する等模索していきたい」と考えているとのことです。稲成小学校区にはすでに長年に亘る経験と多大な実績があるわけですから、検討するまでもなく、直ぐにでも一歩足を踏み出しても良いのではないのでしょうか。

9 田辺東部小学校区

「今年度、新しく行ったものに、小学校の玄関ホールで行ったコンサート活動がある」との記述に心ときめきました。

題して、「サンセットコンサート」。その内容は、「第1回目：9月20日（金）ピアノと声楽によるコンサート。演奏者は地域の方と友人」「第2回目：10月4日（金）ピアノとバイオリンによるコンサート。演奏者は本校職員」「第3回目：11月8日（金）ピアノコンサート。演奏者は地域の方」「第4回目：12月6日（金）ピアノと声楽によるコンサート。演奏者は保護者、地域の方とその友人」というものでしたが、「普段、用事がないかぎり入る事のない学校に、気軽に来校してもらえる機会を作る」「音楽活動を通して、地域の方々が楽しく交流する場を設ける」というねらい通りに、「回を重ねる毎に参加者が増え、和気藹々としたコンサートになった」「小さな子どもでも遠慮なく連れてくることができた」「2歳くらいの子どもからご年配の方まで、幅広い層の方

にお越しいただくことができた」というコンサートになりました。

この実践は、「体育館が耐震改修工事のため使えなくなった期間、ピアノを玄関に移したのを契機に4回のサンセットコンサートを行った」というもので、「体育館の耐震改修工事が終了したため、サンセットコンサートを本館の玄関で行うことはできなくなった」というのです。まるで笑い話を聞いているように思えてしまいますが、玄関先に移動されたピアノを見て「サンセットコンサート」思いつかれた方に頭が下がります。その発想がこれからの田辺市の教育を変えていくのではないかと考えます。

10 会津小学校区

昨年度も報告された「秋津・万呂～盆踊り・あんどん祭り」の実践です。昨年度11団体で構成されていた「盆踊り・あんどん祭り実行委員会」は、今年度は「町内会、老人会、子ども会、小中学校など計17団体」で構成されたとのこと。闇夜にともる行灯のほのぼのとした明かりを思い浮かべ、さぞかし幻想的な風景だろうなと思いにふけりながら実践報告を読み進めると、予想もしなかった言葉に息を呑み込みました。

「第6回目となった今回は会津小学校のみの会場となった。300余りの『あんどん』を並べ点灯しました」「あんどん祭は、25年度を一区切りとして終了することとなった」「あんどんのほのかな明かりの中で、一つひとつのメッセージを家族で読む風景は心をほのぼのとさせてくれました。6回続いたあんどん祭りは、本年度でいったんは終了となりました」

どういう理由から中断されるのか分かりませんが、報告に「本年度であんどん祭りは公民館から離れ、別団体が引き継ぐような形でいったん終了することとなった。地域に定着してきた行事を絶やさないように協力しつつ、秋津・万呂地域がつながる新たな取り組みを考える必要がある」「児童単独の取り組みとともに、家庭と共に、地域とのつながりを深めていく社会体験、自然体験等の機会や参加型、体験型の新たな取組が次年度も行われると良いと考える」「あんどん祭で大切にしてきた、子ども、その保護者、家族、地域の人々とつながり、広がってきた学社融合の取り組みを一層すすめる行事作りをしていくことが大切と考えています」とありますが、私もそう思います。

11 上芳養小学校区

「公民館主催の小学生向けの学社融合事業は今年度は乗馬体験教室、焦がし絵体験教室の2事業を実施した」「子ども達は、普段の学校生活だけでは得られない貴重な体験を得られることができたのではないだろうか。体験中に、試行錯誤して取り組む姿が大いに見られ、子どもが『自ら考える』姿が見られた事業ではないかと考える」とありますから、乗馬体験教室、焦がし絵体験教室は収穫の大きい実践だったようです。

しかし、公民館と学校は厳しい見方で今後を見据えています。「今後の課題として、乗馬体験教室については、日程の再調整が必要になる可能性がある。この時期が、少年野球の練習の時期と重なり、男子はほぼ参加できない。参加する子どもの層を固定化しないためにも、今後日程を調整する必要が出てくるのではないか」「また、両体験とも地域の方の参画がより必要になってくるのではないか。乗馬体験は乗馬クラブのインストラクターと地域コーディネーターの協力が得られたが、焦がし絵体験教室は公民館長・主事・教職員の参加だけだったので、『地域の考え』、『地域の目』という視点から事業について考える機会を逃してしまったのではないかと思う。今後は地域住民の方が

事業に参画しやすいような事業実践が必要になってくると考える」。これらは、実践を深めてきた者だけが持つ厳しさです。実践に真剣になって取り組んできた者だけが持つ厳しさです。上芳養小学校区には輝く未来があると思えました。

12 中芳養小学校区

「防災教育／社会を明るくする運動」の実践は、「地震避難訓練（幼稚園・小学校合同）」「防災教育参観日」「拡大学校評議員会（学校評議員・公民館・町内会長・学校）で防災をテーマに協議」「保護司会の方々と毎月月初め挨拶運動（年間を通して、児童会を中心に）」「社会を明るくする運動（広報キャンペーン）」「保護司会の方々と懇談会」「中芳養花を愛する会の方々と計画について協議」「学校周辺の道路沿線にある花壇へ植える作業と水やり」「除草作業・継続して朝夕の水やり」「花の植え替えのための作業」「冬から春にかけての花を植える作業」「花への水やり」「地域清掃（通学路清掃）」と多彩な活動を展開しています。これらの活動は校外で行われることが多く、「地域に子どもたちの顔を知っていただくことは、挨拶を交わす上でもとても効果的であった」ということで、「活動をする中で、町内の方々から、『ごくろうさま』や『きれいになるよ。ありがとう』などの言葉をかけていただけるようになった」とのことです。また「校区内での子どもたちの見守り活動でも効果があった」とのことです。

その成果は偶然に手にしたものではありません。「全校でのとりくみになるように学校便り、公民館や掲示板に写真つきの記事を掲載してきたことで学校の活動を地域の方々に知っていただける機会となった」「子どもの目線から、地域の状況を理解し、それらを改善していこうという思いを持ってもらえるように指導することができた」と、当初からそのような成果を導き出すことが意図されていたことが記されています。

今後についてもとても意欲的で、「子どもが発見した地域の課題などを地域にフィードバックする機会などを充実させれば、よりよい活動実践になるのではないか」「子どもを通じて地域の状況を理解し、地域の連携・連帯のために何が必要かを考える機会になった」「防災教育については、幼稚園・学校という枠にとらわれず地域で連携した訓練を行う必要がある時機だと思われる。公民館を中心に各地区と連携した取り組みができる」と、「来年度も地域を花いっぱいにする活動を続けていきたい。地域内で花を愛する会の皆さんの構成層が常時地域内にいらっしゃる方がたであることから、児童にとっても有意義なものになると思われる」「地域内清掃を取り入れることで、小学生として地域に貢献できることを示していきたい」と、今後の展開への抱負や期待が記されています。学校と地域の融合が、次への展望と、それを切り拓いていく活力を与えているように思います。

13 上秋津小学校区

「農業体験学習」として3年生が行った「花づくり」の実践を報告しています。「花づくり名人の指導を受けて栽培した花は、子供達の心を豊かにするとともに、花に対する知識や栽培する技能を身につけることができた。また、いろいろな花の育て方に関心が広がった。今後は、公民館や幼稚園だけでなく、地域の多くの施設に花を届ける活動を広げていきたいと考えている」と記されています。

この実践は、「高齢者の方々にとって、子どもたちへ自分たちの経験してきたことを伝えることで、生きがいと自信に繋がっている」とのことです。指導を受けた子どもたちは

かりでなく、指導に関わった方々にも成果がもたらされたことが分かります。また、「公的な施設へ花を届けることにより、地域の活性化に役立った」と、小学生でもできる社会貢献、地域貢献があることが示されています。

報告で気になった点は、昨年度も「作業が中心なので、野菜に対する基礎的な知識が不足しているので、座学などを通して基礎的な知識を身につける必要がある」とあり、今年度も「作業が中心なので、花に対する基礎的な知識が不足しているので、座学などを通して基礎的な知識を身につける必要がある」とあった点です。次年度には、この点が改善されることを期待します。

14 秋津川小学校区

「ふるさとまつり」は、11月17日(日)に、秋津川小学校各教室、体育館、運動場を会場に行われ、「1、2時間目は、公開授業を行い、保護者だけでなく地域の方にも自由に参観してもらった。大休憩からふるさとまつりに参加した。子どもたちは運動場で行われているバザーで地域の人と話をしながら買い物をしたり、子ども福引きをしておかしをもらったりした。11時から体育館で音楽発表(歌と合奏)をし、地域の方々に聴いてもらった。中学校の炭琴演奏も聴かせてもらった。昼食は、秋津川婦人会の方々に作ってもらった炊き込みご飯をいただいた。5時間目は、授業参観をした。体育館では、地域の方々や児童の作品展示、物産展が行われた」ということです。

「ふるさとまつり」は、「地域住民が主体となって運営しており、子どもたちも楽しそうに参加してくれている。また、地域外からの問い合わせや参加があるなど、今年度は例年より多くの参加をいただいた。地域に定着しており、毎年楽しみにしてくれている」ということですが、住民主体の活動の中に「公開授業」や「授業参観」を位置付け、学校教育を地域の人に理解してもらおう工夫がされています。

「授業参観と発表、お祭りへの参加と目白押しで、忙しい一日となっている」とありますが、学校にとっても子どもたちにとっても充実し、満足が得られる催しとなっていると思われます。

15 三栖小学校区

三栖小学校区では、「お年寄りの方との七輪体験」、「保護者の方の畑での梅拾いからの梅ジュース作り」、「公民館文化委員さんの協力を得ての三栖の史跡巡り」、「梅農家の仕事など総合的な学習や社会科、生活科の教科学習」などで学社融合が実践されています。

今年度の報告は、「地域の方を講師として招いたクラブ活動」についてです。それは、茶道、タグラグビー、絵手紙、手芸の4つのクラブで行われているそうです。保護者や婦人会の方々が指導をされています。

その成果は、「職員では指導することができない専門的な技術指導ができ、クラブ活動に幅ができた」「地域や保護者の方に直接指導していただくことで、学校の児童の様子を知っていただいた」「学校の職員だけでなく、地域や保護者の方に指導していただき、緊張感を持って取り組み、礼儀を学べた」「地域の方に児童の様子や学校の様子をわかっていただけた」と記されています。また、そのような学校側への成果ばかりでなく、公民館や地域側にも「地域の方の持っている知識や経験を生かすことができた」「茶道クラブで公民館施設を使用してもらうことで子どもたちに公民館を知ってもらうこともできたのではなかろうか」という成果があったことも記されています。

16 長野小学校区

実践報告のテーマには、「地域学習『おじいさんおばあさんにおしえてもらったよ』『ふるさと発見！長野のみかん』『お年寄りの方といっしょに防災対策をしよう』」と書いてありました。思わず読み急ぎました。

内容にも感動しました。「地域の独居老人6名を訪問し、共に防災対策について学び、避難経路や防災グッズについて話し合いを通して学習した」とありました。この学習は、「高齢者の多く住むこの地域では、防災対策が大切な課題となっている」という発想から、「住民の安全を守るために児童もこの課題について考え学習する」ことが必要だという思いから構想されたようです。

学校は、この実践を「地域の方を学校に招き教えてもらうだけでなく、児童が地域の方を訪問し交流を深め、課題に取り組む学習が展開できた」「生活科や総合的な学習の時間での地域学習の系統的な学習計画が作成でき、本校独自のカリキュラムが作成できた」と自己評価していますが、見逃しがちな地域の課題に目を向け、学校の授業という手法を活かして地域の関心を喚起する素晴らしい実践であると思います。

この実践によって、「地域学習を進めることにより社会への関心や地域を良くしようとする意欲が高まってきた」そうですから、地域にとっても価値ある実践だったと言えるのではないのでしょうか。

17 伏菟野小学校区

「ふれあい交流会」は「今年度も、地域の活性化と学校の活性化を図る」ことを目的に開かれ、「昨年度の『学習発表会』と『陶芸教室』『ふるさとコンサート』『給食試食会』に加え、『健康体操』・地域の団体である『みやご会の有志による団体演技』を実施した。支援者や支援組織も拡大し、より一層内容の充実した交流会になるように取り組んだ」という実施状況でした。そして「本年度は地域団体みやご会によるパフォーマンスや地域住民を講師とした健康教室など児童だけではなく、大人の方も含めた地域の発表会」となり、児童は「達成感を感じられた」「地域の方に見守っていただいていることを実感」「感動を共有しあうことができた」とのことです。

伏菟野小学校区の実践は、「『地域に開かれた学校』を推進し、『学校と地域が共に児童を育てる』という理想を実現する」というもので、「地域の方を講師に、地域の方々と児童が活動を通して交流する」ことを基本としています。「来年度も、2～6年生の児童8名同じメンバーで取り組むことになる。チームワークを大切にするとともに、一人ひとりが自分の役割を理解し、交流会に向け協力しながら各自責任を持って取り組んでいく」と、少人数ながらもパワフルに来年度へ向けた歩みを進めています。それは、「見ていただいた地域の方を、子どもたちの『元気さ』で少しでも元気を取り戻していただく」という思いがあるからなのでしょうが、切なさを感じずにはられません。

18 咲楽小学校区

今年度は、「福井夏祭り・甲斐ノ川子ども講座」と「学校・地域合同防災学習・防災訓練」の2つの実践が報告されています。その実践には、公民館や地域側の「子ども対象の分館行事を企画運営することにより、地域の活性化を図る」「学校と地域がつながることにより、防災力の強化を図る」という思いが込められています。

防災学習・訓練の様子は、次のように記されています。

○龍神地域防災訓練に学校全体で参加する。地域の二次避難所である小学校体育館に地域住民とともに避難した後、応急手当、初期消火等の体験訓練と煙体験を実施する。訓練終了後、区の役員と学校職員で備蓄品の確認を行い、避難所運営について話し合う。

○防災学習会には保護者や地域の方が出席してくれ、防災意識を高めることができた。また、地域の防災訓練に参加し、授業日に災害が起こった場合の地域住民の動きを把握し、避難所運営のイメージを持つことができた。

大きな成果を手に出れた実践でしたが、次のような課題にも気づいたとのことです。

○行政主導の防災訓練であったため、訓練の日程や内容が直前まで決定せず、打合せが十分にできなかった。地域住民と児童が同じ場でできるような体験訓練がもっとあればよかった。また、川の増水や山津波を考慮して、学校から他の場所への避難についても考える必要がある。

この課題については、児童という視点の共有化を図ることで、見直しが行われるのではないのでしょうか。学校が防災学習を行ったり合同防災訓練に参加したりする意義は、子どもや高齢者、障がい者など社会的弱者に対する視点を地域住民に持ってもらうことにあり、学校の参加はそれを可能にするものだと思うのです。

19 中山路小学校区

「全校によるせんだんの絵画・俳句・作文・せんだんお花見弁当給食と専門家によるせんだんの木についての学習会をクイズ形式で行った『せんだん学習会』と「午前中は、地域の方の指導で餅つき体験を行い、給食試食会や餅試食を通しての交流を行った。午後は、地域の方が先生になって、1・2年生は昔の遊び、3年生は昔の暮らし、4年生はグランドゴルフ、5・6年生は戦争体験についての学習会を行った『せんだんもちつき交流会昔学習』の実践が報告されています。

今年度の報告で注目したのは、「本年度の学社融合の取り組みとしては、学校ができること・できないこと、地域ができること・できないことを意識し、学校力と地域力で子どもを育てる学社融合を目標に取り組んだ」という記述でした。具体的には、「単にゲストティーチャーに教わるだけではなく、学校で取り組み教え、地域の方からも学ぶ学校力と地域力で子どもを育てる」ということであり、今年度の実践でも「事前に学校でも取り組むことで、興味関心がわき、地域の方の専門的な学習をとおして、学校のシンボルであるせんだんの木や昔の地域の様子・生き方について学ぶことができた」ということです。田辺市における学社融合の今後に大きな示唆を与えてくれる実践です。

20 上山路小学校区

「昨年度から田辺市教育委員会より公民館と共に指定を受け、統合校としての学社融合の在り方、地域を活性するための学社融合の在り方について研究を進めている」とのことですが、今年度の報告にはその研究がすでに実りあるものになっていることを伺わせる記述がたくさんありました。

○積極的に学校から出て活動することで地域との交流を行っている

○最も遠い丹生ノ川地区に出向き授業参観・交流を行った

○今後も続けてほしいという地域の方々の声に応じて今年度も交流授業を計画

○子どもたちの授業を地域の方々に参観していただく授業参観

○丹生ノ川小で教鞭をとられていた古久保節子先生が再び教壇に立ち、地域の方が生徒になって受ける授業を子どもたちが参観するという「さかさま授業参観」

○公民館主事や分館長が中心となって企画し、地域が主体となって学校を巻き込んだ活動を行う体制づくり

研究発表会に是非とも足を運んでみたいと思わせる実践です。

21 龍神小学校区

報告の冒頭に「龍人学の礎である『龍神の元気の素は人にあり』を旗印にして学社融合を推進することにより、龍神の人を元気にすることを目標に取り組んでいる。『ダイヤモンドを磨くのはダイヤモンドである。人を磨くのもまた人である』という共通認識の下、児童を地域で生活する様々な方々と触れ合わせることで、児童も地域の方も元気になっています」と記されていました。

「龍人学を通して元気な人を育てる」と題された今年度の実践は、「①運動会で龍神温泉美人体操をみんなで踊ろう」、「②体力を高める運動」、「③Jazzに親しもう」、「④「戦時中の話を聞こう」というものでした。これらの実践によって、「龍神温泉美人体操の取り組みでは、この体操を通して人々がつながった」「『JAZZに親しもう』では、保護者や地域の方が学校を訪れ、音楽を通し、世代を超えて楽しい時間を共有することができた」「社会科の授業を通して、新しい出会いがあり、かかわった人みんなが元気になった」とのことです。まさしく「人を磨くのもまた人である」という理念に基づいた実践であったからこそ、そのような成果が手に出来たのだと思います。

報告にある「当日の授業までに、話をしてくださる地域の方に何度も学校を訪れていただき、担任と綿密な打合せを行うことにより、より効果的な学習となった」という記述は、読み落としてはならない一文であると思います。

22 中辺路小学校区

栗栖川小学校と二川小学校の名前が消え、新たに中辺路小学校という名前が登場したことに戸惑ってしまいました。

中辺路小学校区では「中辺路共有コミュニティのメインテーマ『学びの町中辺路ともに育みともに育つ』の方向性のもと」、「ふるさとの良さを知り、ふるさを誇りに思う子を願ってのふるさと学習を核に、学校・保護者・地域が一体となった学びの町作りを目指し活動が続けている」そうで、そのために「6年間の中辺路ふるさと学習を策定し、地域の支援を受ける学びの体制作りに取り組んでいる」とのことです。

その具体的実践は、

- 1年…学校や学校周辺を探検する学習を通して、秋みつけや不思議みつけをし、学習支援者にアドバイスをもらったり、新たな投げかけをしてもらったりした。
- 2年…友達の家をたずね、地域を探検する学習を通して、広くなった校区を見て回り、疑問に思ったことや、発見したことなどに答えてもらったり、昔の地域の様子を教えてもらったりした。
- 3年…校区探検をし、校区マップにまとめる学習を通して、中辺路の昔の暮らしを教えてもらったり、いろいろな体験をさせてもらったりした。
- 4年…閉校になった小学校の沿革や校歌を調べる学習を通して、閉校になった学校の校歌について当時の様子や思いなどをお聴きし、当時の校歌を聴かせても

らった。

○5年…地域の産業を調べ、体験する学習を通して地元の産業を知ることができた。

○6年…ふるさとの良さをガイドブックにまとめる学習を通して地域の人々のアドバイスを受けながら地域のガイドブックを作った。

と書かれています。この実践を通し、「年間を通して、郷土を学習の軸に、支援者とともに発展的に深めることができた」「中辺路の歴史・文化・自然について学び、『ふるさと中辺路を誇りとする子』を願う、ふるさと学習の道筋が確立できた」とのことです。

今後については、「今回、支援していただいた方々が、さらに呼びかけを広めていただき、地域全体に広がる支援者の参加体制を構築したい」「校区の多くの地域について、各学年、各年度の学習計画と地域人材をさらに明確にすること」が課題であるとありますが、それは「校区に多くの集落があるが、年間授業時数の関係で学習の対象となる地域に限られるため、6年間を見通した計画が必要となる」からだとのこと。多くの学校が統合によって広がった学区を抱える現状を踏まえ、もう一度、子どもの目線に立って「ふるさととは何か」を検討することが必要になっているように思います。

23 近野小学校区

「近野区民体育祭」について、「この行事は、近野地域の異世代の方々が一堂に集う大変重要な場である。地域は高齢化が進み、老人会も解散する。児童数・保護者も減少し、Iターンの家庭が多い。そんな中で、学校のとるべき役割は大変大きいと考えられる。できるだけ、地域の意見が反映できるように情報を収集し、また、地域に対して情報を発信し、引き続き多くの方々に参加してもらえるようにしていきたい」と記しています。

近野小学校区では、これまで「区民体育祭をはじめ、近野フェスティバルなど地域をあげての行事活動を学校と公民館とが一体となって実施していくことにより、地域の融和と活性化が図れた」ということですが、「高齢化が進み、児童数も減少し、Iターンの家庭が増えてきている中で、実の祖父母と孫の関係が少なくなっている」という現状にあり、改めて「学校の様々な行事を通じて近野地域の住民交流やコミュニティ形成が図れるよう継続的な取組」をしていく必要性を学校自体が強く認識しているのです。

今年度の実践では、「各種団体から50名近いメンバーで実行委員会を立ち上げ話し合いをする事で、改善点を見つけ、学校と地域が共通理解して取り組めるので、それぞれが役割を果たし、スムーズな運営ができています」とありますが、その裏側には「昨年の反省を生かし、今年度から新たに行事の運営面で中学校との協力・連携のために、担当者だけでなく全職員による合同会議を行い、合同練習の後にも打ち合わせを行う」といった学校の努力がありました。

近野小学校は地域に生きる学校であり、地域を生かす学校なのだと思います。

24 鮎川小学校区

21年度の報告以来、久々に「鮎川ふれあいスクール」の文字を目にしました。

今回の報告では、公民館・地域側の目標に注目しました。21年度には「児童と地域住民の触れ合いを通して『地域の子どもは地域で育てる』という意識を高める」「様々な取組みを行うことで、子どもにとって様々な体験・交流・学習活動の機会とする」「学社融合を積極的に推進することで地域力を高める」とありましたが、今回は「学校との連携のもと、『学び』及び『地域住民との交流』の機会とし、心豊かな子どもを育むと

ともに、地域住民も子どもとふれ合う喜びを分かち合い、『地域の子どもは地域で育てる』といった意識・環境づくりを推進し、地域力を高める」という目標に改められています。このような目標の変化は、「鮎川ふれあいスクール」が、単なる“子どもの居場所”から“子どもと大人の交流、ふれあい、学び合いの場”へと成長、発展したことを示すものだと思います。

21年度には、「事務局による運営でなく、保護者や地域による主体的な運営ができるように方向づけたい」とした点についても、今回の報告では「年々協力してくださる方が増えており、地域による子育ての意識が高まっている。『子どものためになるなら、いつでも協力しますよ』『子どもとふれあうのは楽しい』など、多くの意見をいただいている」「教師だけのときよりも内容や指導方法の幅が広がり、多様な学習のニーズに応えることができるようになった」と記されています。「鮎川ふれあいスクール」の変化は、田辺市の学社融合の変化を物語っているように思います。

25 三川小学校区

継続的に報告されてきた「三川地域お楽しみ会」は、参加者が、18年度280名、19年度376名、20年度405名、21年度430名、23年度487名、本年度約500名と、年々規模を拡大してきました。

その「三川地域お楽しみ会」は、「人口減少や少子高齢化が進む本地区にとっては、地域に根付いた学社融合の核となる取り組みであり、地域内外に周知されたものとなっている」もので、今年度には「各種研究会などで本取り組みを発表する機会を得ることができ、他校や各団体と交流・協議することで本実践を見直したり教育活動の中での位置づけを明確にしたりすることができた」とのことです。

今年度は、「地域やボランティアの方が約60名」も運営に関わって下さったようですが、今後は「人口減少、高齢化、保護者減少などが進んでいるため、PTAOBや卒業生、地域の各種団体などのさらなる協力を得て、『お楽しみ会』を継続・発展させていくための組織作りや体制整備が急務である」とのことです。

「三川地域お楽しみ会」の実践報告には、いつも「地域を想う学校の心と姿」を感じ、今後の学校と地域の関わりを考える上で多くの示唆を頂戴しています。

26 富里小学校区

報告は、「本校校区は、全人口の約半数が60歳以上という高齢化が進んだ地域である。地域唯一の学校として、地域住民は本校の教育に対してとても協力的で、常に物心両面で協力・支援してくれている。6地区278世帯であるが、全校児童26名中、65%は過疎対策で建てられた住宅に住んでいて、校区内の3地区には小学生がいない」という厳しい現状から始まっていました。「そうした中で、ふるさとを愛する子どもを育てるため、地域の方々や、諸施設・関係機関に積極的に協力を求めたり、地域の方を講師として招聘したりすることで、ふるさと富里の自然や文化についての学習や地域の人々との交流を深めている。また、地域の行事などに積極的に参加していくなど、社会教育との連携を深めるように努力している」という学校の姿に思わず頭を下げてしまいました。田辺市で学社融合を進めていく意味や意義を改めて考えさせられました。

学校の姿勢は、「学校に来てもらうだけでなく、積極的に地域に出向いて行き、一緒に活動できることを考え地域の方々との交流の機会を増やしていく」であり、「地域住民

が、学校の授業に関わったり、各種行事に積極的に参加し、地域の子どもたちと交流をもつことで、身近で子どもたちの成長を見守るとともに、子どもたちにとっては地域のいろいろな人と交流をもつことで、自分たちのふるさとに愛着をもち、地域住民との結びつきを強める」です。言葉としては表現していませんが、学校の思いは地域の活性化にあると考えます。

今回の報告は「富里ふれあい交流」と題し、「俳句教室やふるさと料理教室などで授業に参画していただくことや、地域の行事に参加し一緒に活動することで、ふるさとの文化や自然についての学習や人々との交流を深め、ふるさとを愛する子どもを育てていく」実践を記しています。実践の結果、『『とみさと句会』の方々の俳句教室は、教えてもらおうという立場から、句会を開き、一緒に俳句を楽しむという取り組みへと変わってきた。そうした中で、月に1回富里交流館で開いている句会に『子どもたちも参加してもらいたい』と誘っていただき、案内のプリントを作って持ってきてくださった。また、『次の句会に向けて、それぞれが俳句を用意することが励みとなっている』という言葉もいただき、学校にとっても地域の方々にとっても有意義な取り組みとなっている」という成果を手にしています。学社融合の実践が地域に元気を創っていると思いました。

27 本宮小学校区

「人を育てる支援活動（クラブ、放課後読み聞かせ）」と題し、「工作・絵画・バドミントン・五目並べ・茶道の5種類のクラブで活動を行った。各クラブの講師の皆さんには、それぞれ主体的にクラブ活動に取り組んでいただき、児童とのコミュニケーションも年々深まっている。加えて、クラブ活動と並行して、下校バスまでの時間帯において、1～3年生に地域並びに保護者の方による放課後読み聞かせを行った」ことが報告されています。

成果として「クラブ活動においては、地域の方々の協力により、教職員では指導が困難である専門的な技術指導が可能となり、充実した活動となった」「放課後支援の読み聞かせでは、学習パートナーの方々の読み聞かせを集中して聴いている児童の姿がみられた。本に対する興味・関心が高まり、読書量も増えてきた」ということが記されています。

「11月10日（日）に学校開放の一環として両活動を公開したことは、地域や保護者の方々が学校に来る機会が増えるとともに、学校の取り組みを知っていただくよい機会となった」という一文に、本宮小学校の学社融合の質の高さを感じました。

28 三里小学校区

「三里運動会」について、三里小学校は「学校の教育計画でも『三里大好き』をテーマに年間指導計画を立て、様々な体験活動を通して、『地域を愛する心』『地域を誇りに思う心』を育んでいる。特に三里運動会や三里祭りでは、公民館、保育園と協力し、連携を深めながら、地域を盛り上げる行事として学校も協力している」と記しています。

その「三里運動会」は、「保育園、小学校、公民館合同で実施することで、三者の連帯意識が強くなり、他の行事においても、互いに協力しやすい関係ができた」という成果をもたらしており、学校が設定する「保育園、小学校、公民館が協力することで、交流を深め、地域の一員としての自覚を促す」「地域のふれあいの場として、競技を楽しむ互いのつながりを深める」という目標を十分に達成できるものとなっています。

しかし、「昨年からは、小学生が主体的に動かなければならない機会が増え、『自分たちが中心になる』という意識を持つことができた。それが、地域の一員としての役割にもつながっていく」とは言いながらも、「一昨年までは準備等中学生に頼っていたことが多かった」運動会の運営を「一昨年までは中学校が参加していたが、閉校になった」ために小学生が担わざるを得なくなった現状はかなり重荷なのではないでしょうか。

数年前に同様のことが島根県津和野町の木部地区でも起きましたが、木部地区では今も中学生が運営の中心を担っています。最近では、木部地区以外の中学生も運営に加わっています。問題は、木部地区の中学生が新たに通うことになった津和野中学校に木部地区の実態を伝えることで解決が図られました。その課題解決は、津和野町の長年に亘る学社融合の実践が活かされた瞬間でもありました。

29 東陽中学校区

「公民館施設を併設した近畿唯一の中学校」である東陽中学校は、「本年度は公民館と学校が連携を深め、地域の教育力を生かした様々な取り組みを実施することを目指してきた。本年度より公民館の掲示版を改築していただき、生徒の行事への取り組みの様子や教科の作品等を掲示し、公民館を訪れる地域の方々に広く紹介している」と、地の利を活かした実践がされています。

具体的な取り組みとしては、「南部センターフェスティバルへの参加」「公民館主催写真教室」「家庭科の授業での郷土料理調理実習」「公民館主催 公民館写真展・文化展」「公民館主催ソフトテニス大会」「田辺第二小学校運動会」「田二小6年生の中学校授業体験」のことが記され、多彩な活動を展開している様子が読み取れました。

成果欄には、「昨年度以上に本年度は、公民館と学校の併設の利点を最大限に生かすため、学校の施設を開放した様々な取り組みを実施することができた。中でも、郷土料理調理実習は、地域の方や生徒の両方にとって、調理を通して温かく触れ合うコミュニケーションを作る場となり、地域と学校をつなぐ素晴らしい企画であり、大きな成果が得られたと考えられる。また、本校多目的ホールで写真展を開催したことにより、地域の方々に本校の施設を知ってもらい良い機会となった」とあり、中学校施設へ地域住民が足を運んでくれるメリットを感じていることが読み取れます。次年度には、さらに多くの地域住民が中学校施設に足を運ぶように、授業に地域住民を招き入れるなどの仕掛けを施し、「公民館施設を併設した近畿唯一の中学校」を東陽中学校区住民が誇りに思うようにして行ってほしいと思います。

30 明洋中学校区

「本年度、学校は、これまで行ってきた学社融合の内容を充実させるよう取り組んだ。地域の行事への参加については、全校ないし部活動での参加をした。これは、学校を地域の方々に知っていただくよい機会や発表の場であるという押さえを昨年度からしたことによる。家庭科においては、昨年度も実施した鯡の包丁でのさばき方の補助に加え、ミシン実習の補助や夏季休暇中の補習への補助などもお願いした。これについては、地域の方々に学校へ出向いていただき交流を深めるだけでなく、技量や学力の向上に支援していただく形となった。この支援をしていただいた方々は、生徒との交流が良かったという感想も聞かせてくれた。相互に得たものがあったと考えている」という記述は、明洋中学校区における学社融合の充実ぶりを示していると思います。「地域での発表を

表現活動の場・地域への貢献の場として定着させていく」「学校授業を通じた地域と生徒の交流を進める中で、地域の人材がもつ知識や技術を次の世代へ伝承していく」としている学校の姿勢には深く感銘を覚えました。「地域の方に来てもらうだけでなく、生徒自身が地域へ出向くことで、より地域とのつながりを感じることができた」というように、地域で活動する中学生を育むことはとても大切なことであると思います。

明洋中学校では、「取り組みの中で、喜怒哀楽を地域の方と共有できる機会を持たせ」ことにより、「自分が住んでいる地域に愛着や誇りを持つということが大切で、一人ひとりが地域の一員として何ができるのか今一度考える必要がある」という実践段階へと足を踏み入れています。「今年度は、今までになかった取り組みとして、ミシンボランティアと夏季補習ボランティアを実施し、地域の中には未発掘の人材がたくさんいることがわかった」と、未開拓の分野での地域との融合の可能性にも目を向け出しています。地域住民と日常的に、量的に多く、かつ時間的にも長くふれあうことを考えるならば、授業に地域住民を招き入れることが最善の方法なのではないでしょうか。

31 高雄中学校区

「地域の活性化と防災に対する考えを深める」実践で、「各クラス単位で防災に関する標語を考え、14のあんどんを作成しあんどん祭に参加、出品する」活動が行われました。「生徒は地域の一員として意義や自覚を深め、地域社会に貢献する意欲や態度を身につけ高めていく」「防災に対する意識を高め、地域に啓発しようとする姿勢を培う」という目標のもとに行われた活動でした。

この活動は、中学生にとって「防災の標語を考えることで、一層災害に対する備えや意識を高めさせる機会」となり、活動を通して中学生に「地域の一員という意識が強くなってきている」「地域の行事に参加することで、地域の活動を通して交流していこうとする態度が生まれてきている」とのことです。そして、この活動を通し「地域の方が中学生の持つ防災意識を見ていただくことができた」とのことです

時機にあった課題と「あんどん祭り」という地域行事を見事に絡めた授業構想は、とても素晴らしいと思います。

32 新庄中学校区

「東日本大震災以降、防災教育が注目され、13年目を迎えた本校の『新庄地震学』も、より一層注目されるようになった。新聞やTVに取り上げられることも多くなり、地域での関心も高まっているように感じる。最近では韓国のマスコミから問い合わせがあった」。ますます充実した新庄中学校区の実践に心から敬服します。

「新庄地震学」も、国・社・数・理・英・保体・技術・家庭・美術・音楽の各教科への位置づけがより明確になり、教育課程全般を通じた取り組みになっています。「音楽科～被災者の心のケア」には心から感心しました。

新庄中学校区の学社融合は、「新庄地震学」ばかりではありません。1年生の「地域学習」では、『葉糸古墳』や『岩陰遺跡』といった地域住民でもほとんど知らない歴史遺産について現地調査を行い、「夏休みには、有志によるシーカヤック作りを企画し、秋には波の静かな内之浦湾に漕ぎ出し、地域住民の方々にもたくさん参加いただきました」という活動も行っています。さらには、「ゲストティーチャー招聘授業」として「写生会…地元絵画教室」「国語の授業…俳句愛好会」「体育の授業…グラウンドゴルフ

愛好会」「家庭の授業…漁協女性部」など、授業での融合も実践されており、「専門知識をお持ちの方々からの刺激を享受し、将来の選択肢のヒントになった」とその成果が語られています。そして、その活動は「生徒に自分の技術を伝えたり披露することや体験談を話すことで、参加者自身の意識向上につながったと思われる」とも述べています。

このような活動への取り組みを振り返り、新庄中学校区では、今後、「それぞれの学習への取り組みに対し、公民館サークル等関係者や地域住民の参加を促し、学校支援の枠にとどまらず、いわゆる『地域力』の向上に努める」と述べています。

次年度の報告が実に楽しみです。

33 上芳養中学校区

「農事体験」として、「地域の産業である梅産業を体験する」活動が報告されています。「この活動は毎年上芳養中学校の第1学年で行われている。今年度も上芳養中学校1年生担任を中心に活動を計画した。今年度は梅畑の受け入れ先の幹旋、事前学習をJA上芳養支所にご協力いただいた。梅畑の提供は上芳養中学校の保護者の方がご協力してくれました。その後、梅ジュースづくり、梅を使ったレシピの開発に取り組んだ。その活動の際にもJA上芳養支所、女性会、上芳養中学校母の部の方に実習のご協力、ご指導をいただいた」とのことです。

「体系的な学習を通して、梅産業に対する理解を深めさせることができた」と、中学生としてとても充実した活動になっていると思いますが、報告には「小学校でも梅の学習を3年間に渡り取り組んでいるので、それ以外の中学校テーマを考えるのが難しい」「小学校で梅の学習に3年間取り組んでいるので、生徒の興味関心を引くのが難しい」という悩みも書かれています。上芳養中学校の報告は、田辺市における梅学習のあり方への課題提示だと思えます。小学校と中学校とで梅学習について研究協議する時期に来ていると思えます。

中学校としての梅学習を考えて行く時、上芳養中学校が今回の報告に記している「梅調理実習を通じて、おいしい梅の活用の仕方を生徒たちが研究し、発表することによって、梅産業の活性化、地域おこしの一部を担うことができ、地域の構成員としての自覚を育むことができた」ということは、大きな手がかりになるのではないのでしょうか。

34 中芳養中学校区

中芳養中学校区からも梅学習が報告されました。タイトルは「地域の産業を通して地域とつながる」と書かれています。その実践がいかに充実したものであるかは報告に書かれています。その充実は周到な計画によってもたらされています。

○地域へ出での体験学習に向け、資料「青いダイヤの里に生まれて」を使って、梅農家の現状と課題について学習をする。次時の学習に向け、疑問点や学習したい事柄をまとめる。

○JA紀南の林さんを講師として、梅栽培の歴史や現状について説明していただく。産業として成り立つために様々な工夫をされていることを学ぶとともに、中芳養地区で栽培されている梅の種類などについて学ぶ。

○梅農家での作業に向け、校内に植えられている梅の収穫を体験。昨年度の手入れもあり豊作で、時間内に取り切れない量だった。収穫した梅は、ジュースに加工し、一部を塩漬けにし保存する。

- 保護者とJA紀南中芳養支所の協力により、9班に分かれて梅勤労体験を実施。青梅採り、落ち梅拾い、選果等の体験を行う。慣れない作業で苦労したところもあったが、忙しい時期でもあり農家の人たちには大変喜ばれた体験学習となった。
- 栽培、収穫、加工、販売まで行う6次産業の現状を理解するために、JA紀南の梅加工場の見学を実施。収穫から製品化への行程を見学し、梅の種や汚水もリサイクルされている最新の施設に驚かされた。
- 校内梅取り体験で塩漬けしていた梅を使って、味梅作りを体験。予想以上に美味しくでき、そのできばえに満足した実習となった。
- 「学びを地域に返す」取組として、これまでの学習内容をまとめ、感謝の気持ちを込めて中芳養祭で発表する。

充実し、受け入れ側からも喜ばれる勤労体験となったのも、このような体系だった計画の中に職場体験を位置付けたからこそと思います。中芳養中学校の教育力、指導力の高さに敬服しました。

35 上秋津中学校区

「防災学習」の実践報告です。上秋津中学校では3年生が、「2年生3学期に消防署を訪問し、起震車に乗ったり消火器の正しい使い方など防災に関わる知識学習と体験学習を積んだ」ことに始まり、「3年生総合学習と理科の授業において、土砂災害、地震、津波、液状化現象などを学習し、地域（公民館、ガルテン）に出かけて聞き取り学習を行った。『そのときに備えて』公民館に備蓄されているマットや毛布などを実際に見せていただいた。学習したこと聞き取ったことなどを冊子にまとめ、文化祭などで地域に配布し発信した」ということを実践しています。上秋津中学校区では、「少子化、過疎化が進む現状の中で、中学生が担う責任の大きさを痛感している。『そのとき』に実際の戦力となれるよう期待している」「防災学習を通じて、中学生が正しい知識を学ぶことで、地域防災の大きな力となる」と考え、今回の活動に取り組み出しましたが、今回の実践を経ることで「地域の施設に行き、聞き取りと学習をすることで、地域の施設・団体がどのような活動・役割をしているかを知ってもらう機会となった」と中学生の地域理解が深まったことを手応えとして感じています。さらには、「まとめ（冊子）を通じて保護者の方々の地域理解にも繋がった」ということも確認でき、「地域住民の防災意識の高揚のため、中学生の学習したことを住民みんなに知っていただけるような機会を設け、地域全体で防災学習できる体制づくりが必要となる」と提言しています。

今後については、「幼稚園、小学校、地域での防災学習・訓練の連携を深め、地域防災体制を確立し、より具体的な役割や分担を構築し、中学生が担うことができる部分を明確にし、より具体的に体験・学習できるよう発展させていきたい」と述べていますが、そのために「幼稚園や小学校で行われている防災訓練や学習内容をお互い交流するとともに、地域の各種団体との連携をカリキュラムに生かす」としています。学校の意図はカリキュラムとなった時に具体化しますが、地域の願いも学校のカリキュラムに組み込んで頂けるなら実現できるものと思います。

36 秋津川中学校区

秋津川中学校区からは、平成22年度、23年度、24年、そして25年度の今年と、4年間にわたり「秋津川ふるさとまつり」の実践をご報告頂いています。

22年度の報告の最後は「今後は、企画のマンネリ化を避ける意味からも、生徒達から主体的にこのまつりを盛り上げようとする機会が設けられないものかと思う」で結ばれていました。そして24年度も、25年度の今年も全く同じ文言で結ばれています。

毎年同じ文言で記された秋津川中学校区の報告に、「それを考えさせることは、生徒達に秋津川地域の将来を考えさせることにつながり、郷土を思う気持ちをより一層強くすることにつながる」と思い悩む秋津川中学校の姿を想像しました。

37 衣笠中学校区

「みんなが輝こう、みんなで輝こう」の一つとして、「公民館を通じた学校と地域の連携の取組、三栖幼稚園との協働実践」が行われました。

その実践は、「学社融合担当者会議の開催。三栖幼・三栖小・衣笠中の担当、校区内の公民館主事が定期的集まり、より強い関係を築くために連携会議を持つ」「共育ミニ集会『か・た・り・愛』小西博之氏の教育講演会后、学校・育友会主催で共育ミニ集会を開催。地域住民・公民館関係者、三栖幼・三栖小・衣笠中の保護者・職員で意見交流」「地域の方の指導による授業実践◇体育科（全学年：剣道）」「三栖幼稚園との協働実践①授業実践☆美術科（園児をモデルにしたデザイン画）☆英語科（英語すごろく）☆家庭科（月見団子作り☆理科（自然観察）等②さまざまな行事を通じての交流（文化発表会等）」行われました。

三栖幼稚園と協働した美術科、英語科、家庭科の実践の詳細が書かれていないのがとても残念です。「隣接の三栖幼稚園とのさまざまな実践は、子どもたちが自己肯定感を持つことができるなど多くのメリットを得ており、本校の特色ある取組となりつつある」とありますから、詳細に分析するとたくさんの新たな発見があるのではないかと期待できます。来年度は、是非とも、三栖幼稚園との協働実践を報告して頂きたいと思います。

38 長野中学校区

「田植え・稲刈り学習」の実践報告です。学校の目標には「食べ物を栽培し食べるまでにすることがどんなに大変なことなのかを知る機会にする」「稲作が日本に伝わって以来、日本人の主食として大事にされてきた『お米』がどのようにしてつくられているかを知る」「『お米』を大切にしてきた私たちの先祖へ思いを遣り、その苦勞をしのび、体験する機会にする」と書かれています。

実践では、「農薬を使わずにお米を育てる『お布団農法』について知り、体験する機会にする」とありました。「一般的な田植えとは違う農法であるので、もう少し生徒自身にその農法の成り立ちや方法について学校で調べ学習を行うなどの自主的な事前学習を行うことも考えておけばよかった」と記されていますが、「お布団農法」は私も初めて耳にした言葉でした。インターネットで検索すると「布マルチ直播栽培」ということが分かりました。「お布団農法」を学習の中核に据えたら面白い展開が構想できたかと思えます。

成果として「熊野川の自然豊かな伏菟野地域についてよく知り、自分たちの故郷の良さを再認識する機会にする」「現代社会では、大人でも自分たちが口にするもの、身に着けるものの製造過程を目にすることもなく、知らないことが多い。それを地域の人から直接指導を受け、学ぶことで教科書等で見聞きするよりもより子どもたちの心に残る授業になったのではなかろうか」と書かれています。その通りであろうと思えます。

ところで、「稲作や米」については小学校でも体験的な学習が盛んに行われています。「梅学習」と同じく、小学校との連絡調整が必要な学習テーマなのかもしれません。

39 龍神中学校区

龍神中学校区からは、平成23年度からほぼ同じ内容を、ほぼ同じ文言でご報告頂いています。充実した事業が継続して行われ、学校と地域の関係も変わりなく良好であることが毎年確認できています。素晴らしいことだと思います。

龍神中学校区の実践には数多くの魅力が込められています。次年度からは、年間を総括する報告ではなく、報告を構成している個々の活動の一つを例にとり、詳細に分析して報告いただくと、龍神中学校の実践の魅力がさらに輝いて見えると思います。

40 中辺路中学校区

「地域から受け継ぐ、地域に学ぶ、地域にかえす」「地域との交流、地域のためにできること」というタイトルに強く心を惹かれました。

「地域にかえす」実践として、「校内で育てた花の苗を配布～生徒会活動の一つとして、町内の事業所や地域の方々に苗を植えたポットを配り、育ててもらっています」「森林ボランティア～『熊野の森ネットワーク・いちいがしの会』に協力を得て、どんぐりの実から苗を育て、2年後に山に植樹する」が行われました。「地域のためにできること」の実践では、「サマーボランティア～夏休みに地域の施設にご協力いただき、全校生徒が自主的に参加した」が行われました。それらの実践からは「花の苗を生徒が配ることで、直接地域の方々の声を聞くことが出来、達成感や地域に貢献している意識を感じられている」「サマーボランティアは、全校生徒が参加した。地域のために役立とうと、主体的に活動する感情を育むのに効果が見られた」という成果を手にしています。自ら地域に働きかけさせたことが成果を生み出しているのではないかと思います。

41 近野中学校区

「米作り結節点としての近露丸かじり体験イベント参加」というタイトルに、思わず何だろうと思ってしまいました。これもインターネットで検索し、おもしろいイベントであることが分かりました。

報告には「総合的な学習の時間に年間を通して行っている米作り」のことが記されていますが、注目したのは収穫したお米の活用方法でした。「近野フェスティバル・文化祭の育友会主催のパパママランチや女性会のバザーの食材として提供」した外に、「近露丸かじり体験イベントに全校で参加。山形屋さんに場所をお借りし地域の方々の指導のもと、餅つき・餅握り・販売の体験をした」とありました。それは「地域の方への米作りの感謝の気持ちと米作りの結節点として餅つきをして、餅の販売で参加」したのだそうです。近露丸かじり体験実行委員会からは「中学校も参加していただき、地域が高齢化していく中で若い力の子供達が地域の行事に参加して頂けることは、将来への大いなる希望となりました」とお礼があったそうです。

報告は「これも学社融合の成果。今後もこういう関係であり続けたい」と結ばれています。

42 大塔中学校区

久々に「ATOM学習」「大塔リフレッシュ大作戦」の文字を目にしました。田辺市に通いだして間もなく「ATOM学習」「大塔リフレッシュ大作戦」の活動を耳にし、

心に覚えた感動は今でも忘れません。その実践が、その後も継続され深められていることにまた感動しました。「地域の児童生徒や身近な人々に呼びかけをし」「中学校3年生（9年生）が中心となって計画」「保護者・地域の老人クラブなどからも多くの参加をいただき」「一緒に清掃活動をする」「自分たちの地域は自分たちできれいにし、自分たちの地域を大切にする」「将来、社会への参画を意識させる」など、一つ一つが子どもたちの将来を考え、地域の未来を想う重い言葉だと思います。

「生徒の感想には、地域のこと、地域の人々との交流のこと、小学生との交流のこと、来年に向けてのこと、ゴミ問題のことなどについて前向きな感想が多く、地域についてや環境問題について考える良い機会になっている」そうですが、長年に亘り積み重ねてきた実践であることを思えば、子どもたちがそのような感想を述べることも当然のことであると考えます。

今後のことで「3年生が中心に計画から実施まで行っているので、3年生に対する負担が大きくなっている」ことを挙げていますが、負担や負荷なくして子どもの成長はないとも言われますので、今のままで良いのではないのでしょうか。

43 本宮中学校区

「音無の里地域共育コミュニティ」として取り組んできた「プランター花植え」の実践が報告されています。「プランター（220個）にパンジーの苗（660本）を植える。1年～土づくり。土をふるって石などを取り除き、新しい土と混ぜ、プランターに入れる。2年～苗植え。根をほぐしながら、プランターに苗を植える。3年～配布・設置。国道沿いや道の駅などに、プランターを運び、設置する」という活動を通じ、「観光地である本宮地域を訪れる方々へのおもてなしの心を育むことができた」と述べられています。観光地という地の利を活かした素晴らしい実践だと思います。

「事前の打ち合わせなど、学校と公民館他、地域の方とのコミュニケーションの場が増え、信頼関係を深めることができた」とのことです。「学校支援地域本部事業の指定は今年度で終了するため、費用の工面等の問題があるが、音無の里地域共育コミュニティとしては、プランターの花植えと地域への配布・設置の作業は、今後も継続していきたい活動の一つである」と考えているとのこと。地域に生きる、地域に活かされる中学生を育てるためにも、今後も継続してほしいと思います。

44 新庄幼稚園区

しばらくぶりに目にした「「ぎおんさんの夜見世」の実践報告ですが、さらにバージョンアップしていると感じました。特に、「園児と保護者が共に地域の行事に参加することで親子のふれあいを広げる」「作品作りを通して、親子のコミュニケーションを図る」「親子でイメージした物を具現化していく楽しさを味わう」「地域の伝統文化継承の担い手養成を園児だけではなく保護者も巻き込んで進めていく」「作品の制作過程での親子や地域の方々との触れ合いを大切にする」と、保護者の参画を進めたことはとても意義深いと思います。

具体的活動については、「本園に通っている子ども達の家庭は、長年新庄地域に住んでいる方もいるが、転居されて新庄に来られた方もおられ、「ぎおんさんの夜見世」の由来などを知らない方も見受けられる。そこで公民館や地域に住む講師に協力を願い、親子で「ぎおんさんの夜見世」の由来や、生野菜や乾物などで作る方法を教えて頂いた。

またPTAの役員や母親クラブの方々の理解や協力を得て、作品の材料集めやアイデアも出して頂いた。そして親子で実際に作品を作ることで、「ぎおんさんの夜見世」に対する興味や関心が深まり、みんな（地域の方、保護者、園児）で「ぎおんさんの夜見世」という共通の目的に向かって取り組む楽しさや、身近な素材（野菜や木の実など）でイメージした物を作るおもしろさを味わうことができた」と記されています。

報告にある「子どもの作品を通して客観的に伝統行事に触れていた保護者だが、今回実際に自分も子どもと一緒に制作することで主観的に考えることにつながり、視点を変えて伝統文化を見たり、伝統文化を支える一員になれたというような連帯感や充実感も味わえたと思う」という一文は、多くの示唆を含んだ文章であると思います。

45 三栖幼稚園区

三栖幼稚園区の報告に素敵な言葉をたくさん見つけました。その一つをそっくり引用します。

「中学生に『園児との交流は自分自身の成長により影響があると思うか。』というアンケートをとったところ、『あてはまる。』という答えの割合が1年生より2年生、2年生より3年生というように、学年が上がるにつれて高くなっていて、3年生では約8割強の生徒さんが『あてはまる。』と答えたといううれしい報告を受けた。これは、日頃の交流の深まりと比例しているのではないかと思われる。中学校の先生方、生徒さんの意識の表れを、保護者や地域の方々にも啓発し、今育ちつつあるこの学社融合の芽をさらに広げ、深めていけるような工夫に努めていきたい。」

三栖幼稚園と衣笠中学校の協働には、毎回、感動させられています。今回報告があった「にこにこまつり」も同様でした。その感動は三栖幼稚園と衣笠中学校の教育力、指導力の高さからもたらされるものです。

三栖幼稚園の報告には、田辺市の学社融合の成果が凝縮されていると思います。

46 上秋津幼稚園区

「グラウンドゴルフ参観日～参観日とグラウンドゴルフ愛好会との交流をリンク」から、「今まで気づかなかった問題点と成果が見られた」とのことです。その問題点とは、「交流活動などの保育公開の場を多く設けているが、最近の保護者は就労や趣味などで参観日が増えることを必ずしも喜んでいない」「地域に住む園児の祖父母の中にも、地域のサークルや活動のことを知らない方がおられる」です。そして、成果は、「公開して参観するだけでなく一緒に活動することで、地域の方との触れ合いが生まれ、活動の楽しさが味わえることがわかった。今回も『グラウンドゴルフって面白いなあ。』『こんな練習はいつやりやんの。』といった声があり、サークルの方も活動を紹介して『是非、気軽に参加してください。』『一緒に楽しみませんか。』と呼びかけを行う場となった」「地域の公立幼稚園として、未就園児の保育など地域のセンター的な役割を担うべく努力しているが、新しい方向として、職員や園児だけでなく、保護者や祖父母も住民として地域と繋いでいくきっかけ作りのひとつとしての幼稚園の在り方も考えられるということに気がついた。園児にとっても地域に関わった家庭環境の中で生活が豊かになり、見守られる安心感も得られる。また、一般的に老人会や町内会組織のメンバーの広がりが見られにくいと聞くが、地域にとっても新しい人材の確保につながる利点があると思われる。」でした。

幼稚園や学校が地域と協働することで地域が活性化すると日頃から思っていますが、上秋津幼稚園の実践報告を読み、それはやはり間違っていないと思えました。

47 中芳養幼稚園区

中芳養地区の中芳養まつりと中芳養幼稚園の関わりを考察した報告です。5歳児による実践ですが、中芳養幼稚園が5歳児に求めたことは、「園児が地域やみんなのためにできることを考え、人の役に立つ喜びを感じる」「地域のために役に立つことを考えたり、地域の人たちに自分たちからはたらきかけていく」「夏まつりを地域の人に知らせる方法を考えたり、それに向かって友だちと力を合わせて取り組む」「ポスターを地域の拠点に貼ってもらえるように子ども達が依頼に出向く」などでした。

このような取り組みを継続することによって「幼稚園においては保護者の協力体制が毎年恒例となり引き継がれ、準備や盆踊りを自分達のできることを楽しみながらという好循環がみえている。園児も『大きい組さんになったら自分達も…』『今年は自分達が活躍する番だ。』という流れの中で引き継ぎがうまく進んでいる。これからもこの循環サイクルが続いていくように進めていきたい」とのことです。

「地域に関わる」とは何かを改めて考えさせてくれる実践報告になっています。

III おわりに

今年も質の高い学社融合の実践に触れることができました。それぞれの学校・園区の実践から、学社融合の今後への多くの示唆を学ばせて頂きました。

中でも、昨年につき、4つの幼稚園区の実践には心から感動を覚えました。その一つ、三栖幼稚園の実践記録から言葉を引用させていただきます。

「本園の子ども達は、誰かが来園すると、『こんにちは』と元気に挨拶をして気軽に話しかけたり、喜んだり、人とかかわることが好きになってきている。中学生や高齢者、未就園児との交流においてもその姿は随所に見られている。これは、まず園内においてクラスの友達、そして異年齢とのかかわりが深まり、お互いを思いやり、認めあえる、そういう土台が出来上がっているからこそ、園外に目を向けられるようになり、地域の方々とかかわりにうまく循環していると感じられる。」

「特に隣接している衣笠中学校とは授業と保育のコラボレーションをはじめ、日々の交流も沢山させていただいている。ただ単発的な交流ではなく、事前の打ち合わせは勿論のこと、お互いにこういう力を育てていきたいというねらいを持ち、一つ一つの交流自体は同じであっても、内容に膨らみを持たせたり、工夫を加えたりして、無理なく交流することができている。また、意識して取り組みを進めることで交流の質がどんどん変化して、温かな交流が深みを増してきたように感じている。」

「園外に目を向けられる」「事前の打ち合わせは勿論のこと、お互いにこういう力を育てていきたいというねらいを持ち、一つ一つの交流自体は同じであっても、内容に膨らみを持たせたり、工夫を加えたり」「意識して取り組みを進めることで交流の質がどんどん変化して、温かな交流が深みを増し」という言葉には、日頃の実践を見つめ直す点が示されていると思います。

長年に亘る取り組みは実践に深みをもたらします。しかし同時に、長年に亘る取り組みは実践を進める熱を奪ってしまう危険性も増大させます。今後の取り組みを考える時、三栖幼稚園の姿勢に学ぶところが多々あるように思います。